

成蹊會誌



2009.7 No.109 SEIKEI ALUMNI ASSOCIATION

第32回

成蹊桜祭



第

32回成蹊桜祭は今年も4月第1日曜日の5日に開催されました。

例年より1週間も早い開花宣言だったため、桜祭まではもたないと思われていた桜でしたが、その後寒い日が続いたおかげで、桜祭を満開の桜で迎えることができました。心配だったお天気も、ついに曇りのち晴れと好転していき、昨年と同様、満開の桜を青空の下で楽しむことができました。

今年は改修工事で大館への立ち入りは出来ませんでした

が、レンガの張替えが行われて少しモダンに変身した本館のきれいになった外観をご覧いただけたことだと思います。

参加団体が増えたためメイ、インステージのA、Bに加え、昨年からは第3ステージ、第4ステージを設けましたが、今年はこれも更に充実。桜祭は年々進化していると言えるでしょう。

また、お気付きの方もいらっしゃると思いますが、池袋から移植した桜も既に樹齢80年を超え、根が踏まれたりしたことで樹木がかなり傷んで

られ
本館
ご覧
ます。
メイ
、第
、第
、第
桜祭
える
らっ
池袋
齢80
りし
んで



きていますので少しずつメンテナンスを始めています

オープニングを飾ったのは今年も勇壮な小学校太鼓部の和太鼓でした。

高橋桜祭実行委員長の開会挨拶に続き、新たに就任された専務理事のご挨拶、中高の校長をはじめとする新任の方々の紹介が行われました。さらに相川会長の挨拶に続き、第32回桜祭のパフレットの表紙デザインに採用された高校2年生の齋藤満里奈さんへ、図書券の贈呈が行われました。その後メインステージでは旧制高等学校有志、OBOOキメラ、軽音楽OBバンド、コンパルサウンドズOBの演奏、そしてミス成蹊の紹介に続き中高ウィンドオーケストラOB・OG、JAMZ、競技ダンス部、チアリーダー部、豊嶋映子ジャズライブ、ベンチャーズバンドとフォーシーズンズなど、お馴染みの演奏や演技が披露されました。1号館前の第3ステージで

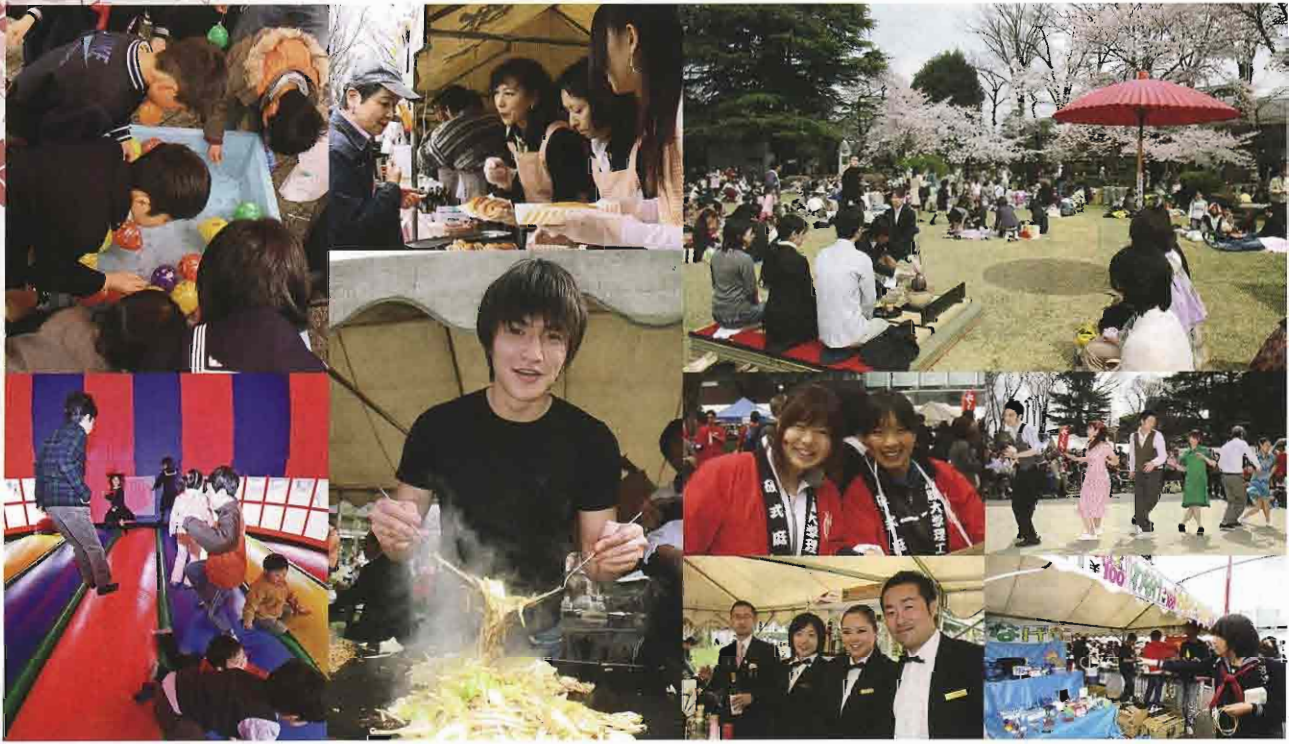
はモダンジャズグループ(MJG)のOBと現役による演奏、軽音OBバンドをはじめとするバンド演奏が行われました。お天気も良く満開の桜とのコンビネーションもパツチリでした。

4号館に設けられた第4ステージでは小学校の琴の合奏に続き、現役の混声合唱団とグリークラブOBが美声を披露し、さらにJAMZもストリートダンスを披露しました。

史料館に展示された写真会写真の数々は今年もまた見る人々の関心を集めていました。校内を見学する「キャンパスツアー」は近年新築された校舎が多いので、成蹊に入学を希望する方々のみならず卒業生にも人気がありました。

好天に恵まれたのでソーラーカーの充電も充分で、勢いよく良く走行しました。人氣のエアトランポリンには今年も大勢の子供達が集まりました。暑い中、記念写真のお供として人気者の着ぐるみ





も大活躍でした。お祭り広場は今年もたくさんの子供達で賑わい、茶道部の野点は満開の桜の中で艶やかさを醸し出していました。

動物はいつでも人気があり、馬場でのサラブレッド、ポニーの乗馬体験には場所が遠かったにも関わらず大勢の方が列を作り、縁起が良いとされる蹄鉄などグッズの販売が行われていました。また、盲導犬の歩行体験にも多くの方が参加されました。

メイנסテージでの最後の演奏はフォーセイイツで、最後に千代延桜祭実行副委員長の挨拶がありました。会場は盛り上がり、アンコールでは観客も一緒に「This Land is Your Land」を唄うというハプニングもありました。今年で32回目を迎えた桜祭は出店希望者も多く、年々規模が大きくなってきています。それに伴いボランティアとして多くの卒業

生や学生を必要とするようになってきており、会場の設営には知力のみならず体力がある屈強な体育会の皆さんの助けが必要不可欠となっています。

更に大量のゴミの分別や駐車場の案内、不測の事故に備えての待機などあらゆるところで現役の学生の皆さんにお手伝いをお願いしております。今年は何初めての試みで、こういった学生ボランティアと桜祭実行委員用に「桃李成蹊」と文字の入った赤と黒でTシャツを作成して着用しました。

特に男性用に作成した赤のTシャツは遠くからでもスタップであることが判るので好評のようでした。この場をお借りして桜祭の運営に協力をしてくださった学生の方々に深く御礼申し上げます。

第32回桜祭実行委員

水本桂子(文・57年)



計画的な 保存育成を！

(本文
16ページ)



老化がかなり進んでいます



幹は空洞化しています



今年植樹したトラスコン前の若木



今年も頑張って花を咲かせました



根元はガチガチに固められてしまいました



ホームページのご案内!

3月のリニューアルで
2つのコーナーを新設しました。

成蹊会ホームページ
<http://alumnet.ne.jp/>



過去に発行された
成蹊会誌等の一部を
PDFファイルで
ご覧いただけます。

同窓会・OB会等で撮影された
集合写真等の掲載及び写真の
ダウンロードができます。



成蹊會誌

2009年7月 第109号

表紙の題字＝故上條信山先生
表紙絵＝橋本 明（政経・27年）

巻 頭 第32回 成蹊桜祭

新時代の仲間を迎えて 成蹊会会長 相川一成

就任挨拶

専務理事に就任して ●加藤 節 / 4
文学部長に就任して ●門口充徳 / 6
法務研究科長に就任して ●萩澤達彦 / 8
大学副学長に就任して ●武藤恭彦 / 5
経済学部長に就任して ●藤垣芳文 / 7
中学・高等学校長に就任して ●両角雄功 / 9

特別寄稿

建国六十周年を迎えた韓国（日本との関係など） …………… 山中 厚弘 / 10

随 想

日本産蝶類分布図・成蹊生物研究会の業績 …………… 金井 弘夫 / 13

学校・年次会のつどい / 18

経済学部創設 40周年のつどい
法学部創設 40周年記念行事
大学卒業10周年
四学部合同新卒年次委員会
セントポールズ交換留学生壮行会
高校卒業45周年
高校卒業30周年
水上憲夫先生の米寿を祝う会
柳井ゼミの会
中学3年B組佐藤熙和先生
クラス会
成蹊小学校同窓会委員会
高校卒業40周年
はちのこ会
北京大学短期留学同窓会
大学卒業五十周年
清和会総会
桜祭船越会

体育会・文化会・OB会・

趣味のつどい / 28
蹊球会（硬式野球部OB）
体育会ハンドボール部
英語会総会OB会
高校地理研究部OB会
大学ラグビー入れ替え戦

ラグビー部卒業生を送る会
体育会蹴球部
競技ダンス部OB会
写蹊会秋季撮影会
写蹊会写真展

業界・企業のつどい / 33

三菱東京UFJ銀行成蹊会

地域のつどい / 33

タイ成蹊会
オーストラリア・
クイーンズランド成蹊会
上海成蹊会
北海道支部「枯林忌の集い」
秋田成蹊会
埼玉成蹊会
渋谷成蹊会
八王子成蹊会
神奈川成蹊会
三重成蹊会
長崎成蹊会

同窓のつどい

表紙絵の言葉 / 9

叙 勲 / 12

成蹊ラビリントス / 15

計画的な保存育成を！ / 16

太刀川瑠璃子さんを偲ぶ / 17

予 告 / 38

寮歌祭 / 39

東海学生会例会で根本智君が
講演

新聞・雑誌コラム / 40

浅沼健一氏 / 長谷川泰三氏 /

榎原 稔氏・栗田恵輔氏 /

成蹊中学・高等学校

物故会員 / 47

退職挨拶 / 48

成蹊会学術・教育助成事業研
究助成報告の要旨 / 50

成蹊会事務局からのお知らせ
/ 55

成蹊会の母校支援事業に
ご協力を / 56

平成20年度 寄付金芳名録 / 57

成蹊会事業報告 / 58

成蹊会活動報告 / 61

地域同窓会連絡先一覧 / 62

成蹊会事務局からのお知らせ
/ 55

成蹊会の母校支援事業に

体育会・文化会・OB会・

神奈川成蹊会

三重成蹊会

山口成蹊会

新時代の仲間を迎えて

成蹊会会長 相川一成

卒業式を間近に控えたこの三月。二〇〇八年度大学四学部卒業生の中から選出された年次委員の方々と懇親の場を持った。従来年次委員は各学部部長に数名を推薦していただいていたが、ここ数年はさらに体育会や欒祭、新聞会などで活躍していた人達にも加わってもらい、今年の年次委員は約四〇名もの人数になった。成蹊会の歴史、現状と年次委員の役割を話したあとの懇親会では四学部同窓会長や役員など先輩達との交流がはかられ、各学部代表と学年代表を選出し、今後の活躍と再会を約した。

この二〇〇八年卒業生こそが二〇〇五年に導入された一〇年会費前納制度の記念すべき最初の世代である。すでに二年



前大学院を卒業した人達や昨年の高校卒業生については、一〇年会費制度が発足している。今年は一挙に約二〇〇〇人強が一〇年会費納入会員となった。大歓迎である。毎年この人数が正会員として増えてゆく。同時に年次委員が組織されて充実していけば、卒業一〇周年の記念同窓会にも多くの人が集まってくれると思うととても楽しみなことだ。ちなみに卒業一〇周年記念同窓会は今年で五回目となり、参加者は二三〇名と過去最高であった。

一〇年会費納入者の彼らが一〇年経過した後、その後の会費をどう集めてゆくかは次の問題。そして昨年以前の全卒業生もこれからの世代にオンブしてしまうのは恥しい。会員の義務として成蹊会会費納入をきちんとお願いしたい。

さて約一・五倍に増えた納入会費をどう運用していったらよいのか。活動経費に余裕がなく、なかなか拡大できなかつた成蹊会にとって新たな拡充の機会が与

えられたのだ。その解決に向け二〇〇七年度から「活動検討プロジェクト委員会」の八人のメンバーによって討議され、二〇〇八年十二月に答申書が私に手渡された。

彼らは精力的に毎月一〜二回各自の仕事を終えた夕刻から深夜まで、コンビニ弁当だけで激論を交わし、その日の整理は自宅に持ち帰り、翌日には全員に配られ、次の会合に備えてくれた。

委員会の前半は成蹊会の「在るべき姿」の模索に時間が割かれた。成蹊の卒業生であり、成蹊会の会員であれば誰でもが頭に浮かびなんとなく判っている、簡潔にまとめられ、文章化されたものはなかったものと思われる。ここにこれを会員に開示し今後の行動指針としていただきたいと思う。(次頁枠組)

答申の後半は「卒業生の親睦」と「学園への支援」という成蹊会の二本の柱とそれを推進するための組織について、その「在り方」と「在るべき姿」と個々の活動の充実、新たな展開につき具体的に考え方を示されている。

実現には相当な準備、時間、エネルギーを要するものもあるが、直ちに実現可能で実効性のあるものから手をつけ予算化してゆくことにしたいと考えている。



活動検討プロジェクト委員会のメンバー

周年行事や同窓会活動など定着してきたと見えるものの、実際のこれまでの活動は経費がないがためもあって、十年一日のごとく延長線でのものにとまどっていることが実に多いのに気付く。学生や先生方への支援についても、もっと望まれていること、喜んでもらえることがまだあると思われる。連携を深め、現場の声もきいてみたい。一〇年会費を前納してくれている学生達への成蹊会への関心の醸成、地域成蹊会と本部との連携、同期や同窓会の垣根をこえた先輩後輩との交流など、これからの時代にフィットし



同窓会活動の、実現がため、に多いの、夜について、喜んで、れる。連携、に。一〇、子生達へ、成蹊会と、垣根をこ、からの時

た新たな展開を始める時期がやってきている。わずかな事務局長だけでは手に負えない。

特別委員会やプロジェクトチームに検討をお願いすることになろうし、さらに多くの会員にも参画していただきたい。

特別委員会に「成蹊桜祭委員会」がある。三〇年以上の歴史があり、ミッションが明確で学園からの支援もあって、そ

の年の反省会が終わると同時に次年度への準備がはじまる。力仕事も多いので若い委員も多いが常に進化している。この委員会で育ち経験を積んだメンバーがその後他の委員会等で活躍している人が実に多い。

ありがたいと思っているうちに今年も桜祭を迎えた。彼らへのご褒美は今年も満開の桜であった。

学園幹部交替

三月二十七日の学園理事会評議員会で七年間務められた岸曉理事長と三年間務められた橋本竹夫専務理事の退任が発表された。お二人とも成蹊のOBであり成蹊会会員。成蹊会に多くのご理解をいただき、ご支援いただいた。

卒業一〇周年記念パーティーの創設をはじめ周年同窓会や地域成蹊会にご出席されご挨拶をいただいた。

情報図書館はじめ多くの校舎、施設の

建設もお二人の時代であった。ここに成蹊会を代表して厚くお礼を申しあげます。

なお、新理事長には佃和夫氏（三菱重工業代表取締役会長、専務理事には加藤節法学部教授が就任された。

（政経・37年）

の時代で云を代表

理事長には（役員長）、役が就任

成蹊会の在るべき姿

成蹊学園を母校とする成蹊卒業生の集合団体が成蹊会である。この成蹊会が会員にとってどのような状態にあるのが理想なのか。本委員会では成蹊会・成蹊会会員の在るべき姿を下記の通り考えた。

(1) 成蹊会会員の在るべき姿

- ①成蹊会会員は成蹊学園に対する帰属意識を強く自覚するとともに、学園を卒業したことに誇りを持っている。
- ②成蹊会会員は「成蹊人」としての社会からの信用や評価を高めるよう自ら努めている。
- ③成蹊会会員は常に母校の社会的な評価が高くあることを願っている。
- ④成蹊会会員は世界各国・各分野・各層で大いに活躍しその評価も高い。
- ⑤成蹊会会員は母校発展のために積極的な活動を行っている。
- ⑥成蹊会会員は母校と協調して地域との融和に努めている。

(2) 成蹊会の在るべき姿

- ①会員の親睦
卒業生は地方から海外に至るまで組織化され、世代を超え楽しく気軽に参加でき懐かしい恩師や友人たちとの再会など旧交を温めたり、仕事や趣味のネットワーク作りなど新しい有意義な出会いをする機会が与えられている。
- ②育英・支援
在校生には充実した学生生活が送れるよう育英奨学、文化スポーツの部活動、就職活動等さまざまな場面で支援が行われており、結果として在校生の母校愛を啓発している。
- ③学園の後援
学園の教育研究の総合的発展と充実及び地域との融和のために支援を行っている。また、時に応じて学園の経営・教育に対して適切な意見や提言を行い、学園運営に反映されている。
- ④組織
上記のような活動のために、成蹊会内にさまざまな専門機関があり、多くの熱心な会員が参加し、積極的に活動している。また、豊富な人材の中から、公正に選出された人物がリーダーシップをとっている。以上を支える事務局は企画力、情報収集力、事務処理能力、交渉力に優れ、活発に機能している。
- ⑤財政
会費納入率は高い水準を誇り、会の財政は健全に運営されている。

以上を鑑み、成蹊会及び成蹊会会員のあるべき姿を本委員会は次の通り考えた。
「建学の精神のもと、学園に学んだことを自らと社会に対して大いなる誇りとする会員は親睦を図り、学園と一体となって育英後援を行い我国の教育進展に寄与する」
これを実現するための解決すべき課題を整理し施策を検討した。



2008年卒新年次委員会懇親会



専務理事に就任して

加藤 節かとう せつ

去る三月二十七日に開催されました理事会で成蹊学園専務理事に選任され、三月二十九日付で就任いたしました。二度目ということもあり、学者として温めてきたいささかの計画のこともあって強く固辞したのですが、佀新理事長を支えるとともに、前の経験を学園の将来のために生かしてほしいとの岸前理事長の深いお気持ちを汲んでお引き受けすることにいたしました。もとより非力ではありますが、お引き受けした以上、成蹊学園の更なる発展のために全力を尽くしたいと思っておりますので、どうか旧にも増して御支援下さいますようお願いいたします。

学園は、「成蹊学園二十一世紀将来構想検討委員会」が策定した構想に沿



って二〇一二年にめぐってくる学園創立百周年に向けた改革を次々に実現してまいりました。御存知のように、大

学情報図書館、小学校・中学校・高等学校の校舎の建築が、本格的な情報化時代への対応、小学校二十八人学級の実現、中高一貫化の強化といった教育内容の改革に対応する形で行われてきたのはその成果でした。また、豊かな国際感覚を身につけた人材を学園横断的な組織で育成しようとの理想の下に国際教育センターが設立され、着実な成長を遂げてきたことも、学園の歴史にとつて特筆すべきことでした。こうした改革を推進されてきたすべての関係者の方々、特にその先頭に立たれてきた岸前理事長、橋本前専務理事の御努力に敬意を表するとともに、募金活動を通じて学園改革への財政的支援を借しきれなかった成蹊会の皆様にかから感謝したいと思います。

このように、多くの皆様の御尽力によって学園改革が進む中で専務理事に就任した私には、佀理事長を補佐するということの他に、少なくとも三つの大きな任務が課せられているように思っています。第一は、これまで続けられて

きた学園改革の一つの区切りとして、三年後にやってくる学園百周年記念の行事に積極的に取り組むことです。この行事は、学園改革の成果を内外に示す絶好の機会でもありますので、プロジェクト・チームを直ちに組織して、計画案の作成に着手したいと思っております。第二の任務は、この間の改革事業で消耗した学園財政の体力の回復に努めることです。もとより、これまでの改革事業は周到な基金の積み上げの上で推進されてきましたし、募金からの少なからぬ裏づけもありましたので、それによって学園の収支バランスがマイナス方向へ大きく傾いたということはありません。しかし、現在の学園財政には直ちに次の大規模な事業を始めるだけの余力は残されておりませんので、無駄な出費を極力抑えながら引き続き学園財政の健全化に努力しなければと考えております。

私に課せられた第三の任務は、成蹊の歴史が新たな段階に入る二〇一二年以後、学園全体として目指すべき方向に大きな道筋をつけることかと思っております。世界の変化、日本の変容を見極めながら、成蹊学園を真に个性的な教育・研究の場へと更に飛躍させるためにどうしたらよいかの検討に入らなければならぬと思います。もとより、これは卒業生の皆様を含む全学園が総力を挙げて取り組むべき一大プロジェクトです。その点を踏まえて、ま

ずは学園の将来像を探るためのチーム作りから始めたいと考えております。以上、思いつくままに、課題として考えられるものについて述べてまいりました。言うまでもないことですが、それらは多くの皆様の御協力をいただかなければ到底達成できない難題ばかりです。卒業生の皆様に対しまして引き続き学園運営を御支援下さいますようお願いして、私からの就任の御挨拶といたします。

略歴

昭和19年5月	長野県生まれ
44年6月	東京大学法学部卒業
49年3月	同大学院法学政治学研究科博士課程修了(法学博士)
4月	成蹊大学法学部専任講師
57年4月	同法学部教授
平成2年4月	成蹊大学アジア太平洋研究センター所長
5年4月	成蹊大学国際交流センター所長
8年4月	成蹊大学法学部部長
12年4月	同大学院法学政治学研究科長
18年4月	成蹊学園専務理事(18年3月まで)
21年3月	日本学術会議会員(現在に至る)
専門分野	成蹊学園専務理事 政治哲学

来像を探りたいと考

つくまき
のについ
までもな
の皆様
の皆様の
底達成で
生の皆様
営を御支
、私から

大学副学長に就任して

武藤 恭彦

このたび大学に副学長制度が導入されることになり、4月から就任いたしました。栗田学長の補佐役として力及ぶ限り職責を果たして参りたいと思いますので、よろしくお願いを申し上げます。

現在、かなり多くの大学で副学長制度が導入されつつあり、大学設置基準にも副学長の設置を半ば予期する規定が入りましたが、これにはいくつかの理由があると思われれます。一つは研究資金（特に、公的な研究資金）の管理を適正に行っていく上で、個々の研究者だけではなく大学としての責任を明確化すべきだとの要請が社会的に強く



なってきたことがあると思います。もう一つは、大学における専門教育の分極化が進行する一方で、導入教育や一般教養教育の重要性があらためて認識されるとともに、これを全学的・学部横断的に行うことも次第に増えてきたことがあげられます。本学で教年に渡って検討してきた「成蹊教養カリキュラム」の構想もこの例で、来年度からの実施を目指しているところです。

本学の副学長の主要な職務は以上の二つで、なかでも成蹊教養カリキュラムの責任者としてその運営にあたることになっております。このカリキュラムは文系・理系全ての学生・教員がひとつのキャンパスに集まっている成蹊大学のメリットを生かし、文理の枠を超えた幅広い教養を身につけることを目指すものです。

成蹊教養カリキュラムにはいくつかの柱がありますが、社会人として必要なコミュニケーション能力の育成、文系・理系を越えた幅広い視野と知識の

修得が大きな目標となっています。このため、一年次の「基礎演習」を全学部必修で実施して大学における基本的な学習のあり方を学ぶことを手始めに、伝統的な教養科目と情報処理能力の育成のような現代的科目とを適切に配分したカリキュラムを編成いたしました。

英語力の育成には特に重点を置き、教員スタッフを増員した上で、社会で使えるきちんとした英語力を養成するための体系化したカリキュラムに沿って授業を進めて参ります。また、「日本語表現」などの日本語リテラシー向上のための科目を導入するほか、「成蹊を知る」、「ボランティア」、「環境と科学」、「キャリアプランニング」など多くの新規科目、近現代史や地域理解に重点を置いた国際教養関連の諸科目をいっそう充実する予定です。さらに、これまでは各学部で独立して授業が編成されてきたため生じていた、文系学生（理系学生）に履修可能な理系教養科目（文系教養科目）が非常に制限されるという難点が大幅に改善されます。

成蹊教養カリキュラムの実施まで、残すところあと一年となりました。このカリキュラムの実施のためには、全学の教職員が学部や各セクションの間

の枠を越えて密接に協力して行く必要があります。同窓生の皆様の暖かい御理解と御支援をよろしくお願いを申し上げます。

略歴

1970年4月	東京大学経済学部卒業 東京大学大学院経済学 研究科 ジュネーブ大学国際 研究所博士課程 (PhD取得)
1988年4月〜現在	日本経済研究センター 研究員 東京経済大学助教授 を経て 成蹊大学経済学部教授
(2000〜2004)	学園専務理事補佐
(2004〜2007)	学園国際教育センター 所長
(2007〜2009)	経済学部長

月	東京大学 東京大学 研究科 ジュネ 研究所 研究員 (Ph 日本経 東京経 を経て 7月〜現在 成蹊大 2004 学園専 2007 学園国 所長 2009 経済学
---	---

文学部長に就任して

門 口 充 徳

本年4月より、中里明彦前学部長の後任として、文学部長に就任いたしました。高邁な教育理念や顕著な研究業績とはあまり縁がございませんが、

微力ながら仕事をつとめさせていただきたく存じますので、ご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

文学部は、2000年度に文化学科学科を母体として国際文化学科と現代社会学科を設置することで、既設の英米文学科と日本文学科を含めて4学科体制となり、10年目を迎えております。すでに2004年度にはカリキュラムの大幅な改編も実現させ、今後は、2010年度に導入が計画されている全学



共通の成蹊教養カリキュラムと既存の文学部カリキュラムとの連携を図っていくことが課題となっております。

成蹊大学で教員生活を始めた頃のカリキュラムは、今から考えると、とてもシンプルなものでした。前年度の『文学部履修要項』などは、300ページほどあり、付録として「教務用語事典」なるものも付加されております。授業内容を記したシラバスはインターネットで公開され、学生は自分の成績をネット経由で知ることになります。

それでも文学部には変わらないものがあります。いわゆるゼミにあたる演習科目が全学年で必修となっており、このクラスわけに対応したかたちで指導教授をとっております。そして同一の指導教授のもとで、全員が3・4年の2年間をかけて卒業論文の執筆に取り組むこととなります。このような3つの仕組みをカリキュラムの根幹にすえて、学力の向上と人格の陶冶を教育目標にしてみました。

しかし自分をじっくりつくりこめば、

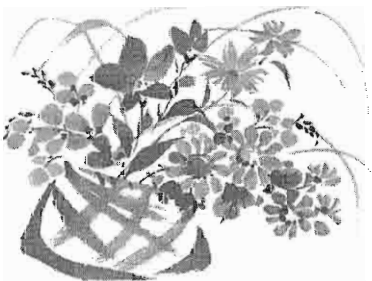
どのような場面にも対応できるはずですが、社会の複雑化や細分化は、より広範で専門的な知識を要求するようになってきており、文学部のカリキュラムの改編もつねにこの方向にそって展開されてきたと思っています。授業科目を充実させるだけでなく、他学科・他学部・他大学の授業科目の履修を可能にし、各種の資格課程も整備してきました。勉学の機会は、格段に向上しているように思います。

今、経済環境のみならず社会環境にも厳しいものがあります。かつて個人の安心感をささえた地域や職場、そして家族ですら、揺らいでいるとされていきます。われわれの知識や認識ですら、限界がしばしば暴露され、乗り越えられることもあれば、真実が見えてこないことすらあります。個人としては、目に見える数値を用いて管理される社会のもとで、自己利益のみからの順応が、当面の目標となりがちです。

こうした中にあっても、文学部の教育とそれを支える研究とが、引き続き他者との対話を促進し、自己の内省を深化させることで、個人の自律性と批判精神の獲得に寄与できればと考えております。

略 歴

1973年	大阪大学理学部高分子学科卒業
1976年	早稲田大学第二文学部社会専攻卒業
1978年	早稲田大学大学院文学研究科社会学専攻博士前期課程修了
1982年	同博士後期課程満期退学
1982年	成蹊大学文学部専任講師
1985年	成蹊大学文学部助教授
1992年	成蹊大学文学部教授
2006年	成蹊学園評議員・成蹊大学評議員



大阪大学	社会学専攻卒業
早稲田大学	社会学専攻卒業
早稲田大学	社会学専攻博士前期課程修了
同博士後	期課程満期退学
成蹊大学	文学部専任講師
成蹊大学	文学部助教授
成蹊大学	文学部教授
成蹊学園	評議員
成蹊大学	評議員



経済学部長に就任して

藤 垣 芳 文

このたび、武藤恭彦前学部長の後をうけて、経済学部長に就任することになりました。微力非才の身ではありませんが、経済学部、ひいては大学・学園の発展のために力を尽くしたいと考えております。

どうかよろしくお願い申し上げます。経済学部は、2004年、それまでの経済・経営の2学科の垣根を取り払い、経済経営学科の1学科に統合するという、学部はじまって以来の大改編を敢行しました。このときのカリキュラム改正では、基礎的・入門的な諸科目を入学初年度において重点的に学ぶ



ことができるよう配置するとともに、

2年次以降では、社会と環境、企業と戦略、組織と人間、金融と会計、経済と政策の5つからなるコース制を採用し、各コースにはテーマに即して経済学・経営学の専門科目群とともに一部の教養科目群も配置、学生は自由に選択するいずれかのコースに所属して、自らの問題意識を深めるとともに体系的な学修ができるよう目指しました。

こうした改正を行つたのは、従来のように既成学問分野としての経済学・経営学の専門原理を分断的に学生に押しつけるのではなく、むしろ学生の主体的志向に則しつつ、幅広い教養で裏打ちされた専門知識や技能を修得させ、総合的・包括的視点から社会を観察し問題解決できる能力を涵養することが、今日の経済学部教育に求められていることと考えたからに他なりません。この改正から数えて今年6年目を迎えようとしています。新体制のもとで既に2回の卒業生を送り出し、今やその成果が社会から評価判定されよう

とする局面に入っておりますが、私たちの当初の考え方は今でも変わらない、むしろボーダレス化が急激に進展しますます複雑性が増した今日の社会にあつては、その意味はますます大きいて考えております。学生がより強く主体的に興味を抱き、より真剣に学ぶことができよう教育環境を整えられるよう、経済学部のカリキュラムの一層のブラッシュアップに努めてまいりたいと考えております。

もちろん大学教育の質の向上は、単に教育技術の向上だけで可能になるものではありません。それは、学術的な研究面で、ひとりひとりの教員がどこまで実績を上げるかにも大きく依存するものです。経済学部教員が各自の専門研究分野においてその優れた才能を発揮し、その成果を学部教育や大学院教育のなかに活かしていける環境をできるかぎり整えて参りたいと考えているところです。

ご承知のように、成蹊大学経済学部は、1949年創設の政治経済学部を母体として、1968年に開設されました。それから数えると今年41年目になります。昨年末には、学部同窓会をはじめ関係する数多くの皆様のご協力を賜りまして、40周年の記念式典を

盛大に催す機会を得ることができました。政治経済学部の開設からみれば60年、この間、数多くの有為の方々が社会に巣立られ、各方面で活躍しておられます。これまで経済学部の発展のためにご尽力いただいた全ての方々から御礼を申し上げるとともに、経済学部の一層の発展のため、今後とも皆様の暖かいご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

略 歴

1953 (昭和28)年	岐阜県生まれ
1976 (昭和51)年	一橋大学経済学部卒業
1978 (昭和53)年	一橋大学大学院経済学研究科 博士課程前期卒業
1978 (昭和53)年	経済学修士
1981 (昭和57)年	同 博士課程後期修了
1981 (昭和57)年	成蹊大学経済学部 専任講師
1984 (昭和59)年	同 助教
1990 (平成2)年	同 教授
専門分野	理論経済学、公共経済学、環境経済学

会を得、学部の間、数多くの、各方面、まで経済、たいたい、し上げ、発展の、支援と、し上げ、

法務研究科長に就任して

萩澤達彦

成蹊大学法務研究科（法科大学院）

は、成蹊教育が設立当初より中核としてきた個性重視の「人格の陶冶」を法曹教育においても実現することを目指して、二〇〇四年四月一日に発足しました。二〇〇九年四月一日で、ちょうど発足後五年が過ぎたことになりました。その間に新司法試験が三回実施されましたが、他の小規模校と比較すると、優れた結果を出してきたといえると思います。そういう意味で、本法務研究科は、法曹となるにふさわしい基礎的かつ体系的な学識を修得させることに



ついては十分な成果をあげてきたといえるのではないのでしょうか。

もともと、本法務研究科は、試験の合格のみを目指しているわけではありませんが、本法務研究科の教育目標は、人の気持ちや痛みを理解でき、豊かな人間性を基礎とした法曹としての職業倫理を身につけ、社会の様々な分野において活躍することの出来る人材を育成することにあるのです。そのために、成蹊の伝統である少人数教育を徹底し、教員と学生との交流、学生同士の競い合いを通じての人間の成長も期待できるように配慮されています。その結果、面倒見の良い小規模ロースクールとの評価も定まりつつあります。

しかし、新聞や雑誌の報道などで目にするところがあるかと思いますが、現在、ロースクールに対して、世間の逆風が吹いています。幸いにして今まで順調に発展してきた本法務研究科も、これからはこのような逆風にさらされることが予想されます。このような逆

風の生じる原因の一端が法科大学院側にもあることもあるでしょうから、逆風に過剰に反発せず改めるべきところは改める必要もあるでしょう。その際に、成蹊の伝統からして、教育的に譲れない核心的な部分は何かということをしつかり自覚する必要があると思います。そして、それを死守することが、本法務研究科のレベルを維持し、さらに高見に導くことになるものと信じています。

また、本法務研究科は、働きながら学びたい社会人の為に、平日の夜間及び土曜日を用いて、基本科目は勿論のこと、選択科目についても多くの科目を二重に配置して、昼間とほぼ同様の教育を受けることの出来る体制をとっています。このことによって、本法務研究科の存在意義を大きく高めているのです。この教育体制を維持していくために、教員達の負担はかなり重いものとなっております。このような負担に各教員がいつまで耐えられるのかを見極め、その負担を軽減するサポート体制を早急に構築することか、本法務研究科長にとって、一番の課題であると思います。

最後に、法務研究科棟はキャンパス

の外にありますが、本法務研究科は成蹊学園の一部であり、成蹊学園関係者全員をサポートするには成り立つてゆけません。今後とも皆様のサポートをよろしくお願いいたします。

略歴

1981年

北海道大学法学部卒業

学習院大学大学院法学研究科
修士課程

名古屋大学大学院法学研究科
博士後期課程（中退）

名古屋大学法学部
助手

関東学院大学経済学部
専任講師

中央大学総合政策学部
専任講師

同助教授

2003年
成蹊大学法学部
教授

2004年〜現在
成蹊大学大学院法務研究科
法務専攻教授

ですが、本
であり、
トなしに
後とも比
しいたし

入学法学部

入学大学院

入学大学院
期課程（一
入学法学部

入学法学部

入学経済

入学総合政策

入学法学部

入学法学部

現在

入学大学院
教授

中学・高等学校校長に就任して

両角雄功

このたび、前任の谷正紀校長にかわり、本年四月に中学・高等学校の校長に就任することになりました。まことに微力ではありますが、先輩・卒業生のご支援を賜りまして、中学・高等学校の一層の発展に尽力したいと思っておりますので、よろしく願いたいと思います。

私は成蹊学園で小学校から大学まで過ごさせていただきました。大学卒業後は家業や会社勤めをしておりまして二十六歳の時に一念発起し、早稲田大学に学士入学しました。そして縁あって、一九八七年四月に成蹊中学・高等学校に着任し、本年は二十三年目の年に当たります。



現在、日本は変革の時代と言われており、今後、社会はいっそう複雑化・多様化するであろうと予想されます。

その中で生きていくための力は、中学・高等学校時代に身に付けた高い知性と教養と経験を基盤として養われることになると思います。この多感な時期をどのような環境でどのように過ごすかということが人格形成において重要な意味を持つと考えます。そこで中学・高等学校では、幅広い分野の学習多彩な行事、活発な課外活動により、生徒一人ひとりが自らの才能を自覚し、伸ばす環境づくりに教職員全員が力を注いでいます。

昨今、成蹊の中高生の日常生活に対する指導を強く学園の外から求められる場面が多くなりました。誠に残念なことだと思えます。生徒に対しては「挨拶」「けじめ」「身嗜み」の指導を今一度徹底し、「成蹊生だという誇り」を忘れずに行動してもらいたいと考えます。また、職場においても今ままで以上に教育・研究を大切にす雰囲気と

働きやすい職場を作ることから始めたいと思います。

教育のさらなる充実のために教育環境も整ってまいりました。一昨年は中学校校舎が、昨年は高等学校校舎が完成しました。私自身も成蹊に着任した当時を思い出し、中高生の中に混じって生活できる幸せをかみしめながら、精一杯仕事に励む所存です。

卒業生の皆様方にはこれまでに増すご支援とご鞭撻を切にお願い申し上げます。

略歴

- 1976年 成蹊大学法学部 政治学科卒業
- 1982年 早稲田大学教育学部 教育学科体育学専修卒業
- 1982年 早稲田中学・高等学校 講師
- 1984年 赤堀栄養専門学校講師
- 1987年 成蹊中学・高等学校教諭
- 1994年 成蹊中学・高等学校 生徒部主任
- 2005年 成蹊中学・高等学校教頭 成蹊学園評議員
- 2009年 成蹊中学・高等学校校長 成蹊学園理事・評議員

表紙絵の言葉

初夏の箱根寮

成蹊と箱根との関わりは、私の場合小学生時代に遡る。戦前の話ではあるが小学校低学年は夏休み前の一週間、夏の学校と称して仙石原の仙郷楼（旅館）に逗留し、乙女峠、金時山、長尾峠へと遠足に出掛け、野山に触れ合う楽しい日々を送る事が出来た。

長ずるに及んでは、岩崎さんの別荘であった現在の箱根寮で合宿し、芦ノ湖畔で櫓を漕ぎ和船を操った貴重な体験を思い出す。

さて今回は平成になり新築された箱根寮に赴き表紙絵を描いてみた。南棟二階の窓外には曇り空ではあったが、眼前に広がる広葉樹林と小高い丘が、更にその奥には箱根を代表する駒ヶ岳が聳え、神山へと連なるなだらかな稜線が広がりをを見せていた。鬱蒼とした木々の生い茂る広大な敷地を散策すれば、鶯を始め他の小鳥達の囀りが響き渡り、久しぶりに心癒される一時を過ごすことが出来た。

橋本 明（政経・27年）

紙絵の

夏の箱

低との関わりは遡る。低学年、低学年、子校と称し、逗留し、野山へと遠く楽しい

及んでは現在の箱根寮を漕ぎ思い出す。は平成に表紙絵窓外には広がるにその奥に聳え、稜線が広した木々束すれば響き渡る一時を

橋本 明

建国六十周年を迎えた韓国 (日本との関係など)

やまなか
山中 厚弘

本稿は平成20年10月22日開催の高等学校(旧制)同窓会委員会(於 ニュートーキョー、ラ・ステラ)で行われた講演を抄録したものです

今年、韓国も北朝鮮もちょうど建国六十周年を迎えました。北朝鮮の場合は、式典に金正日(キム・ジョンイル)が出てこないで、病気ではないかと新聞紙上でだいぶ騒がれております。韓国の場合は、李明博(イ・ミョンバク)大統領が出て、盛大な式典が行なわれました。

今日は、六十周年を迎えた韓国について簡単に歴史を振り返ってみて、私が感じたことをお話したいと思います。日本と韓国が国交を回復したのが、一九六五年、いまから四十三年前です。その後、私は社用で、韓国に何回か



訪れたことがあります。そのときの商売で、随分嫌な目にも合いました。ところが、それから二十年ぐらいいし、今度は韓国との合弁会社の責任者で行くことになりました。それ以来、ずっと韓国のことをウォッチングしてまいりました。

私は、最初が建国時代、次が軍事政権時代、三番目が民主化時代、四番目が革新政権時代、そして現在の李明博保守政権の復活。こういうこと、お話しします。

・建国時代(一九四八〜六二)

最初の建国時代ですが、李承晩(イ・スンマン)大統領が三期務めて、一九四八年から六〇年までやっております。その次の尹潽善(ユン・ボソン)大統領は、六〇年から六二年の二年間になっております。これを全部足しますと十四年で、この時代はほとんどが李承晩の時代でした。

李承晩は、李王朝の一族で、日本統治の時代、韓国独立運動をやっており、

アメリカに亡命して第二次大戦後、歓迎を受けて韓国に帰ってきました。非常な反日家です。「李承晩ライン」で、日本の漁船を次々と捕らえる、あるいは、いまの竹島を取り込むとか、こういう時代でした。

すごい反日家で、日本の統治下で日本に協力した人間を処罰しなければいけない、過去の清算をしなければいけないということだったので、実際に政治をやってみると、日本が残した官僚組織とか、警察、軍隊というものを使わざるを得ない。それを動かしていたのは親日分子だったので、実際にはほとんど処罰は行なわれておりません。

この李承晩の時代は、間に朝鮮戦争が一九五〇年から五三年まで三年間あり、国土は大荒れに荒れました。ですから、経済的にもどうしようもない。経済の原資になつたのは敵国人財産、日本が残した財産の払い下げとか、アメリカからの援助物資、こういうものを払い下げて経済が回っていたというような時代でした。

李承晩はこのような利権を生かして金権政治をやつたので、非常に国民の反感を買ひ、結局、アメリカに亡命せざるを得なくなったということです。その後、尹潽善大統領になるのです

が、この時代は本当に短い。すぐ朴正熙(パク・チョンヒ)の軍事革命がありましたから、実質一年です。この時代は、韓国の政治の上では珍しく内閣責任制でした。実権は張勉(チャン・ミョン)総理が持っており、親日家で日本のことを非常に研究し、経済開発五カ年計画などをつくっております。日本は池田内閣で、所得倍増計画というものが始まり、この政策をものすごく勉強して、経済発展のための計画をつくつたのです。ただ、この政権は、朴正熙の軍事革命によつてすぐ取つてかわられたのです。

・軍市政権時代(一九六三〜七八)

軍市政権は、文字通り軍人が牛耳つたのです。朴正熙は、日本の陸軍士官学校出身で、知日派です。酔っぱらうと日本の軍歌・詩吟とか浪花節を歌つたといわれるぐらいで、日本のことは非常によく知っている男です。

朴正熙と二期後の大統領の全斗煥(チョン・ドファン)、その次の大統領の盧泰愚(ノ・テウ)、この三人は、士官学校を出た軍人、出身は皆、慶尚北道の大邱の近くで、地縁・学縁というもので全部つながっています。

朴正熙の後、崔圭夏(チェ・ギュハ)大統領、ソウルの春といわれて、非常に人権が復活しましたが、一年ぐ

は本当に(ヨンジ)、実質一年、政治の上で。実権はが持っており、非常に研どをつくり、このり、この経済発展す。ただ、革命にとです。

代(一九、文字通、正熙は、知日派で、詩吟とぐらいいつてい一期後の(アン)、・テウ)た軍人、近くで、つながつは、崔圭ソウルの復活しま

らいです。その後が続いたのが全斗煥です。この朴正熙から全斗煥の時代が軍事政権時代で、これが二十五年続いて、前の三分の二が朴正熙、後の三分の一が全斗煥です。

この時代の特徴的なことは、経済が飛躍的に発展したことです。これが、あらゆる抵抗勢力を弾圧して行なったというところに、非常な特徴があります。この下絵になったのは、張勉内閣がつくった、経済五カ年計画です。

この経済発展は、輸出重点の重化学工業化政策です。原資が必要ですが、それを日本に求めることにしたので。そのため、日本との国交を正常化させ、いわゆる請求権で無償三億ドル、有償二億ドルを得ました。当時の五億ドルというのは、日本としても思い切った出しておりま。

この五億ドルを原資にして、重化学工業化政策を進めたのです。浦項製鉄などは、そのときにできたのです。鉄鋼、造船、石油化学、合成繊維、これらの産業の青写真をつくって、強引に進めたのです。日本からの技術導入、資金も入れるということで、完全に日本の援助（というところ）は怒るでしようけれども）で進められたのです。労働者の活動や福祉などは完全に犠牲にされたのです。マスコミは弾圧し、

新聞は全部検閲ですから、変なことは書けないということです。

喜ばれたのは、ヤクザの撲滅ぐらいでした。ヤクザを全部集めて強制労働させたというようなことで、治安は非常によかったです。金大中（キム・デジュン）事件というのはこの時期です。軍事政権末期になりますと、日本の合成繊維は輸出量でかなわない、韓国のほうがずっと上になっていました。

最新鋭の設備を一番いい立地のところに造り、人件費は当然、向こうのほうが安い。労働基準法は日本よりずっと緩いので、三交替に若い女性を使え、また日本からの技術導入で研究費の負担は、ほとんどないのです。コスト的には非常に安くなる。これは鉄鋼などでも同じことです。

あのころは、「金来日帰」という言葉が流行りました。日本の技術者が金曜日の夜来て、日曜日には帰る。要するに日本の技術者を呼んでどんどんやっていく、こういう時代です。

所得は、李承晩のころの百ドルそこそこ程度から、三十倍ぐらい上がりました。このころになると、強権政治は通用しなくなり、学生デモが非常に激しくなると、一般市民も加わるようになります。

・民主化時代（一九八八〜九八）

そこで、一九八七年全大統領が決断して、盟友だった与党総裁の盧泰愚に「六・二九宣言」といわれる民主化宣言をやらせました。学生達の主張を入れ人権復活、間接選挙制だった大統領を直選制に改める、反体制者の金大中を釈放するなどです。直選制に変わったその年の暮れの大統領選挙は野党が二つに割れ、金泳三（キム・ヨンサム）と金大中と二人でたものから、盧泰愚は漁夫の利を得て圧勝しました。

これから後、盧泰愚と金泳三の民主化時代となります。以降韓国では労働運動が今に至るまで活発になります。金泳三は保守党に鞍替え文民を標榜し大統領に当選しました。朴正熙、全斗煥、盧泰愚に続く人脈は大邱のTと慶尚北道のKをとってTK閥といわれますが、この軍閥を徹底的につぶしました。

・革新政権時代（一九九八〜〇八）

その後が革新政権時代です。金大中が僅差で当選、初めての革新政権になりました。盧泰愚時代から大統領は一期五年となり、民主化時代は二人で十年、革新政権も二人で十年となります。革新時代の特徴は北朝鮮と仲良くする方向に転換したことです。太陽政策から親北政策までに進みました。

援助も金大中時代は五億ドルぐらい

無償援助していたのですが、盧武鉉（ノ・ムヒョン）の時代になりますと三倍の十五億ドルぐらいです。相当北朝鮮を潤したはずですが、盧武鉉は経済無策といわれたぐらいで、経済の潜在成長力は低下してきました。

この後、今年二月からの李明博保守政権に変わります。

・二回の経済危機

韓国経済は軍事政権以来ずっと右肩上がりて推移してきましたが、二回経済危機に見舞われています。一九七九年朴正熙が暗殺された直後、オイルショックと政治不安から経済成長はマイナスとなり激しいインフレとなりました。中曽根内閣が誕生直後、韓国は四十億ドルの借金を日本から導入し、危機を乗り越えました。中曽根・全の日韓蜜月時代があったのです。

次は一九九七年東南アジアの通貨危機の時、韓国も危機に見舞われました。それまでの財閥放漫経営が破綻し、それが銀行に波及したのです。金大中は大統領に当選したばかりでしたが、提携していた保守系の金鍾泌を日本に派遣して援助交渉し、結局IMFから五百七十億ドルの借金を受けました。そのうちIMF、アジア銀行から三百七十億ドルぐらい、あとの二百億ドルの半分は日本が負担したのです。経済危

いたの
の時
ドルぐ
はずで
たぐら
してき
年二月
ます。
危機
軍事政
してき
われて
殺され
不安か
しいイン
閥が誕生
款を日本
ました。
あった
七年東
「も危機
閥放漫
及したの
したば
守系の金
（涉し、
の借款
「アジア
い、あ
負担し

機のために日本は韓国に手を差し伸べているのです。

・バイタリティーあふれる韓国の政治
韓国の政治を見ていると非常にバイタリティーを感じます。キッシンジャーが秘密訪中した米中接近の直後、朴正熙は敵対していた北朝鮮に腹心を派遣し南北共同宣言を発表し、米国に止められました。核兵器を開発しようとした。あれだけの軍事政権だった全斗煥は急に態度を変え民主化に踏み切りました。金大中のIMF改革も思い切ったものでした。

前任者や過去の否定は凄まじいものです。盧泰愚は全斗煥を山寺へ蟄居させ、金泳三は法律を改正してまで全斗煥、盧泰愚を裁く、盧武鉉は朴政権時代以前から日本統治時代に遡って「過去清算法」を作り、日本に協力した者を糾弾処罰しました。

・経済につきまとう不安感

韓国は日本を手本にして日本の後を追った経済でやってきました。その結果、輸出がGDPの大半を占め、輸出が増えれば増えるほど日本からの赤字が増えるという構造になりました。この構造は急には変えられません。経済は何か、ひ弱な感じがします。

今も米国でサブプライム問題などが起きてから、韓国では、IMF危機の

再来かということ、九月危機説などが大々的に新聞で報道されていました。韓国通貨ウォンは大暴落をされていて、大変な時代ですが、困るとまた日本に頼ってくるのではないかという気がします。

こういう韓国なのですが、地政学上、日本から見ると古来重要な国でした。民主化された韓国というのは日本にとって貴重な存在で、我々は、そういう目で韓国と付き合っていかなければいけないと思っています。

雑駁な話になりました、申し訳ございませんでした。これで終わらせていただきます。

(旧高・24年)

略歴

昭和25年 旧制成蹊高校理科二年修了

昭和29年 東京大学法学部卒業

昭和29年 旭化成工業(株)入社

昭和60年 6月〜昭和62年 8月

韓国 東洋ポリエステル(株)

代表取締役に出向

平成8年 旭化成工業(株)退社

現在 (株)旭リサーチセンター顧問

平成二十年度(秋) 叙勲受章者

(敬称略)

旭日中綬章

森田 嘉一 (政経28年) 京都市外大理事長

平成二十一年度(春) 叙勲受章者

旭日小綬章

杵屋巳太郎 (宮沢雅之・政経35年) 歌舞伎音楽長唄三味線演奏家

(本会調べに漏れがある場合には、お知らせ頂ければ幸いに存じます)

日本芸術院賞

(敬称略)

杵屋巳太郎 (宮沢雅之・政経35年)

邦楽、長唄、特に歌舞伎音楽の確実な伝承と優れた演奏技術に対して授賞。

平成19年に重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定される。

成蹊会誌106号特別寄稿欄に「桃李を自指して」との題名で
ご寄稿いただきました。

技術に對
られる。
題名で

りれば幸

長唄三味

随想

成蹊会誌用箋

日本産蝶類分布図・ 成蹊生物研究会の業績

かないひろお
金井弘夫

この『本』(『)をつけた理由は後

で述べる)は、日本産の蝶の全て217種類について、どの県に産するかを地図上に○で示したものである。A4版217頁+索引4頁、1959年(昭和34年)の作品で、編者は白水隆、作図者は当時生物研究会の部員だった三林耕士、橋爪義夫、岩田鉄士、船越眞樹、佐山恭正の5君(いずれも高校12、13回卒)である。こういう『本』を作るには、日本中の学会誌、昆虫目録、同好会誌などの記録を集・通覧・検討せねばならないので、たかが高校生では出来るものではない。

実は種本がある。

白水隆(編)『日本産蝶類分布表(折込表11枚+文献目録250頁、北隆館、昭和33年)』である。この本は、九州大学農学部昆虫研究室の白水助教の作品である。九大農学部は、当時日本の昆虫研究の中心だったから、文献が豊富に収集されており、それを利用して日本中の蝶類の分布を整理検討して、分布表としたものである。私はこの分布表を見たとき、「これは分布図にした方が面白い」と思った。この時代には「どの地域にどんな記録があるか」という目的意識が強く、生

物の分布パターンから自然環境との対応や生態を知るという意識は弱かった。

分布図にすると、たとえ日本に一カ所しか産しない種類でも、地図一枚を使ってしまうので、空白の多い頁をたくさん作るよりは、分布表にしてコンパクトにまとめるというのが常識だった。私は研究者としてはまだ駆け出しだったが、植物の分布図作りの面倒くささ

にいや気がさして、その道具としての地名索引の準備をしていたので、動物分野でも同じことが出来る素材を利用しない手はないと思った。とは言うものの、こういうことをやるには手間も暇もかかる。自分の仕事を放り出してやれるものではない。そこで、生物部員に持ちかけたら……と考えた。この仕事は県のまん中に○をつければよく、頭は使わなくて済むので、高校生でも中学生でもその気になればできるのである。少なくとも彼らにとつて、次のようなメリットはあると考えた。

一、何県が日本のどこにあるかという、地理の学習になる。
二、蝶の名前や種類について、理解が深まる。蝶の好きな子は多いから、やる気になるだろう。
三、蝶(というより生物)の分布

パターンが、日本の地形や気候と関係あることに気付く。

四、文化祭のネタになる。いつも直前までテーマが決まらず、バタバタしているの。

部室へ行って、たまたまそこにたむろしていた部員にこの話をしたら、興味を示した者がいたので、日を改めて有志が集まってもらい、分布表と白地図と○印ゴム印を渡して、とりかかってもらった。それが前記の5君だったのか、最後まで残ったのが5君だったのか、今では定かでない。

この作業は、文字としての県名を地図の上にマークするだけなのだから、誰が考えても「簡単だ」と思うだろう。日本の都道府県は47あるが、この分布表では例えば佐渡とか吉岐・対馬のように、県の中を細分したところがあつて、64地域である。蝶は217種類だが、分布が狭い種類も多いので分布点は半数として、マークの総計はせいぜい約6900、一人当たり約1300のマークを地図に打てばよい。それが彼らにとつてどんなに退屈な作業だったかは、40年以上経った今でも、生物部OB会で述べ懐する者がいるそうなのでわかるだろう。何カ月かかったか覚えていないが、ともかく彼らはやり終

が、日本
ることに
のネタに
テーマが
ているの
て、たま
員にこの
がいたの
てもらい
印を渡し
それが前
で残った
定かでない
文字とし
クするお
「簡単だ
県は47
佐渡とか
を細分し
ある。蝶
い種類も
、マーク
、一人当
図に打て
どんなに
以上経
懐する者
う。何と
、ともか

えた。途中で放り出しても不思議はないし、応援を頼んでもよさそうなのに、なにか使命感のようなものがあつたのだろうか。文化祭のネタにはならなかつたらしい。

彼らがやってくれたからには、結果をまとめねばならない。白地図に点を書き込んだだけのもので、しかも成書の翻案で議論もついていない、おまけにこの馬の骨ともわからない者の作品では、印刷出版などとても引き受け手はないし、若造の私にはそんなコネもない。原作者の許諾も得ていないのだから、公刊すれば、当時はなかつた知的所有権問題になるかも知れない。考えた末、白図に手書きのままを製本

することにした。当時はコピー機の機能がまだ十分ではなく、白地図のコピーはむづかしかつたので、彼らの作ったオリジナルを白地図にもう一度ゴム印を捺して作り直した。和名と学名の



索引を付加し、カナ文字タイプライタ

ーで序文をつけた。ワープロはまだない時代である。データの元は白水氏の文献だから白水隆編とし、作者は前記の5君とし、序文は私の名前にした。

「資料」を製本しただけで、印刷刊行したものではないので『本』なのである。その一冊を編者の白水氏に私の名前で贈った。白水氏にとって当時の私は、名前も知らない分野違いのチンピラに過ぎない。だから承諾も得ずに「白水隆編」と銘打った『本』を作られたことについて、寝耳に水で面白くはなかつたろう。私の若気の至りという他はない。結局、何の反応もなかつた。

15年ほどたって、日本植物学会の大会が九州大学で行われたとき、懇親会の場で突然「白水です。その節はどうも……」とご挨拶をいただいた。昆虫学者の彼が、植物学会の懇親会になぜ現れたのか、そしてなぜ面識のない私を特定してわざわざ声をかけてくれたのか、あの分布図以外には考えつかなくかつた。私はとつさきことでドギマギして、ろくなご挨拶も返せなかつた。受け取った当時の気分はともかく、15年も昔のことを覚えていて下さつただけでもありがたいと考えた。

1994年に国立科学博物館を定年

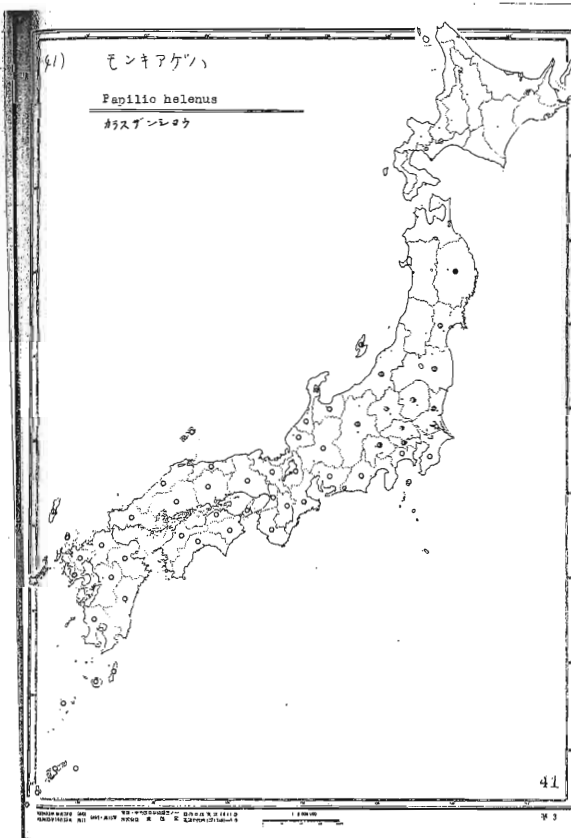
退職する際、この『本』を図書室(新宿分館)に寄贈した。今回この文を書くに当たって、記憶を確かめるために見に行つた。日本産蝶類分布図は、

日本産蝶類分布表と並んで保存されていた。ここで発見したことは、この分布図を専門家が閲覧しており、しかも意見が書き込んであることだつた。図書館の本に書き込みをするという行為は、非難されるべきことであるが、この『本』は出版物ではなく、むしろこういう書き込みによつて内容が一層豊富になる「資料」なので、歓迎すべきことである。ただしこの『本』が分布

図だからできることで、分布表では分

布パターンを直観できないので無理なのである。この『本』の存在はまだ全くと言ってよいほど知られていないので、本誌によつて公知のものとなれば、参照する人がふえることだろう。

この『本』は、わが国最初の蝶類の全国分布図として、将来評価されるだろう。だが、それを作つたのが高校生だとは誰も知らないし、成蹊学園生物研究会の作品であることも、どこにも書かれていない。あと何十年か経つて「どこの誰が作つたのか」と詮索する人が出て来た時のために、制作の経緯を残しておくことにする。いつの日か、



白地図に記された日本産蝶類分布図

ること

観できな

『本』の

日本産蝶類分布図が刊行されたとき、この『本』と比較すれば、日本の蝶類の分布がどれほど変化したか知らなかったかが明らかになり、環境問題や種分化の立場から多くの議論の種を提供するだろう。そのとき初めて、何も知らずに制作にたずさわった5君のご苦労が認められることになる。自然史の研究は、こういう息の長い仕事によって支えられるのだ。

この原稿の下書きを教師仲間の昆虫専攻者に見せたところ、蝶の全国分布図がすでにくつかの図鑑に示されていると知らされた。最も早いのは藤岡知夫・日本の蝶(1975年)である。われわれの分布図は、種類の存否を県別に示してあるのに対して、これらは産する地域を地図上に塗りつぶしてあり、しかも専攻者の手になるものなので、精細さも信頼性もより高い。これに16年先立つわれわれの『本』が、比較の対象になり得るものかを云々する前に、まず、一冊しかないこの『本』の存在と素性を記録にとどめておこうと、本誌をお借りすることにした。蝶類分布図の存在を教えて下さった薄葉重氏、久保田正秀氏に感謝する。

(旧高・24年)

成蹊ラビリントス

～私の推める本～

たかぎ ふみかず はつとはん きせき
『高本文一 初登攀の軌跡』

岡部紀正著 (新ハイキング社、本体価格1800円)

堀内 誠 (工・42年)



健康への関心が高まるにつれて、ハイキングを楽しむ人が増えています。休日の高尾山の人出は、新宿の繁華街並みとものごと。ハイキングをきっかけとして山登りを始められる中高年の人は多く、成蹊会の皆さんにも山歩きが好きな方がおられることでしょう。

「健康によく」「家族も一緒に楽しめる」、しかも「経済的」と良い3Kが揃った登山は、どなたにもお勧めできる趣味です。首都圏には高尾山だけでなく、奥多摩や日光、軽井沢など、日帰りを楽しむことのできる好適地がたくさんあります。

ところで、成蹊学園の先輩たちが75年以上も昔、群馬県・谷川岳の懐に建てた山小屋「虹芝寮」は、谷川岳芝倉沢出合にあり、長い年月にわたって雪崩にもあわず、数多くの岳人たちの活躍を見守ってきました。現在も成蹊の山岳関係者を中心に活用されているようです。私は若い頃に何度か利用させていただきました。商業ベースの山荘ではありませんから、食事はすべて自炊のうえ、トイレは汲み取り式です。それなのに、泊まったときの居心地が良かったのは、同宿した岳人たちの解放的な一体感を感じたからでしょう。



谷川岳(群馬県)芝倉沢出合の虹芝寮

先日、とつぜん友人から小包が届きました。最近は何賀状のやり取りだけになった友人ですので、おそろおそろ小包を開けてみると、まず手紙が入っていました。

「昔、虹芝寮に泊めていただきましたね。ありがとうございました。」とのこと。

友人は、武蔵野市に住んでおられ、小学校の時の友達でしたが、成蹊学園とは直接関係のない方でした。社会人になってから彼と虹芝寮に泊まったことがあり、それを懐かしんでおられたようでしたが、さらに手紙には「その虹芝寮を舞台にした書籍を出版しました。読んでみてください。」とのこと、『高本文一 初登攀の軌跡』が添えられていました。

『高本文一 初登攀の軌跡』を読むと、この虹芝寮が日本の登山史に果たした意義がよくわかります。高本文一は1911年生まれ。東京慈恵医大創立者である高木兼寛の孫で、成蹊小学校・中学校(いずれも旧制。以下同)から慈恵医大に進学。病理学者として研鑽を積むかたわら、1930年代に谷川岳の岩壁登攀で華やかな活躍をしたアルピニストの一人です。弟の高木正孝も成蹊小・中・高校から東京大学へ進み、兄の文一とともに谷川岳のクライミングに挑むことも多かったということです。

近年、登山は若い人たちに「危険で、辛い」と敬遠され、どこの大学でも山岳部の活動は低調なようです。しかし、『高本文一 初登攀の軌跡』の裏表紙に虹芝寮の写真が使われているように、成蹊は日本の登山史に大きく貢献してきた様子がわかります。

同書で詳しく紹介されている成蹊高校の渡邊兵力をはじめとする先輩たちの偉業を振り返り、その志を将来に引き継いでいっていただければと思います、本の紹介をさせていただきます。(敬称略)



かし、『高本文一 初登攀の軌跡』の裏表紙に虹芝寮の写真が使われているように、成蹊は日本の登山史に大きく

❖ 計画的な保存育成を！ ❖

長江 洋一

入学式でいつも、私たちがやさしく迎えてくれる成蹊の桜。清楚な花に目を奪われがちだが、幹に目を移すとそこにはまったく別の光景が飛び込んでくる。免疫力の低下した幹は、苔に覆われている。ぱっくりと口を開けた枝分かれは、コンクリートで養生され、辛うじて雨水の浸入を防いでいる。やぐらに支えられて長く横に伸びた太い枝からは、杖無しでは歩くことが出来ない老木の叫びが聞こえるようだ。

昨年の成蹊会総会で講演をお願いした黒川清氏（S30年 高校）は、「学園を訪れてほっとするのは、桜やケヤキといった大きな木があるからであり、年月を経たこれらの樹木こそが、成蹊のコアバリューのひとつだ」と言われた。岸理事長は黒川氏の話を受け、「学園内に樹木のみが残っても困る。そこで2010年度より、建学の理念を含め、成蹊大学全体として特色を出してゆくようなカリキュラムをスタートさせる」といわれた。このように桜、ケヤキといった樹木は学園の象徴であり、卒業生が学園の思い出を語る時には欠くことのできない事柄である。

学園正門をくぐり小学校に続く道沿いには、38本、300mにも及ぶソメイヨシノの並木がある。吉祥寺に成蹊学園が移転した時、この桜は植えられたと聞く。学園が池袋からこの地に移ってきたのは1924年だから、今から85年前のことだ。学園内にはこのほかに、北門から中・高正門に至る山桜通りや、中・高の校舎前にも見事な桜の樹木がある。また、昭和53年に開催された第1回桜祭に際し、実行委員会がしだれ桜を、昭和63年にも桜祭実行委員会がソメイヨシノを寄付し、いずれも情報図書館前で元気に育っている。このように学園内には桜の樹は全部で百二十余本ある。一昨年夏の大風の日、トラスコン前のソメイヨシノが倒れた。倒れた樹を見てみると、老齢化により幹はほとんど空洞であった。毎年私たちを楽しませてくれた花は、ほんの一部の幹から養分を得て咲いていたのが実情だった。桜並木の中のほかの木々も、樹齢を考えるとほとんど同じような状態なのではないか。

桜には、十分な量の陽光と、土から滋養を得るために、木の周囲には樹木の高さの円周面積に相当する間隔が必要といわれている。ところが、桜並木が植えられた当時は、周りに大きな建造物が無かったのに、現在では周囲にケヤキやシラカシが大きく育ち、1号館や2号館、学生会館が建てられ、滋養も陽光も細ってしまった。また、桜は根をしっかりと根を張らないと弱ってしまうもので、根っこの一部が地上に露出しているのが正しい姿である。しかし学園のソメイヨシノは、根のまわりに盛り土が繰り返

され、周りの道路は舗装され、残った土も固く踏み固められてしまい、地面から直接幹が生えているような状態となってしまった。

ソメイヨシノという桜は、現在の巣鴨染井霊園付近の植木屋が、江戸時代末期に大島桜と江戸彼岸桜を接木して作ったものである。そのため、大島桜と江戸彼岸桜の良いところを引き継ぎ、大輪の花は葉より先に咲くこと、開花に時間差がほとんど無く、同じ地域で一斉に咲くこと、など日本人に大変好まれる品種となった。しかしこのため、ソメイヨシノは種から育てると品質に大きなばらつきが出るという弱点があり、接木でしか良質な樹木とはならない。そして接木であるため寿命は短く、自然木の半分程度といわれている。（長命でも100年から130年程度）。だとすると、学園のソメイヨシノはそろそろ寿命が尽きようとしていることになる。実際、学園が実施した樹木の実態調査でも、想像以上に厳しい状況が明らかとなっているようだ。特にソメイヨシノは多くの木の幹が空洞化し、いつ朽ちてもおかしくない状況のようである。そこで今年の桜祭を前に、桜祭実行委員会は学園において、トラスコン前で倒木した桜の跡に4年ものを一本植樹した。

成蹊のソメイヨシノは、染井で作られた原木に近い遺伝子を持っている貴重なものといわれている。成蹊の桜遺伝子を伝承するため、植樹と並行して桜並木の小枝10本の採取を行ったが、接木に適したソメイヨシノは数本しかなかったようだ。それでも接木をソメイヨシノ保存の専門業者をお願いしたところ、六ヶ月もたつと苗木は立派に根付き、新たな染井吉野となるとのことであり、胸をなでおろしている。そしてこの10本の成蹊遺伝子を持ったソメイヨシノを、学園内の小学校畑などに移植し、並木に何か起これば、その跡に移植してはどうかと考えている。さらに、毎年10本ずつ接木を増やしてゆけば、いつ何があっても後継の成蹊遺伝子を守ってゆくことが出来る。

学園のケヤキ並木は、環境庁の「残したい日本の音風景100選」（注）に選ばれている。

学園の樹木は、学園にとっても我々卒業生にとっても現役学生にとっても大きな財産である。しかし継続した手入れを行わなければ、朽ち倒れてしまう。ぜひとも学園の大切な財産であり、文化でもある木々の保存・育成に学園の継続的な手入れをお願いしたいと思う。

（工・50年）

（注） 残したい日本の音風景100選

<http://www-gis2.nies.go.jp/oto/data/scene/index.asp?info=34>

は、周りに大きな建造物が無かったのに、現在では周囲にケヤキやシラカシが大きく育ち、1号館や2号館、学生会

を行わなければ、朽ち倒れてしまう。ぜひとも学園の大切な財産であり、文化でもある木々の保存・育成に学園の継

太刀川瑠璃子さんを偲ぶ

石坂泰彦

昨、平成20年(2008) 12月10日スターダンサーズ・バレエ団の元常務理事、太刀川瑠璃子さんが亡くなられました。太刀川さんは成蹊小学校を昭和15年(1950・第24回)に卒業された先輩です。東京女学館を卒業後すぐに小牧バレエ団に入団されましたが、昭和40年(1965)にスターダンサーズ、バレエ団を結成、自らバレエ・ダンサーとして長年わが国のバレエ界にて活躍された方です。

太刀川さんは、バレエ界で世界的に有名な、アントニオ・チュエダー氏や、ピーター・ライト氏に早くから師事され、その多くの作品を日本に紹介、公演されました。そのご功績は高く評価され、平成10年(1998)には、勲四等宝冠章を授章されておられます。又、太刀川さんはバレエの普及、教育にも力を注がれ、平成19年(2007)昭和音楽大学副学長として日本で初めてのバレエの専門教課を開かれました。

同時に太刀川さんは、「わが国における文化芸術活動は欧米にくらべ遅れている」といつも熱をこめて語られておられたお姿は今も忘れられません。又、成蹊学園の同級生、先輩、後輩を大切にされ、そのやさしいお人柄は、成蹊が生んだ数少ない芸術家のお一人と言えましょう。ご葬儀の際のご法名は、「釋天踊信女」という美しいご法名で、太刀川さん

に相応しいものでした。バレエ団の後任常務理事には、姪に当られる小山久美さん(ご母堂の小山妙子様も成蹊小学校の卒業生です)がなられました。太刀川瑠璃子先輩のご冥福を心からお祈り申し上げますと同時に今後とも、スターダンサーズ・バレエ団に対する皆様の一層のご支援をお願い申し上げます。

スターダンサーズ・バレエ団理事長(政経・27年)



太刀川瑠璃子さん80歳記念パーティーの際
右から関野和夫(旧高23回)、近藤和夫(旧高21回)、猪方四十郎(旧高20回)、石坂泰彦(旧高23回)、荻野宏幸(旧高22回)。いずれも成蹊OB。

朝日新聞 2009年(平成21年) 2月13日付けより

バレエプロデューサー

太刀川 瑠璃子さん



65年に来日したアントニー・チュエダー(右)と
スターダンサーズ・バレエ団関係

たちかわ・るりこ
08年12月19日死去(卵巣がん)81歳。2月28日お別れの会。

日本のバレエプロデューサーの輩分の存在だ。原点には、20世紀を代表する振付家とプリマだったアントニー・チュエダー、マーゴット・フォンテインとの出会いがある。小牧正英バレエ団がチュエダーを招いて「リラの園」などを演じた54年に出演し、多彩な心理的バレエに心奪われた。古典作品以外に目を向ける契機だった。フォンテインが専長で来日した83年の公演では、世界のプリマが舞合裏で日程表を張って回る姿を目を疑った。小牧氏と離婚し、将来を模索していた身に大きな啓示となった。64年、自らのプロデュースで当時のスターダンサーらを集めて特別公演を開く。翌年から夏方に徹し「オール・チュエダー・プログラム」を制作。直後にこの時のメンバーを中心としたスターダンサーズ・バレエ団を結成した。「女性的たたまずまいの内側」、独立心旺盛な事業家の心を宿した人、徒弟

新しいダンスに挑んだ草分け

制的なバレエの環境を越えて新しいダンスをつくりたいという執念が、当時のダンサーたちをつなぎ留めていた。バレエ団初期の活動を支えた一人、小川聖子(青山カサノ)は、スクエアの主宰者、はげ返る。チュエダーに始まり、ロビンス、パランシンの現代バレエを紹介する一方で、日本人作曲家の喜望、日本人が振り付けた作品も取り上げた。テレビゲーム「ドラゴンクエスト」をもとにしたバレエも制作した。「白鳥の湖」など古典舞の日本でも、創作物を通して日本のバレエ芸術に新しい地平を開いた功績は大きい。と舞踊評論家の山野博大さん。7年前に卵巣がん手術をし、07年には転移で再手術。末期の痛みを耐えて最後にかかわった昨年11月の公演は、くしくもチュエダー作品「リラの園」のけいこを、慈しむまに見守る姿が印象的だった。(上坂樹)

6月13日付



ター(右)と

経済学部創設 40周年のひびき

平成20年11月15日（土）
 記念講演会 大学4号館
 祝賀パーティー 大学10号館

昭和43年に創設された成蹊大学経済学部は、昨年40周年を迎え、記念イベントが大学キャンパスにおいて盛大に執り行われました。石坂信也氏（ゴルフダイジェスト・オンライン社長、平成二年卒）による記念講演に引き続き催された祝賀パーティーには、同窓生や退職教授など多数の出席者が顔を揃え、長い歴史を振り返りながら和やかなムードの中で旧交を温めました。当日は、記念講演会に先立ち、希望した同窓生に対し在校生が大学施設を案内するキャンパスツアーが行なわれました。その後、講演会場である大学4号館ホールに同窓生をはじめ来賓、学園関係者など200名を超える参加者が順次集合しました。

司会を担当したフリーアナウンサーの小林まどかさん（平成12年卒）による開会宣言に続いて、武藤恭彦成蹊大学経済学部長より開会の挨拶と記念講演に出演する石坂信也ゴルフダイジェスト・オンライン社長（平成2年卒）の紹介がありました。



武藤経済学部長が学部の近況を報告

記念講演会

演題は「ゴルフとITと成蹊と私」で、大学卒業後就職した三菱商事勤務時代に社内留学制度を利用してハーバード・ビジネススクールに留学した石坂氏が、当時アメリカで急成長していた「インターネット」に出会った事、帰国後に趣味のひとつである「ゴルフ」の領域で起業した経緯など、幼少時代からアメリカでの生活が長かった石坂氏ならではの「ユニークでハイブリッド」なスピーチを聴くことができました。

以下、講演内容の抜粋です。

1997年という年

私が留学したのが1997年。当時アメリカではヤフー、アマゾンといったネットビジネスが世間やメディアを

賑わしており、ハーバード・ビジネススクールへ世界中から集まってきた学生達もそのほとんどが「インターネットで起業できないか」という熱気に包まれていました。そして、学生という学生が「ネットビジネスの事業計画」



石坂信也氏（経済・平2年）による記念講演

を片手にキャンパスを走り回っているという状況でした。そのような背景で、私はMBA卒業論文としての事業計画をまとめるにあたり、趣味であったゴルフとインターネットを組み合わせたビジネスが考えられないかという発想から論文をまとめました。これが後にゴルフ領域でネットビジネスを起業するきっかけとなりました。（中略）

ゴルフマーケットに革新を

当時のゴルフ業界は、バブル崩壊の煽りを受けいくつかのゴルフ関連企業の経営が破綻したり、また、市場が大きいにも拘わらず消費者の目線でのサービスが全く確立していないなど、ゴルフマーケットの数多くの課題を目のあたりにした私は、「これは何かでき

るかも知れない」と思いました。そして2000年に株式会社ゴルフダイジェスト・オンラインを設立しました。

ゴルフダイジェスト・オンライン（GDO）のサイトでは、「ゴルフ用品の売れ筋情報」や「ゴルフ場予約ページ」、「天気・道路情報」といった情報コンテンツに加え、「スコア管理サービス」などこれまで業界に存在していなかった数多くのサービスを提供しています。サイトの月間訪問者は370万人を超えるまでになりました。これからは新しいイノベーション（変革）にどんどん取り組んでいく所存です。（中略）

私にとっての成蹊

さて、私は13才で帰国しましたが語学力（日本語）や学力の遅れなど、今の時代だったらイジメの対象となっていたかも知れません。しかし、そんな帰国子女に対し成蹊（中学校・国際学級）は、自分の居場所を与えてくれた「受け皿」でした。

その後、高校、大学通して部活に没頭できたのも、先輩や後輩との素晴らしい絆を築けたのも全て、「バランスの取れた人格者を育てる」という『成蹊らしさ』のお陰なのだろうと感じています。（中略）
 本日は本当におめでとうございました。

祝賀パーティー

講演会終了後、大学10号館12階ホールに会場を移し、同窓生、来賓、そして学園関係者が一同に会して、経済学部創設40周年祝賀パーティーを行いました。

主催者挨拶、来賓祝辞に続いて栗田恵輔成蹊大学長による乾杯の発声です。スタートしたパーティーは300名近い参列者が集い、約40年間という幅広い年代の同窓生が、懐かしい仲間や恩師との歓談の輪をフロアの至る所で広げ、祝賀ムードに包まれた和やかで且つ活気のある会となりました。

パーティーの中盤では、現職教授や退職された先生からもご挨拶をいただき、出席している同窓生の多くが当時の講義やゼミを思い出している様子も

伺えました。

そして祝賀パーティーのアトラクションとして、ホテル・ペア宿泊券、高級レストランのディナー券や観光施設チケットなどの多数の豪華賞品が当たる『お楽しみ抽選会』の部となりました。各賞ごとに、武藤学部長、相川成蹊会長など主催者、来賓の方々にステージに上がって抽選番号を引いていたが、当選番号が読み上げられるたびに会場にどよめきが起こりました。

最後には、ゴルフダイジェスト・オンラインの石坂社長から飛び入りで協賛いただいた「ニンテンドーDS・目指せ100切りゴルフ」が5名の当選者に贈られるなど盛り上がりしました。

祝賀パーティーの最後は全員で成蹊学園校歌を斉唱し、そして10年後の50周年には更に盛大な祝賀会場で再会



司会小林まどか氏（経済・平12年）

することを皆で誓い合いお開きとなりました。

大山卓治（経・56年）



300名近い出席者が集った祝賀パーティー



お楽しみ抽選会で盛り上がりが最高潮



金光旭教授の記念講演



宇野重昭名誉教授の記念講演



西崎文子法学部長からのご挨拶



高橋龍一法学部同窓会長挨拶



毛利任宏同窓会副会長の司会進行

法学部のパンフレットが配布されました。窓から見える夕焼けの富士山が美しい一日でした。
この行事では、西崎法学部長を始め、成蹊学園、成蹊会、同窓会委員等多数の方々のご協力をいただきました。誌面を借りて厚く御礼申し上げます。

野澤幸弘(法・57年)

法学部創設 40周年記念行事

學祭期間中である平成20年11月22日(土)に、成蹊大学法学部創立40周年記念行事が開催されました。

平成20年11月22日(土)
記念講演会 大学8号館
祝賀パーティー 大学10号館

13時30分より大学8号館1階101号室にて行われた講演会では、西崎文子法学部長の挨拶に続き、「法律家から見た中国と日本」というテーマで金光旭教授が、「北東アジアの創成と日中関係」というテーマで宇野重昭名誉教授が講演され、参加した先生方卒業生も熱心に耳を傾けていました。

続いて15時30分より大学10号館12階ホールに場所を移して記念パーティーが開催されました。2007年度ミス成蹊の村上萌さんの司会で始まり、高橋龍一法学部同窓会長の挨拶、成蹊学園の橋本竹夫専務理事並びに成蹊大学の栗田恵輔学長による来賓挨拶、成蹊会の相川一成会長の乾杯の後、歓談となりました。180名以上の参加者が集まり、卒業生はかつての恩師や仲間を囲みながら談笑しました。途中、安倍元首相(8回)がサプライズで来場されると、大きな拍手がわきあがり会場が盛り上がりました。当日の参加者には、40周年記念誌(『成蹊法学』別冊)と

学校・年次会

のしごひ

大学卒業10周年



3月14日(土)、前日からの大風の影響で交通機関が大幅に乱れ、雨も降りしきる中、卒業生と学園関係者を併せて約200名もの方々が集まって下さいました。

大学10号館12階ホールで行われた卒業10周年記念同窓会では、工学部卒業の松本瑠美さんと経済学部卒業の西山真人さんの司会、そして工学部卒業の田中和史さんの開会の辞に始まり、成蹊学園理事長岸暁様、成蹊大学長栗田恵輔様からご挨拶をいただきました。

岸理事長からは新しいキャンパスの設備について話を承り、外観のみならず機能性を兼ね備

えた素晴らしい環境で学生たちが一層勉学に励める土台が完成したような気が致しました。

栗田学長からも少子化が進み未曾有の不景気の中、成蹊大学は堅実に学生が集まっているとのこと、成蹊に対する世の中の関心の高さが伝わって参ります。また、成蹊学園伊藤昌弘様からは学園の近況報告についてご紹介があり、成蹊会専務理事橋本竹夫様の乾杯により歓談へと移りました。

10年ぶりの再会を果たし、お互いに積もる話もあるようで、あちらこちらで話に花が咲いておりました。中には小さなお子さんを連れて参加されている卒業生もおり、同級生が親になった姿を見て時の流れを実感された方も多かったのではないでしようか。

2時間半の時間も瞬く間に過ぎて、参加者全員による校歌斉唱の後、文学部卒業の坂大智隆



文学部



工学部



法学部



経済学部

さんの閉会の言葉をもってお開きとなりました。
素晴らしい会を企画し開催の費用をご負担いただいた学園に

厚く御礼申し上げます。
津田耕成(文・平12年)

四学部合同 新卒年次委員会



学部 卒年

成蹊会では毎年、大学学位授与式の前に、「大学四学部合同新卒年次会」を開催しています。今年三月十七日に、卒業生一、八四二名の中から、各学部長からの推薦を受けた人、体育会や櫻祭で活動した人など約四十名の方を、新卒年次委員としてお迎えして委員会を開催しました。当日は、成蹊会組織、年次委員としての役割の説明を行い、その後の懇親会では、成蹊会四学部(理工、文、経済、法)同窓会の役員とも親睦を深めました。

最後に、学部代表者四名、その中から学年代表者を選出しました。増田良平さん(年次代表・経済学部代表)、会森彩さん(理工学部代表)、比田井一生さん(文学部代表)、佐藤藤平さん(法学部代表)の四名の代表には、同年卒業生のまとめ役、また今後の卒業十周年、二十周年と続く記念同窓会のまとめ役

成蹊会では、卒業生の前に、「年次会」は三月十一日、三月十三日の二日、各学部長からの推薦を受けた人など約四十名の方を、新卒年次委員としてお迎えして委員会を開催しました。当日は、成蹊会組織、年次委員としての役割の説明を行い、その後の懇親会では、成蹊会四学部(理工、文、経済、法)同窓会の役員とも親睦を深めました。



をお願いし、閉会しました。
今後の皆様のご活躍を期待
しています。

高橋道哉(工・51年)

セントポールズ 交換留学生 壮行会

2008年度成蹊セントポ
ールズ交換留学生の壮行会が、昨
年8月30日に開かれました。米
国セントポールズ校へ成蹊から
留学する生徒は毎年一人。08年
度は高校1年の秋元万由子さん
が選ばれました。

壮行会は例年、第一期交換留
学生である榎原稔さん(現三菱



商事相談役の呼びかけで交換
留学生の渡米直前に行われ、今
回も米国で新学期が始まる9月
を前に開催されました。第二期
生の有馬龍夫さん(現日本国政
府代表)、成蹊中学・高等学校
の谷校長、吉崎副校長、代々の
交換留学生OB・OGにもご出
席いただき、東京中目黒のレス
トランで盛大に開催されました。
壮行会は秋元さんへの激励や
参加者同士の近況報告など終始
会話が絶えない和やかなムード
となりました。榎原さんと有馬
さんはセントポールズ卒業生専

高校卒業45周年

湯田昌之(小・平6年)

猛暑の夏から突然に肌寒い秋
が訪れたような、9月最後の日
曜日(28日)に、卒業45周年同
窓会が成蹊の庭10号館12階で催
されました。20年、30年、40年
と10年おきに開かれてきた同窓
会を今回初めて5年の周期で開
催したのですが、恩師、来賓を
含めて100名を越える方の参
加が得られ、又やむを得ず欠席
された方からも協力をいただき、
楽しい同窓会になったことをご
報告いたします。

午後2時、この5年間に亡く
なられた恩師・羽深幸男先生と

4名の同窓生に黙禱を捧げてご
冥福をお祈りしたあと、司会役
の桜田さんの軽妙な話術で会は
なごやかにスタートしました。
ますます風格の出できた岩田
さんの開会宣言のあと、ご来賓
の成蹊会・田上常務理事、横手
先生、桑本先生からのお話を伺
いました。50周年どころか60、
70周年(?)まで続けて欲しい
との激励をいただいた田上理事
定年後の生活では奥様に対して
感謝の意思表示が肝要としてみじ
み語られた横手先生、用意され
たメモを片手に身体と頭脳の健
康管理の重要性を説かれた桑本
先生、それぞれが私たちのこれ
からの人生に有益なスピーチで
した。ただ遅れてご出席された
栗原雄一先生のお話を伺えなかつ
たのは残念でした。

懇親会では、正面のスクリー
ンに映し出された松本安弘さん、
桜田さんの力作のスライドを見
ながら、トラスコン、樺祭、フ
ォークダンス、校内大会、現在
耐震補強工事中の本館校舎での
1・2年次の教室配置など、懐
かしい記憶を辿りながらの懇談
で大いに盛り上がりました。
この間にご出席頂けなかった
恩師の先生方からのメッセージ

と近況のご紹介、そして海外を
含めて遠隔地からはせ参じてく
れた方々からスピーチなど各種
の趣向で時間の経つのも忘れる
程でした。
江田さんの指導での校歌斉唱
を以て1次会はお開きとなりま
したが、両角さんの閉会挨拶の
中で50周年同窓会開催の決意表
明と全員への参加の呼びかけが
ありました。
半時ほどの休憩後に同じ会場
で開かれた2次会は、田中さん
の進行でもとても温かい雰囲気
の会となりました。

この席では成蹊会のご好意で
ピアノをお借りして服部吉次さ
んの演奏と神初さん、坂口さん
の飛び入りの歌も楽しみました。
伊藤さん(旧姓知葉)の閉会挨拶
の時には東西に大きく開いた
窓から見えていた武蔵野の町も
すっかり夕闇に包まれていまし
た。

白井 彰(高・38年)

況のご紹
て遠隔地
方々から
向で時間
した。
田さんの
て1次会
が、両角
50周年同
全員への
ました。
時ほどの
がれた?
行でとて
なりまし
の席では
ノをお借
演奏と神
び入りの
びさん(旧
時には車
ら見えて
かり夕闇

白井



高校卒業30周年



平成20年11月8日(土)に丸内のクラブ関東(東京銀行協会ビル19階)において高校昭和53年卒業30周年同窓会が開催されました。ご来賓として成蹊学園より橋本竹夫専務理事、成蹊中学・高等学校より吉崎純二副校長、成蹊会より相川一成会長、成蹊中学・高等学校同窓会より篠原周平副会長、そして窪田恒治・近藤正二郎・松田満夫・青



柳知義・石島紀之・中島知・成田洋二の各クラス担任だった先生方のご臨席を賜り、170名以上の参加者が集いました。

坂本洋介君(F組)の司会により始められた一次会では、代表幹事の池田仁君(F組)の挨拶、

残念ながら物故者となられた方々への黙禱、成蹊学園の橋本専務理事による祝辞、成蹊会の相川会長による乾杯の後、歓談の時間に入りました。別室にて各クラス毎に写真撮影をしながらも、歓談は尽きることなくあつという間に2時間が経過し校

歌斉唱の後、成蹊中学・高等学校の吉崎副校長による中締め挨拶で一次会閉会となりました。

二次会は一次会場のすぐ近くで行なわれましたので、ほぼ全員が名札を提げたまま参加しました。会場はどこでも大変な盛り上がりで、和やかに10年ぶりの再会を楽しみました。中には卒業以来30年ぶりに再会する仲間もいて、顔と名前が一致せず戸惑う場面もありました。

卒業して30年経過しても成蹊高校という母体をベースに多くの同窓生が集える幸せを感じた1日でした。今回の同窓会の開催に当たり、成蹊会を初めとし

て多くの方々にご支援とご協力をいただきましたことに、この場を借りまして御礼申し上げます。

高校29期幹事一同

水上憲夫先生の米寿を祝う会



平成二十年十一月十五日

(土)に成蹊大学学生会館三階の第二学生食堂(旧教職員食堂)にて「水上憲夫先生の米寿を祝う会」が開催されました。

水上先生、水上先生奥様、および同伴者も含め七十七名の方のご参加を頂き、ご出席の方々のご協力を得て盛大に執り行うことが出来ました。また、八十二名もの多くの方々から記念品代を頂く事が出来ました。

当日は、卒業生に加えて、電気電子工学科旧教員の杉沼義隆先生、豊田淳一先生、桐澤潔先生、涌井秀治先生、鈴木幸一先生、坂庭和行先生、および、現教員の二ノ宮晃先生にご出席頂きました。

会は、六回卒の土橋健寿氏の



水上憲夫先生の米寿を祝う会

司会で進行し、十回卒の藤井義雄氏による教え子代表挨拶、二ノ宮先生夫人の光枝様、坂庭先生夫人の美予子様、また、第一回生の川生修氏夫人の陽子様から、花束、記念品の贈呈が行われました。

水上先生には殊の外お喜びで、これも皆様方のお陰と心から感謝申し上げます。

自らも頑張らねばと思う気持ちになります。

また、本会は東北大学に移られた豊田淳一先生からのお声掛かりがきっかけとなり企画されたもので、成蹊の絆の深さを改めて感じた次第です。

なお、当日の写真等は、蹊電会ホームページ <http://kaiden-kai.org> のマイアルバム欄に掲載してありますので、ご覧頂ければ幸いです。

石郷岡 猛(工・41年)

柳井ゼミの会



講話と懇親の会

11月2日(日)、成蹊桜祭柳井ゼミメントに参加しているメンバーを中心に、先生のご講話と食事を合わせて3時間の会を初の試みとして開催しました。

卒業以来先生の講義は何十年ぶり?という面々に話してくださいましたのは、先生が現在編纂に力を注いでいらっしゃる成蹊学園100年史の中の学園創立当時の興味深いエピソードでした。

も頑張らります。

た、本会は、成蹊の絆の深さを改めて感じた次第です。

なお、当日の写真等は、蹊電会ホームページ <http://kaiden-kai.org> のマイアルバム欄に掲載してありますので、ご覧頂ければ幸いです。

石郷岡

柳井ゼミ

講話と懇親

11月2日(日)、成蹊桜祭柳井ゼミメントに参加しているメンバーを中心に、先生のご講話と食事を合わせて3時間の会を初の試みとして開催しました。

卒業以来先生の講義は何十年ぶり?という面々に話してくださいましたのは、先生が現在編纂に力を注いでいらっしゃる成蹊学園100年史の中の学園創立当時の興味深いエピソードでした。



中学3年B組 佐藤熙和先生 クラス会

11月23日(日)成蹊大学釋奠当日
大学2号館409教室を借り、
クラス会を開催しました。齋藤
雅人君の飛良泉本舗の大吟醸
「櫻蔵」で乾杯、和気あいあい
の時間があつという間に過ぎま
した。

ゼミ生からのフィードバック
タイムも盛り上がり、次回開催
を期待するとの声が続々にあが
りました。
学園史をまとめるという貴重
なお仕事をされる柳井先生のも
とにゼミ生が集い、知的な交流
を持てる幸せを、改めて感じ入
る機会となりました。全員の笑
顔に心も和みました。
実り多き秋の1日。感謝の気
持ちを込めてご報告させていた
だきます。

片岡玉恵(文・54年)

クラス会後、ぶらぶらと40

0メートルグラウンドの方向へ、
中高まで散策し、みんなそれぞ
れの感慨をもったようでした。

その後かけつけた女子3名も
加わり2次会も開かれました。

担任の佐藤熙和先生は20年ほ
ど前、学校で倒れて以来、病床
での生活とのことでした。奥様に
今回のことをお話しすると、新
婚当時のことや夏の学校の話
やら、懐かしく、いろんなこと
をお聞きすることができました。
朝礼での凝念「心の力」は、ず
っと私たちの支えとなっていま
す。

平成18年の7月、高木浩士君
たちが中心となり吉祥寺のイタ



リアンレストランでクラス会が

開催され30名近くが集まったの
がきっかけとなり、昨年は10月
に株木雅浩君が幹事を引き受け
て盛り上げてくれました。そし
て今回福島喜寿君のおかげで名
簿としてまとめることができま
した。

これからも同じ中学B組の仲
間として気楽に会って話ができ
る会として続けていければと思
います。

大内 謙(中・47年)

成蹊小学校 同窓会委員会

十二月一日、ニュートキョ
ーにて成蹊小学校同窓会委員会
が開催されました。

当日は、小学校の新校舎設計
を手掛けられた(株)三菱地所設計
・建築設計第二部副部長渡辺稔
様より、「小学校新校舎設計に
ついて」と題する講演及び、金
納善明小学校長より、小学校の
現状についてのご報告を頂きま
した。

新校舎は、「あかるい」「あん
しん」「やさしさ」の三つのコ



ンセプトを基に設計され、ウツ
ドテラスとガラスを多用した、
明るく開放感溢れる校舎として
完成したとのこと。また、金納
校長先生からは、この教育環境
のもと、二十一世紀の「自立」
「連帯」「創造」の教育目標と、
自学自習の精神の継続、さらに
少人数教育をどのように具体化
していくかが今後の課題である
とお話がありました。

なお、次回の小学校同窓会委
員会では、小学校新校舎見学ツ
アーを予定しております。

村田美香(小・60年)

高校卒業40周年

2008年も押し詰まった12
月6日、高校第19回生の卒業40
周年同窓会を大学10号館で開催
しました。今回は昭和40年成蹊
中学校卒業同窓会も兼ねる形で、
中学校で担任をしていたいただいた
先生方もお招きいたしました。
定刻16:00に永田修一君の司
会で開会、橋本学園専務理事、
相川成蹊会会長の挨拶に続き

プトを基
ラスとガ
く開放感
したとの
先生から
と、二十
「創造」
自習の精
数教育を
いかがあ
お話があ
お、次回
では、小
を予定し

村田

校卒

2008年
日、高校
向窓会を
した。今
校卒業同
校で担任
方もお招
刻16:00
開会、橋
成蹊会



て谷中中学高校校長に乾杯の発声をしていただきました。続いて、お世話になった担任の先生方に花束を差し上げご挨拶をいたしました後、亡くなられた恩師並びに同級生に黙禱を捧げ、歓談に移りました。出席した108名の同窓生達は、友人同士または恩師を囲んで、昔話に、近況報告に花を咲かせ、時間は瞬く間

に過ぎ去っていきました。冬の短い日が落ち辺りが暗くなった頃、西島(旧姓・野懸) 幸子さんのピアノ伴奏で校歌を斉唱、久しぶりで歌詞が思い出せなかつたりしながらも大きな声で歌い、名残を惜しみながらも5年後の再会を誓って散会しました。なお、この日ご出席いただいた恩師は、黒木清、高橋俊昭、大塚直、小野明、六笠(旧姓・榎木) 元子の各先生方でした。同窓生一同ご健勝をお祈りしています。

会の開催にあたり成蹊会事務局には大変お世話になりましたことをこの場を借りて御礼申し上げます。

吉崎純二(高・43年)



12月13日、クリスマス近くの土曜日、人でごった返す吉祥寺の、少し奥まった場所にある、一軒屋のフレンチ・レストランで、6時から10時までの4時間で、2008年度のクラス会が開か



れました。懐かしい吉祥寺ですが、案外、久しぶりという人も多く、合計23名の賑やかなクラス会となりました。

お互いに再会すると、「みんな違って、みんな良い」というあの金子みすずの詩句のように、ひとりひとりの個性を尊重してください。小学校東組担任の亡き佐藤茂先生の眼差しに再び包み込まれるような感じがします。これは、私たち東組の宝です。クラス会というものは、年を重ねるにつれて味わい深くなるものだなあ、と、各人各様に思いながら、次の会を楽しみに再び吉祥寺の街に散っていきました。

中村弓子(小・31年)

北京大學 短期留学同窓会



2009年1月4日(日)、北京大學短期留学同窓会が渋谷にて開催されました。1994年に短期留学制度が始まってから今年度で15周年ということもあり、卒業生と学園関係者を含め例年より多くの35名が参加しました。

1995年留学の桜庭相里さん(政治H10年卒)の開会の挨拶に始まり、本留学制度を創設頂いた成蹊大学名誉教授の宇野重昭先生にお話頂きました。そして、2004年留学の田村知仁さん(法律H19年卒)の中国語による乾杯で歓談がはじまりました。

また、第1回目から近年に留学した卒業生までが一堂に集う初めての同窓会であったため出席者全員の自己紹介および、当時の留学の様子を、年度毎にプロジェクトで写真とともに紹介しました。街が年々変わっていく様子に参加者の話も盛りあ



がり、留学の年度が異なっても北京大學への留学という縁で、垣根を越えて交流する絶好の機会となりました。さらに、海外赴任などで今回は参加できなかった卒業生からのコメントも紹介しました。

なお、同窓会の報告は、ブログにも掲載しております。本同窓会は、年1回のペースで開催されていますので、留学経験者で次回の案内をご要望の方は次のメールアドレスまでご連絡ください。最後に、同窓会開催にあたり成蹊会並びに成蹊学園にご協力いただきました。感謝と



、留学の大学への垣根を越えてなりまして、今年度今卒業生から来ました。お、同窓会も掲載しは、年1回の案内のメールアドレス。最後に成蹊会力いただ

ともにご報告申し上げます。

◆連絡先：seikeibeida

@gmail.com

◆同窓会ブログ：http://blog.

goon.jp/seikeibeida

押切孝雄（法・平10年）



平成二〇年は、政治経済学部昭和三十三年卒業生には五十周年に当たります。五十周年を記念して同窓会を開催したらとの意向が吉野政治経済学部同窓会会長からありました。ニュートーカーキョー・成蹊倶楽部に有志集められ協議。卒業後一回も同窓会を開催してなく、年令も七十歳を越える百五十一名いた仲間がどの位集まるか不安でした。開催場所、時間、会費など問題が提出されましたが、成蹊会事務局、特に田上常務理事のご助力用意された名簿を利用打ち合わせを重ねました。三回の打ち合わせを経て、二〇年十二月十三日（土）午後二時三十分から五時まで、場所は成蹊大学一〇号



館十二階ホールと決まりました。参加人数を増やす意向もあり同じ昭和二十九年入学のプレメの皆さんにも声を掛け今給黎、島田君の参加を得て四十八名の出席予定となりました。

幸い当日は晴れ、久し振りの学園にと時間にほぼ予定の出席者が集合。今井実行委員長は今年の参加は五十名弱で少ないが、後輩も続く、吉野会長も期待されると、この会の意義を説明、開会の辞としました。岩井副委員長による物故者六名の黙禱、恩師で、健全の肥後先生の近況報告。祝辞は栗田大学長の大学

発展状況、橋本学園専務理事の百周年行事など、相川成蹊会会長は更に六十周年を目指してと元気な挨拶があり乾杯。食事はビュフェスタイル、十二階からの景色を眺め、学園のDVD動画投射を見ながら歓談

飛び入りの挨拶もあり、写真撮影をおこない予定の時間を楽しく過ごしました。最後に校歌斉唱、中村春二先生の孫に当る中村温君の閉会の辞。心力歌は成蹊の精神教育を表して今の時代に大事な教えと締めました。

寺田 明（政経・33年）



2月28日（土）大学10号館12階ホールにて、清和会が2年ぶり開催された。清和会は中村清一先生を偲び、併せて相互の親睦を始めてから約30年、2年ごとの総会も14回目を迎えました。

当日参加者はゼミナール同窓会267人のうち79人の出席があった。司会進行は貞弘浩二と



宮川正伸（いずれも昭45年卒）の両名が行い、市川徹会長（昭30年卒）の挨拶、前総会後に亡くなられたゼミ仲間にも黙禱の後、広瀬行夫（昭30年卒）の乾杯の発声で懇談に入った。

幸いに好天気にも恵まれて、ホールからは東は遠く新宿副都心を、西は富士山、高尾山を眺め、足下の学園風景を見ながらの懇談。途中、成蹊学園を紹介するビデオの上映、会員数名が近況を語るなど、高齢化を迎えても元気に語り合いながら進行しました。最後は成蹊校歌を浅野孝雄（昭36年卒）の指揮で斉唱、清田幹事長が次回の再会を誓い、閉会を宣言してお開きとなった。

清田 修（政経・33年）



皆さん、こんにちは！

桜祭当日は、本年2月の異常高温に加え、北朝鮮によるロケット発射当日という気を揉む状況で迎えました。しかし幸いにも何事も起こらず、今年ほど「桜祭」に相応しい日は滅多に来ない程のお花見日和となりました。参加者数も毎年の様に更新される程、身近な学園行事となつていく様です。

「集い」は、今回からいつもの和室が改修された為、大学2号館の205号室に会場が移る。出席者は久々に会へ運ばれた安田正信先輩（高5回）を加え29名（内、二次会より参加2名）。木野修造君により開会が告げられ、世話人から会計報告と共に、この一年間に亡くなられた方が伝えられた。今春迄に3名の関係者が故人となられていた。昨年7月に澤登治さん、翌8月には神田洋さん。お二人とも難病との戦いであった。そして



皆さん、こ

祭当日は、桜祭当日を迎え、発射当日を迎え、何事も起こらずに相応しい程のお花見日和となりました。参加者数も毎年の様に更新される程、身近な学園行事となつていく様です。

「集い」は、今回からいつもの和室が改修された為、大学2号館の205号室に会場が移る。出席者は久々に会へ運ばれた安田正信先輩（高5回）を加え29名（内、二次会より参加2名）。木野修造君により開会が告げられ、世話人から会計報告と共に、この一年間に亡くなられた方が伝えられた。昨年7月に澤登治さん、翌8月には神田洋さん。お二人とも難病との戦い



3月30日には私達の船越先生が肺炎の為、97才で逝去されておられた。

詳細の事情について今回初参加された村上瑛二郎先輩（高5年）がお話し下さる。実は、殆どの方は恩師が僅か6日前に故人となられたことを、この席で初めて伺うことになる。波乱の人生を気骨の心で乗り越えて来られた先生。最期は穏やかに天寿を全うされたとのこと。故人の遺志によりご葬儀は近親者のみで行なわれ、船越会からは、直ぐにご連絡を受けた数名が参列。成蹊学園と共に、当会より教えず一同の気持を込めて生花

が手向けられたことを世話人から報告される。

会は、3名の故人を偲び全員で黙禱を捧げる。献杯はほぼ毎回参加されている城戸毅先輩（高5回）よりご唱和を頂く。

これからはいつもの様に寛ぎ、語り合う場となる。何十年振りかで元氣な姿を見せてくれた瀧正彦君は級友から「珍しい！」と忽ち話の輪で囲まれる。その内に今度は卒業以来正に初参加の松田勝彦君が登場！皆は一瞬数学の松田先生ではないかと見紛う程、御父上そっくりな風貌に驚き、再会を喜び合う。

時の経つのは早く、会の終盤近くになって寺田明先輩（高5回）のご挨拶をはじめ、瀧、松田両君の懐かしい声を聴く。何時もユニークな話題を提供してくれる高岸春嘉君からは、本年5月に双葉社より里見秋介（ペンネーム）名で出版する本（この時点では題名未定）について興味深い裏話が披露される。今回は初めて尽くしの事が続く。名簿作り及び通知は森田栄蔵、写真は小島清彦各君が担当。尚、先生亡き後のこれからの会は、「今迄通り 桜祭船越会」として続けて行こう。」と皆で

話し合われたことを申し添え、来年には、今回参加された方々に加え、長らくお会い出来ずに



いる貴方とは是非お会いしたいものです。
嶋田辰昭（高・36年）

体育会・文化会・OB会 趣味のつどい

蹊球会 (硬式野球部OB)



から第五十七回までに及ぶOBを、五年ごとに年代幹事が束ねて緊密なコミュニケーションを図ることを目的にしています。

蹊球会は、十一月十五日(土)吉祥寺第一ホテルに於いて、恒例の定期総会を開催しました。自ら頻繁に球場に足を運び、現役支援に尽力された若林敬三会長に代わり、田中毅副会長が新会長(五代目)に就任されました。総会に先立ち開催された学年幹事会において、三役(本間秀雄事務局長、野上良通書記長、岡崎雅彦総務局長)を中心に運営する新組織について説明がありました。その要旨は、第一回

現役(大学)は、現在東都大学野球の三部に所属していますが、近年部員数が増加(六十余名)し、練習方法にも工夫が必要になってきています。来シーズンより賀屋周防OB(成蹊大学職員)が監督に就任し、二部復活が期待されます。

総会に引き続き開かれた懇親会には、高校、大学其々の新幹部が紹介され、現状報告と来季への抱負が熱く語られました。続いて卒業生(新会員)に対して、若林会長から一人一人に記念品が手渡され、併せてコメントが語られると、涙がこみ上げる、



こらえる場面もありました。
西川 廣(政経・44年)

体育会 ハンドボール部



平成20年11月16日(日)大学10号館12階会場にて創部40周年式典を開催しました。

当日は、36名のOBと14名の学生が出席しました。岩田OB会会長により最近の活動状況や今後の課題について報告があった後、ご来賓の成蹊学園橋本専



える場面
西川 廣

育会 ハンド

成20年11月12階会場にて開催し、口は、36人が出席し、坂により、の課題にご来賓



抗戦、OBチームによる関東社
会人クラブリーグですが、OB
と現役学生は合同練習やOB戦
で交流を図っています。

関東学生リーグの戦績はいま
までいろいろ興隆がありました
が、今は中位から上位進出を目
指し頑張っています。また、最
近は元気な女子部もできました。
OBとしても40周年を機会に、
OB会を更に活性化し、学生達
の活動を支援することにより、
体育会ハンドボール部の実績と
伝統を築いていくことを改めて
確認しました。

阪本 順(経・平3年)

英語会総会 OB会



今回で5回目の英語会総会
(OB、OG会)が昨年11月22
日(土)に成蹊大学構内の第二
学生食堂で開催されました。櫛
祭の初日に当たり爽やかな秋空
のもと我らESSの同士50名程
が昨年に引き続きにぎやかに
集合致しました。毎年の英語会
の1大イベントとして徐々に定



着してきた感があり、皆さん和
気藹々のもと、各年次のOB、
OGの自己紹介に始まり、簡単
なゲーム大会、現役世代の活動
報告、新入部員の紹介、模擬店
食販売(今回はフライドポテ
ト)そして全員が円陣を組んで
の「武蔵原野」で始まる成蹊E
SSのエール交歓と大いに盛り
上がり、会のラストは成蹊校歌
の熱唱で締め括られました。
ワンパタンではありますが、
毎年同じ時期に母校に集まり、
校歌を歌う事により、より一層
の成蹊への愛着心と結束力が湧
いてくる感じがし、また参加者
の皆さんの顔を見てるとと会を
開催している幹事として感無量
の境地になります。また今年も

高校地理研究部 OB会



ESSの会を通じて色々な情報
を発信出来れば幸いです。参加
者の皆さん有難う、また今年も
櫛祭の時期に元気に再会しまし
よう!
三浦 隆(法・49年)

2008年11月30日(日)夜
に、昔からなじみの深い、吉祥
寺のお好み焼き屋「まりや」で
開催された。今回は忘年会シー
ズン直前とはいえ、その前にや
っておくべき予定が増えたのか
案内の発送がちよつと遅かった
せいか、参加者8名といささか
寂しい状況だった。しかしこじ
りまじりした分、談論は盛んで声
も大きく、周囲のお客さんにご
迷惑ではなかったかと思うほど
話が弾んだ。
今回、従来約10年代代表幹事を
仰せつかった小笠原が、中
島啓雄君と交代することになっ
た。また、木村知雄君が8月に
逝去されたことが報告された。
ご冥福をお祈りする。



お好み焼きといっても、4人
1テーブルで勝手にやるので、
テーブルによって作り方の差が
歴然としていた。平均年齢の高
い方が下手で、若手の器用さが
羨ましかった。
話の方は、人数も少なかった
ので近況報告などはしなかった。
立山へ行った時の話とか、長谷
川泰三君の著書「カフエーパウ
リスタ物語」を読むとすごい博
覧強記だとか、ニューヨークの
貿易センタービルの鋼材を一生
懸命作ったのの壊れ方はひ
どすぎるとか、道路作りと言
うけれどある場所で27km走って1
台も対向車に出会わなかったと
か、伊藤滋さんと日本橋の問題
でお会いしたとか、今回はいく
らなんでも集まりの人数が少な
いのでどうしたらいいとかか、



好み焼き
1テーブル
ブルによ
どしてい
が下手で
しかった
の方は、
近況報告
「へ行っ
三君の著
「夕物語」
記だとか
センター
作ったの
ぎるとか
どある場
対向車に
伊藤滋さ
〜会いた
〜んでも集
〜でどう〜

とりとめのない話が次々に転換して、あつという間に時間が過ぎた。

年長者が多かったせいか、酒量が思ったより少なく、定額給付金ではないが、予定していた会費の割戻しが出る始末だった。それでも話が切れずに続くとは皆さんエネルギーが溜まっていたのであろう。今回で代表幹事を退くが、今までのご協力、ご支援を感謝する。

小笠原光聡 (高・28年)

大学ラグビー 入れ替え戦

前後来の雨が残る平成20年12月14日(日)、寒空の下、埼玉県宮熊谷ラグビー場に『赤黒』のユニホームの成蹊大ラグビー、フイフティーンが、その姿をあらわした。

これは、池田智監督(高33回)が率いる大学チームが、関東大学対抗戦Aグループに昇格2シーズン目を迎え、長年の伝統ある強豪校と対戦し、明治に0対49、帝京に0対73、早稲田



に0対60、筑波に24対28、慶応に0対69、日体に6対40と夫々のゲームで苦杯を喫したものの、11月30日(日)、八王子上柚木公園陸上競技場で立教と対戦。これを28対24で破り、1勝6敗の成績で7位となり、入れ替え戦に臨んだものである。

対戦相手は、かつて、社会人新日鉄釜石チームが、日本選手権でV7を達成した際、スタンダードオフで活躍し、その原動力ともなった松尾雄治監督の率いる成城大チーム(Bグループ2位・同氏は同高OB)である。

正午キックオフ、成蹊フワードが先制トライをあげたもののゴールにならず。26分、成城フワードが混戦から抜け出し

トライを奪われ、ゴールの成功で5-7と逆転された。

その後、成蹊がAグループの意地とその実力を発揮し、フワード、バックスの連携プレー、展開、突進力に勝るところから前半は3トライをあげ、19対7で終了。後半に入っても、バックスへのロングパスが良くとおろ、3トライをあげ、成城には得点の機会を与えず0点に抑えた。この試合、フルバックで活躍した藤巻キャプテン(法4年)のコンバージョンキックも、その5本が成功、後半ロスタイムを合せて44分、日本協会公認の下井レフェリーの高らかな笛の音とともにその右手が上りノースサイド。40対7で成蹊の勝利がつけられた。



これにより、当日の第2試合で、青山学院(B1位)を20対18のスコアで下した立教(A8位)とともに、成蹊は「Aグループ」に残留することになった。

日頃、卒業生諸兄弟及び在校生、又関係ある皆様方からのご声援に、御礼を申し上げますとともに、OBの1人として、今後とも「成蹊ラグビー」に温かい応援をいただければ幸いです。

原 一郎 (政経・28年)

ラグビー部 卒業生を送る会

未だ肌寒さの残る平成21年3月8日(日)、大学10号館12F大ホールにおいて、成蹊ラグビー部の父母の会、同ラグビークラブにより、中・高・大の現役部員、OB、コーチ、監督、父兄の方々、180名ほどが集り「卒業生を送る会」が行われた。

これは、今年度、新たに卒業するメンバーを送ることを祝うと同時に、21年のシーズンを夫々のチームが健闘することを願う集いである。

会は、今年度大学チーム主務中村紘七君(法4年)の司会で進み、父母の会の代表の方から卒業生へ贈る祝いの言葉で始まった。

ラグビークラブ立花馨三副会長(政経10回)より昨シーズン夫々のチームが厳しい環境の中で立派な成績で終了したことを讃え、とともに今シーズンの活躍を期待する旨の挨拶があった。

中・高チーム監督である土屋嘉彦先生より、過ぐる日の米国ニューヨーク、ハードソン河でおきた航空機事故で、日頃の訓練の成果により1人の犠牲者を出すことなく済み、これが奇蹟として讃えられた事例をあげ、積重ねの練習が如何に重要であるかを強調された挨拶があった。

以前、高校チームの監督であった渡辺一郎先生のご発声で一同乾杯し、交流懇談の場となった。

平成21年度、新たに大学チームの監督となった八木忠則氏(法7回)より、昨シーズン、成蹊は関東大学対抗戦Aグループで1勝6敗で終り、入れ替え戦で成城に勝ち、「A」に残留することとなったこと。(これは我々にとって大きな財産とも

は、今年紘七君(、父母の生へ贈る。

は、今年紘七君(、父母の生へ贈る。

は、今年紘七君(、父母の生へ贈る。

は、今年紘七君(、父母の生へ贈る。

は、今年紘七君(、父母の生へ贈る。

は、今年紘七君(、父母の生へ贈る。



言える。卒業されるメンバーには、立派に社会人として活躍してほしい旨の挨拶があった。卒業生より御礼の言葉と共に夫々の就職先が披露され、これを祝つての温かい拍手がおくられた。

昨シーズン、大学チームのスクラムハーフとして活躍し、21年度、新たに主将となった池田元君（理工4年）より、今シーズンはチャレンジ精神を以て、臨んで行きたいとの決意表明があった。

中学、高校チームのキャプテンの紹介に続き、父母の会を代表して、昨年大学チームのキャプテンであった藤巻洋平君の父上から感謝の言葉が述べられた。

この中学、高校、大学チームの一体感のある催しも、池田キャプテンのリードで一同、部歌を合唱し、盛会裡にお開きとなった。

原 一郎（政経・28年）

体育会蹴球部



2008年度OB総会&関東昇格祝賀会

蹴球部は、去年11月関東大会決勝で強敵・日大を4対3で破り優勝し、悲願の関東2部昇格を21年ぶりに果たした。

試合は追いつ追われつの熾烈な接戦となったが、成蹊は日大に怯むことなく全員で戦い挑んだ。応援に駆けつけた中瀬OB会長（53年卒・試合まえ校歌斉唱をトランペットで伴奏し、学生を鼓舞はじめOB・OGや父兄や学友150人の大応援団は、「最後まで諦めるな!」と成蹊魂を發揮し死力を尽くして戦う学生を熱烈にサポート。成蹊は、学生・応援が一丸となって栄光の勝利をゲットし、学生

は日頃の真摯な努力が報われた。3月8日、第2学食で2008年度OB総会が開催され、冒頭中瀬会長はじめ大勢のOBより関東昇格を果した学生諸君の健闘を祝しお言葉を頂いた。

当日午前中に実施されたサッカーフェスティバルでは、学生・OB&OBファミリーが渾然一体となってサッカーを楽しみ、関東昇格を喜び合った。また総会のと関東昇格祝賀

会が開かれ、宮下OB（85年卒）の乾杯のあと岩田先輩（旧制23年卒）に「暁の弦月、秩父の山」と「成蹊踊」をお歌い頂き、三戸くん引きいるデルフィスが強烈なビートのダンスを披露してくれ、会は最初から異様な盛り上がりを呈した。

昇格決定の感動を心新たにOB・学生が歓談後、伊藤前主将はじめ卒業生からの挨拶があり、OBを代表し21年まえ関東昇格を決めたときの主将・澁谷くんからかれらに記念品が贈呈された。続いて渡辺主将はじめ新4年生の紹介があり、今年関東で大暴れる旨の心強い決意が述べられ、清水OB（90年卒）から学生に新しいユニフォームが授



与され、宇田川OB（08年卒）から栄光の部旗が学生に渡され全員で校歌斉唱。

最後、あの火の玉小僧の佐藤OB（78年卒）が今年もOB・学生一体となって戦うことを誓い「エイエイオー」と全員の雄叫びをリードし、情熱の貴公子・香月OB（85年卒）が今年の成蹊の活躍を祈念して三本締めを音頭をとり、盛会のうちに散会。

二次会は御厨副会長（69年卒）を中心に夜の更けるまでヒートアップした。

七戸一生（文・48年）

競技ダンス部 OB会



競技ダンス部は、昭和43年に舞踏研究会として創部され、現在はパートナー校である清泉女子大学、国際基督教大学と共に活動しています。最近では社交ダンスに対する認知度が高まり、現役の部員数は増加傾向にあります。このことも手伝ってか、現役のレベルは上がり、昨年12月の全日本戦においては、団体7位という輝かしい成績を残しています。

毎年恒例のOB会を3月15日に大学10号館においてOB24名、現役16名参加のもと、開催しました。

今年は、創設期の、競技会、樺祭、合宿等の白黒写真を映写し、当時のOBの方には若かった懐かしき日を思い出してもらい、若いOBや現役生には時代の違いを感じてもらおうことができました。

お酒による酔いがある程度回った後は、現役によるダンスの

競技ダンス部 OB会



競技ダンス研究会とパートナー校、国際基督教大学、現役の部員数増加傾向にあり、このことも手伝ってか、現役のレベルは上がり、昨年12月の全日本戦においては、団体7位という輝かしい成績を残しています。

毎年恒例のOB会を3月15日に大学10号館においてOB24名、現役16名参加

今年は、創設期の、競技会、樺祭、合宿等の白黒写真を映写し、当時のOBの方には若かった懐かしき日を思い出してもらい、若いOBや現役生には時代の違いを感じてもらおうことができました。

お酒による酔いがある程度回った後は、現役によるダンスの



写蹊会 秋季撮影会

平成20年11月16日(日)、「東京旧市内の秋の風情を楽しむ」のテーマに、人ごみと盛り場を避け、趣と風情、ちよつぴりグルメも兼ねた実行計画が出来上がってみると、コースは以前2回に亘り散策した足取りをトレースする部分があるものの、趣向としては今迄にない新企画となりました。今回の集合と休憩の拠点は何と、文京区は向丘十一面観音で名高い「光源寺」です。既にお気付きのことと思いますが、当院は『やよい会』会長島田喜久子様のお寺なのです。総勢29名は定刻11時に集合、本院の謂われと歴史を伺い、平素は公開されない観音堂のご開帳に預り、御本尊の撮影も特別許可されました。広仰角撮影による全貌の把握が厳しい、被写体のスケールに圧倒される貴重な体験の一コマもありました。広間を拝借し、APACHE氏特注の特製弁当でグルメを楽しむ、

松隈昌司(工・平3年)

み、光源寺を基点に、千駄木から鬼子母神迄のコースを散策、撮影に興じました。この行程には通常繁華街では見られない下駄・鬘・和紙・呉服・着付けなどの旧商家、都内唯一のいわゆるネコグッズを扱う店が点在し、お土地柄各々が謂われある寺院や徳川家に関する廟など、見聞と撮影に興じ途中各自お好みのコースに分かれなどして、鬼子母神に到着、終わってみれば10、000歩を越える道のりを完歩しておりました。

終了後、有志による二次会が赤坂見附は北京鴨専門店で開催され、此処でも一同大いに盛り上がりました。(尚、第32回成蹊校祭写真展に十一面観音像・



ネコグッズの専門店の写真が出品されました。)

写蹊会世話人一同

写蹊会写真展

早めの開花で、果して第32回成蹊校祭当日まで花持ちが続くか懸念されましたが、一夜明ければ好天にも恵まれ、開会前から多くの方々が来訪され、会場はお客様が絶える事無く盛会でしたが、例年に比べお客様の一つの作品鑑賞に関する時間が心持ち長くなっている様に感じられました。今年も専門家による展示指導により、鑑賞し易く且つ訴求ポイントの強調を意図した効果的展示法が為された事に起因したと思われま。被写体を通じて作者の意思が何処まで表現できるか、かなり厳しく追及した作品が多くなったことも事実で、作品展示法と作者の熱意の融合がお客様の歩みを留めさせる要因になったと感じました。確かに出展者の撮影対象が、固有の被写体や状況描写に収斂する傾



向が見られることも、その一端と思われま。静物・動体・風景を問わず、どう表現するのがベストか、作者の意図するものが妥協なく表現されて居り、作品の傾向も、例えば野草などの素朴さの中に艶の風情を追求するものを始めとして、多角的に動体の象徴的動作の一瞬に秘められた美しさを追求したり、更に高度な美を地上から空間、或いは平素静観できない海中美の探索に求めるなど、あらゆる表現を尽くし選定された被写体の微趣を追求する作風と情熱は、38名の作者による会場に展開された92点の作品に託され、出展数こそ例年と変らぬにせよ、年を追う毎に美の深耕と内容の充実が同われ、今後の更なる発展

見られるわれま。問わず、トか、作協なく表傾向も、さの中にの象徴的た美しさ度な美を平素静観に求める。尽くし選を追求すの作者に92点の作そ例年とう毎に美何われ、

に繋がる布石と感じた次第であります。この度の写真展にご協力いただいた学園、史料館、成



蹊会及び大学写真部の方々に厚くお礼申し上げます。

写蹊会世話人一同

業界・企業のつどい

三菱東京UFJ 銀行成蹊会

去る3月11日水曜日、有楽町のニュートキョー数奇屋橋本店9階にある「L.A・STEEL LA」において、恒例の三菱東京UFJ銀行成蹊会が開催されました。

本会は、新人歓迎会も兼ねて、毎年1回行われているもので、当日は成蹊大学からの入行予定者の14名と成蹊高校卒業後慶応大学に進学した予定者1名を含めて50名が出席しました。

この会の歴史は古く、実務学

校のOBが在職中に発足して以来続いており、平成8年の東京銀行と三菱銀行の合併、平成18年のUFJ銀行との合併に伴い成蹊会も統合しています。OB会員も含めて会員数は358名の多くを数えるに至っており、卒業校は小・中・高・旧高・大学とバラエティに富んでいます。

当日は、司会の木谷氏（法54年）の開会宣言に始まり、この会の会長である岸特別顧問（旧高23年）からのご挨拶、井上特別顧問（旧高17年）より乾杯のご発声を頂いた後、新人を囲みながら、お互いの近況を語り合うなど和やかなひとときとなりました。大先輩のOBと新人とが和気藹々とした雰囲気となれるのも、真に成蹊人ならではの



言える光景でしょう。その後、新入員の自己紹介を行い、最後に恒例通り校歌を全員で斉唱してお開きとなりました。来年も多くの参加者を集い、活気ある会にしたいと思っております。

丹治正道（経・59年）

2008年11月25日バンコク市内中華料理店「老山東」にてタイ成蹊会を開催しました。タイ成蹊会はここ数年活動を停止しておりましたが、今年に入り会員が増え集まりを再開しました。現在登録者は16名ですが、今回は10名の参加者でした。

齊藤浩一郎さん（高S35）は

79年より6年間駐在経験があったことから現在バンコクでロングステイされています。小山隆也さん（経S51）は、三菱アルミ

の合併会社勤務、学生時代はラグビー部で活躍、タイ勤務は2回目でしたが09年1月にご帰国されます。八木篤さん（経S54）は、大丸興業に勤務、東南アジア

タイ成蹊会

地域のつどい



ア駐在経験が豊富、学生時代は自動車部に所属。杉山新一さん（経S54）は日本金属工業勤務、08年9月に駐在事務所を立ち上げたばかりです。穴戸晃さん（法S55）は日本金属勤務、シンガポール勤務を経て08年3月よりバンコク駐在。玉村光央さん（工S56）は、本田技術研究所勤務、学生時代はラグビー部インドネシア駐在を経て07年よりバンコク勤務。竹本充さん（高S61）は京石産業勤務、香



港駐在経験が豊富、学生時代は自動車部に所属。杉山新一さん（経S54）は08年9月に駐在事務所を立ち上げたばかりです。穴戸晃さん（法S55）は日本金属勤務、シンガポール勤務を経て08年3月よりバンコク駐在。玉村光央さん（工S56）は、本田技術研究所勤務、学生時代はラグビー部インドネシア駐在を経て07年よりバンコク勤務。竹本充さん（高S61）は京石産業勤務、香

つどい

港駐在経験もあり、97年よりタイ勤務。蛭川洋さん(法S62)は富士通勤務。台湾成蹊会でも活躍。07年1月よりバンコク勤務、幹事役として活躍していただいています。伊東総久さん(経H10)はHOYO (THAILAND) 勤務、学生時代はラグビー部。現在タイ現地法人の責任者として活躍中。最後に幹事役の岩尾英之(法S55) キリンビバレッジ勤務、08年1月より駐在。海外の成蹊会は、香港、上海に次いで3カ所目。キリンブランドのお茶をタイで販売しています。

今後は年に4回を目処に定例会を開く予定です。学園の卒業生でタイ駐在の方がおられましたら是非ご連絡下さい。連絡先は地域同窓会をご参照下さい。

岩尾英之(法・55年)



第27回QLD成蹊会を2009年3月21日(土)12時、ゴールドコースト市内の中華料理店(シ

ヤークスフィンで飲茶の昼食)

で7ヶ月振りに開催いたしました。日本とは季節が異なり、秋分の翌日でまだ日中は残暑を感じますがそれでも朝夕は一段と爽やかになった今日この頃です。東京からはご家族、親戚の皆さんと観光、ゴルフに来られた宮坂剛一夫妻(S40政経)、ゴールドコーストにも住居をお持ちの中橋和夫さん(S35高校) 夫妻に参加いただきました。

Junko Van Doranさん(旧姓高橋淳子) S54文・英米文学科)、今回は不参加でしたが、今回は是非、皆さんにお会いしたいとのことで出席されました。

当会幹事役の素子Donoghueさん(旧姓岡田素子) S44政経)はロイヤルバイリンゾート代表の秘書・通訳を退職されてから読書三昧、悠々自適の毎日をご過ごされています。今回も紙袋一杯の日本語小説を2袋も持参して参加されました。ご子息のパトリック・ジュニアさん、グリフィス成蹊交換留学生(1997年4月-1998年2月)がオーストラリアに戻られて久しぶりに(前回参加は2000年1月2日)親子で参加されました。パトリックさんは



三鷹市役所からJPMorgan・スタンレー(東京)に勤務、滞日中に日本人女性と結婚され二人のお子さんがいます。今後はオーストラリアにお住いの予定なので当会に参加いただける機会が増えると思います。前回参加の織田健さん(S37年政経)はご都合により不参加となりました。

例年、新年会に参加の北海道日高牧場の下河辺俊行さん(S40政経) 夫妻は1月中旬、何時

も通り真夏の当地でゴルフを毎日のように楽しんでいかれました。

2月中旬に池田裕さん(S46工・電気電子工学科)がゴルフ旅行の際に尋ねてくれました。池田さんは1989年から1994年まで隣国ニュージーランドで勤務会社のNECと現地テレコム(電話公社)の合併会社で日本側代表として勤務されました。オーストラリアにも度々来られ、今回は成蹊会誌を読まれてご連絡いただきました。

そして、成蹊会の田上常務理事さんからのご紹介で岡野彩さん(成蹊大学4年文学部)今春卒業)から連絡をいただきました。岡野さんは大学ライフセービング部に所属し、全豪ライフセービング大会が西オーストラリア州のパース市で開催(3月17日-21日)、日本代表の一員(岡野さんは日本のトップファイブに入る)として参加されました。QLD成蹊会には、日程が合わずに参加できませんでした。

杉浦重勇さん(S39政経)が昨年夏に、ご病気のために逝去されました。当会には創立して間もないころから参加していた

だいておりました。昨年3月20日(第25回)の参加が、最後となりました。心からご冥福をお祈りいたします。

なお、当会では学園(小中学校)の卒業生に限らず広くご家族、友人の参加も歓迎しておりますのでご連絡下さい。皆様もゴールドコーストに来られるときにはご遠慮なく一報下さい。

e-mail: samnishijima@hotmail.com
Tel: 07-55947585
Mobile: 0418763717

西嶋 勇(政経・40年)



三月二十六日(木)上海成蹊会の月例会が開催されました。

現在会員は約五十名ですが、この日は六名の歓迎会と送別会が重なったため、二十六名の参加となりました。この日のメインゲストは成蹊大学経済学部三年生の荻原照さんと文学部三年の西村紀子さんです。お二人は成

ておりま

第25回)

ました。

いたしま
お、当会
字の卒業
族、友人
ますので
ゴールド
きにはご

til: sam
.com
: 07-5594
ile: 041

西嶋 一

上海

月二十六
月例会が
会員は約
は六名の
つたため
りました
トは成蹊
荻原照さ
紀子さん



蹊大学の交換留学プログラムで上海同済大学に留学しているのです。この日はかつて三菱グループの留学生派遣プログラムで成蹊大学大学院に留学経験のある徐曙さん、王琳さんも出席しました。

上海成蹊会は一九九九年五月に発足しました。以後後輩たちに綿々と引き継がれ、日本に帰った先輩や他国の駐在として転勤された方々によって上海成蹊会東京支部が結成されています。そこにはシンガポール成蹊会やタイ成蹊会もリンクしており、長い間日中関係の発展に努力されている呉四海さん（東方テレビ日本語番組「中日のかけ橋」キャスター）の店（渋谷のワンズキッチン）で定期的な食事を開催しています。上海成蹊会

さる2月21日（土）札幌パークホテルにて26名の会員のご参加をいただき北海道支部主催「枯林忌の集い」を開催いたしました。本年度は、役員改選期であり総会にて島津裕行会長（S36政経10期）の再任が満場一致にて承認されました。また、総会では本年度の事業計画（4大学対抗（成城・学習院・武蔵）春・秋ゴルフコンペ、4大学合同大忘年会）の確認と北海道支部設立60周年記念事業について活発な意見交換が行われました。

総会終了後、真下正武顧問（S25旧高23期）の乾杯でいよいよ枯林忌の集いが開宴。参加者全員より近況報告をいただき終始和やかな雰囲気の中、4大

北海道支部 「枯林忌の集い」

は大学だけではなく、成蹊高校卒業者も含めた同窓会です。上海に駐在、或いは駐在員夫人として赴任されている方はぜひご連絡をいただきたいと思います。

眞我部裕行（経・50年）



学対抗ゴルフコンペでの優勝を誓い閉会いたしました。2次会はホテルのバー。そしてその後は、各々スキノのネオンへと消えていきました。

ちよつと話題が変わりますが、地方成蹊会の共通問題である会員数の減少傾向になかなか歯止めがかかりません。当支部も例外ではありません。しかし、4大学が力を合わせると1000人を超える会員が集うことができます。北海道支部では、4大学内での先輩後輩という新しい関係ができています。是非、他支部におかれましても4大学間の連携を深めてみては如何です

去る11月27日に秋田成蹊会が開催されました。会場は「料亭濱乃家」（H20卒業竹島君実家）にて雨により足元が悪いなかでしたが、26名のOB・OGに参加して頂き、盛大に執り行われました。

また、成蹊会本部より相川会長にお越しいただき秋田の地の同窓と親睦を深める良い機会になったのではないのでしょうか。

また総会では近隣の東北地区における成蹊会の活発な交流の促進や、足踏みしている地元経済状況を成蹊会の強靱なネット

秋田成蹊会

か？きつと新しい発見があると思います。

最後に、北海道支部では、毎年2月21日に枯林忌の集いを開催しておりますので、この時期に出張やご旅行で来札された際には、是非事務局までご一報ください。会員皆で温かくお迎えいたします。

大岩 勝（工・57年）

最後に成蹊校歌を声高らかに合唱し、のち参加者全員で記念撮影を行いました。次回の春の成蹊会での再会を誓いあい閉会しました。

竹島和憲（法・平20年）

ワーク基盤の構築により多くのビジネスチャンスを開拓して打破するきっかけを模索していくことを確認しあいました。

秋田名物である新米の「きりたんぼ」と秋田を代表する美酒「飛良泉」（S54卒業斎藤君経営）に酔いしれ近況報告や学生時代の思い出話に皆が花を咲かせ大いに盛り上がりました。

最後に成蹊校歌を声高らかに合唱し、のち参加者全員で記念撮影を行いました。次回の春の成蹊会での再会を誓いあい閉会しました。

竹島和



ワーク基盤の構築により多くのビジネスチャンスを開拓して打破するきっかけを模索していくことを確認しあいました。

田名物で「ぼ」と秋良泉（Sに酔いしれの思い出に盛り

後に成蹊し、のち

会での再

した。

竹島和

ワーク基盤の構築により多くのビジネスチャンスを開拓して打破するきっかけを模索していくことを確認しあいました。

田名物で「ぼ」と秋良泉（Sに酔いしれの思い出に盛り

後に成蹊し、のち

会での再

した。

竹島和



埼玉成蹊会



第6回埼玉成蹊会が、去る3月14日(土) 12:00から、会員の小田晋さん経営の大宮氷川神社横、明治18年創業の老舗料亭「二の家」で開催されました。参加者は23名、あいにく仕事と体調不良の関係で2名の当日欠席者がいましたが、雨天ながら春のこちよいやわらかな雨模様で、雨にけむる氷川神社のヒノキの参道をゆつくり観賞しつつ、駅や自宅からの距離を徒歩で楽しみながら参加された方もおられました。

今回は初参加の方が9名、平成18年卒業という若い方から昭和36年卒業の大先輩まで、幅広い年代が一堂に会しました。最近埼玉に居を移したという方も3名おられ、世田谷の一軒家を処分してさいたま市に引っ越してこられた方、転勤でこられた方、奥様の出身が埼玉なのでこちらに居を構えたかたなどが、地域に根ざしたネットワークの

足がかりとして埼玉成蹊会にご参加くださいました。中には、配布した名簿の中で、マンションが同じで、しかも同じ階に住んでいる埼玉成蹊会のメンバーがいることを大発見し、たいそう喜んでおられました。楽しくウィットに富んだ自己紹介を一通り済ませた後は、各テーブル入り乱れての交流会が始まりました。同窓ということ、一挙に垣根が外れる瞬間です。この暖かい、なごやかな雰囲気は成蹊会ならではのことで、最後は、参加者の最長老でいます。



最後は、参加者の最長老でいます。

まだにグリークラブで活躍の初参加、昭和36年政経卒の羽鳥弘章様による、「オーソレミオ」の独唱に大喝采、平成18年卒の中村元さんの先導による校歌の斉唱でお開きとなりました。小田様には、事務局からのわがままを聞いていただき、破格のお取り扱いをいただき、お陰様で静寂なたたずまいの中、おいしいお料理を堪能させていただきました。

今度も年2回程度の会合、または、ゴルフの会など開催していきたいと思っております。

次回は本年秋季に開催を予定しております。是非ご出席いただきますようお願い致しまして、埼玉成蹊会の報告とさせていただきます。

ご連絡は左記まで。

事務局代表 田中徳尚

TEL 048-222-1477

田中徳尚(経・51年)



渋谷成蹊会



2月6日(金) 渋谷成蹊会としては珍しく雨の降らない日に第43回目の定例会を表参道のダイヤモンドホールで午後6時半より開きました。参加者は73名で内5名の新入会員が有りました。

乾杯は参加者中最長老の赤石先輩(政経27年)のご発声で開会し2時間余りがアット言う間に過ぎました、旧制高校卒の大先輩から平成20年卒の若い方までが年齢を超えて和気あいあいの雰囲気直ぐ成れるのは赤レンガとケヤキ並木という共通の想い出が有るからではないでしょうか。

この会は発足以来21年に成りますが、始まりは渋谷の住人、又は勤務地が渋谷に在る方で会員も少人数でしたが、東京に地域成蹊会が無いので入会希望の方が増え、ご自分が渋谷に関係が有ると思う方も会員に成って頂いている内に登録会員200



人を超えるようになり毎回70〜80名の方々が参加される大がかりな同窓会と成りました。

会場も渋谷で成蹊の卒業生が経営するお店やホテルで開いて居りましたが、参加者の増加に伴い最近は大イヤモンドホールで開催しております。

毎年2月と7月に開催しておりますのでご参加希望の方は、野口 修君(FA X 03-333



超えるよ
右の方々、
は同窓会
も渋谷
るお店
ましたが、
取近はダ
催してお
平2月と
9のでご
修君(

27-9101)まで、卒業年次・ご住所・勤務先等お知らせ下さい。

池原正夫 (政経・36年)

八王子成蹊会



第3回八王子成蹊会が平成21年2月21日(土)午後6時より八王子エルシーにて開催されました。



小澤会長はじめ世話人メンバー各人の入会勧誘の努力により、八王子在住の同窓のメンバーに加え近隣の立川、国立、相模原等からも同窓の方々に出席していただき、盛大な会の開催となりました事ここに報告申し上げます。

今回は総勢48名の出席をいただき、楽しく旧交を温める事ができました。

次回も又より多くの方にお誘いあわせの上ご参加いただけますようお願い申し上げます。

問い合わせ、連絡先は、

林 光男(高校 8回)

八王子エルシー内

八王子成蹊ファミリィ会

(042-623-2111)

林 和男(政経・40年)

神奈川成蹊会



昨年11月14日に横浜のホテル

ニューグランドで神奈川成蹊会

第6回総会が開催されました。

会には成蹊学園専務理事橋本竹

夫様、成蹊会常務理事田上尚道

様もご出席下さいました。

橋本専務理事様からは学園の現況についてお話を頂き、田上常務理事様のご発声による乾杯の後、出席会員46名が立食形式のパーティーに移り、秋の夜のひと時を賑やかに過ごしました。

この会も回を重ねてまいりましたが、幹事といたしましては今までの運営方法で皆様にご満足頂いているのだろうかと思惑の面もあり、アンケートによりご意見を伺いました。

その結果、「山下公園越しに港を望み、ワイングラスを傾けながら仲間と旧交を温められるのは、何ととっても老舗のニューグランド」というご意見でした。従いまして、今後も引き続き同じ会場で開催して行くことにしております。

宴の終わりにはIさんの元気な音頭とりで皆が校歌を斉唱し、Yさんの確かなカメラが集合写真を撮ってくださいました。次回での再会を約してお開きとなり、三々五々家路へ或いは2次会へと向かわれました。

東京から来て下さった初参加の女性Nさんは、ホテルのバーでの2次会に参加され、ソファに腰をおろして一言「楽しか



つた！ 病みつきになりそう

次回は平成21年11月5日(木

曜日) 19時から行います。今迄

ご出席されなかつた方も秋の夜

の横浜へ是非お越し下さい。

連絡先 神奈川成蹊会事務局

(ヨコハマ大道芸内)

TEL: 045-662-9189

FX: 045-662-9234

田原立夫 (政経・32年)

三重成蹊会



平成20年11月20日(木)午後

6時30分、土性幹事の司会にて

第28回三重成蹊会が開催されま

した。今回は、津での開催とな

り、16名の参加者でプラザ洞津

にて総会が行われました。お昼

には、三重成蹊会ゴルフコンペ

も行い、その後総会の開催とい

うことで多数の参加者が期待さ

れましたが、例年より少ない参

加者で残念な結果となりました。

総会は、平井三重成蹊会会長

の挨拶の後、遠路はるばるお越

しいただいた、成蹊会総務部長

の長岡敏郎様からの挨拶と成蹊

の現状等の紹介を受け始まりま

した。

会計報告等致苦しいものは、

紙での報告にて省略して、各自

の自己紹介と歓談の場として大

いに盛り上がりました。各自の

自己紹介では、皆様の現状を聞

いて誰もが年を取ってきたなど

という思いと、学校時代の思い出

等には若かりし時代の懐かしい

三重



平成20年11

月30分、+

第28回三重

成蹊会。今

回は、16

名の参

加者が行

った。今

回は、三

重成

蹊会

は、平

井三

重成

蹊会

会

長

岡敏

郎

様

から

の

挨拶

と

成

蹊

の

現

状

等



長崎成蹊会

長崎成蹊会総会が、平成20年11月29日(土)JR長崎駅に隣接するホテルニュー長崎で開催されました。(参加者16名)

思いがよみがえってきて大変楽しい時間を過ごすことができました。

7月に日本の外務大臣表彰を受賞された、三重大学名誉教授の梅林正直教授の話もとても興味深く聞かせてもらい皆様の活躍が頼もしく思えたものです。三重成蹊会も28回を迎え30回を記念大会にできるよう参加者を募り大いに盛り上げていきたいと思っております。

村田正明(政経・34年)

「同窓のひびく」
「奇稿ください」
字数 五百字(写真付の場合)
八百字(写真無しの場合)
締切 いつでも結構です。

学園紹介ビデオを見ながら開会を待ち、成蹊会高橋道哉事務局長をご来賓にお迎えして伊藤壽彦幹事の進行で開会。南北に長い長崎県の県北事務局長安本光治さんにより平成20年活動報告が行われ、新年会、花見会、総会・懇親会などの例会のほか、武蔵、成城、学習院との4大学懇親会、九州支部総会への参加など、懇親会を中心とした活発な活動・行事を振り返りました。平成21年は同様に5回の懇親会ゴルフコンペなどの活動計画が提案され、若杉徹副会長による決算報告も異議なく承認されました。懇親会と役員の数多さは長崎成蹊会の特徴でもありますが、新年度の役員14名も原案通り承認されて総会は終了しました。



懇親会が高橋道哉事務局長の学園の近況を含む挨拶(耐震工事中の本館の様子を目に浮かべながら伺いました。)に始まり、各会員の自己紹介と近況報告で次第に盛り上がりつつありました。40数年前の武蔵野の豊かな田園風景が思い浮かべられるような中島通男先輩のお話をきっかけに、卒業年代ごとに少しずつ異なる吉祥寺の変遷が浮かび上がったり、新家庭を持ち第一子誕生も近いという松尾光一郎

予告

■千葉支部総会

日時 平成21年7月4日(土)
午後3時~7時
(受付開始 午後2時30分)
場所 千葉市商工会議所14階・第1ホール
(千葉中央ツインビル2号館)
千葉市中央区中央2-15-1

講演 講師 竜 崇正先生(高13回)
千葉大学医学部卒業

・演題 「がん治療はここまで来た」
最新のがん情報(約60分)

・懇親会 味工房
午後5時~7時 同ビル9階

TEL 043-222-3140
TEL 10,000円(女性8,000円)
TEL 043-247-9541
FAX 043-247-6947

■理工学部同窓会総会

今年も例年の通り11月の標榜期間中の日曜日に、理工学部同窓会の総会を開きます。
お誘いあわせのうえご参加いただきますようお願い申し上げます。

平成21年11月22日(日)午後1時~3時(予定)
場所 14号館4階 大会議室(予定)
会費 2千円
参考 標榜期間21日(土)~22日(日)

■大学卒業40周年(昭和44年卒業生)

日時 2009年10月31日(土)
13:00~15:00
場所 成蹊大学10号館12Fホール
会費 8,000円
代表世話人・齋藤光行

「第12回SGCゴルフ大会・八王子CC貸切で開催」

参加者募集中

成蹊学園の卒業生によって、年に1回コースを貸し切って開催される「SGCゴルフ大会」が、今年10月20日(火)八王子カントリークラブ(東京都)で開催されます。現在、参加者を募集中です。個人戦の他に4人チームの団体戦も人気があります。過去11回の優勝チームはラグビー部(4)、ゴルフ部(3)、アメリカンフットボール部(2)、軽音楽部(1)、スキー部(1)です。()内は優勝回数。
お申込は2名又は4名1組で受け付けています。参加をご希望の方は実行委員会事務局(電話:042-546-3333 担当西川 Eメール:hiro5141@whi.m-net.ne.jp)までお問い合わせ下さい。

「第12回SGCゴルフ大会・八王子CC貸切で開催」

参加者募集中

さんをお祝いしたり、第一の職場 第二の職場でがんばっている人、お嬢さんが日本舞踊で「くんち」参加し、家族ぐるみ「和事」にのめりこんでいる松田武浩さんなど、相変わらず個性的な面々が家族のようなおつきあいを発展させている長崎成蹊会です。

ホテルの同じフロアの別の部屋で、「長崎くんち」で全国的に知られている龍踊り（じゃおどり）を今年奉納した町内の関係者が、長い稽古期間を共にし無事大役を終え、慰労の「打ち上げ」を行っていました。中国楽器のにぎやかな音、長崎っ子なら心の浮き立つ祭り囃子の横笛「シャギリ」の音が、私たちの部屋まで聞こえてきて、ちょっとしたお祭り気分も味わえました。

長崎在住でも集まりに参加されたことのない方、しばらくお休みされている方、いつでも気軽にかけください。すぐに溶け込め、なにか見つけられると思います。私もいつの間にか中国語の勉強を始めていました。

内山響子（小・36年）

東海学士会例会で根本智君（旧高20回）が講演

旧制高等学校および旧制国立大学を卒業し、東海地区に在住する人たちの集まりで、毎年当地区の寮歌祭を主催している「東海学士会」は、昼食・講演会を隔月開催しており、講演会の講師は各会員が持ち回りで、各出身校の関係者に依頼することになっている。

成蹊としては、平成18年に峯岸典雄君（旧高22文甲）が『県民性と県鳥性』を、同19年に谷喬君（旧高21理甲）が『切手と郵便に見る学校史』を語った（一昨年の成蹊会誌で報告済み）のに続いて、昨年には根本君（旧高20理甲）が講師を引き受けてくれた。以下にその模様を報告する。

◎日時：平成20年11月8日（土）

13：30～14：30

◎場所：名古屋国際ホテル2F会場

◎演題：ライト兄弟以前に動力飛行に

成功？した人々

◎概要：ライト兄弟は、ライトフライヤーI型で世界初の有人動力飛行に成功したが、世界で最初に軍用機を構想したのも彼らだった。この成功の鍵は「撓み翼」と称される「機体を傾げるために主翼をひねる構造」に関わる特許で、これを例えればアメリカ政府の管理下に置けば、アメリカと戦争を構える国はあり得ないから、戦争を防止できると考えたのだ。しかし、他の構造でもこの特許の目的を実現できるという特許としての「脆弱性」が明らかになると、戦争防止の夢は破れた。更に、スミソニアン協会理事長が製作して飛行に失敗した機体を改造し、「ライト以前に動力飛行が可能であった飛行機」としてスミソニアン博物館に展示するという狡猾な手段を用いる者まで現われて、ライトは嫌気がさし、1928年にロンドンのサイエンス・ミュージアムにフライヤーI型を貸し出してしまふ。協会がライトに詫言を入れ、機体が戻ったのは1948年、初飛行から実に45年後、第二次世界大戦終了後のことで、原子爆弾投下による大惨事の後でもあった。歴史に「もしも」は禁句である

が、もしもアインシュタインがライトに学び、「武器の発達だけで戦争を無くすことができる」という考えは妄想に過ぎない」ということに気が付いていれば、彼がルーズベルトに原子爆弾製造を具申することもなく、現在の人類が抱える解決不可能な難題「核の脅威とその廃絶」も存在しなかったかもしれない。……

ということ、各時代のパイロットとその飛行機の絵をレジメで示しながら説明し、約40名の参会者に多大の感銘を与えた。

当日、愛知成蹊会の「飛行機野郎」が6名も聴講したので、講演終了後、名古屋駅内の小料理屋で、講師を囲んで「ミ二愛知成蹊会有志会」を行い、飛行機について超具体的な質疑応答とか経験談が交わされ、時の経つのも忘れるほどであった。講師の予約した列車時刻ギリギリまで話が続き、改札口で慌ただしく別れを惜しんだ。

由比健郎（旧高・22年）

シュタイ
ンタイン
だけであ
る考えは
刃が付い
原子爆弾
仕の人類
の脅威と
もしれな
合時代の
レジメ
参会者に

云の「飛
で、講演
で、講師
云を行
質疑応答
つのも忘
した列車
札口で慌
比健郎

そこが
知りたい

地域の建設業、苦境いつまで

（全建）の浅沼健一会長 浅沼組社長に業界の現状と見通しを聞いた。

「マンシヨン不況の影響で破綻する建設会社が増加している。」

公共工事の減少やマンシヨン着工の低迷で、建設業界の状況は厳しさを増している。今年十月末までに建設会社の経営破綻に伴う負債総額が一兆円を超え、四年ぶりの高水準。地場の有力建設会社が経営破綻する例も出ている。中堅、中小を含め二万を超す企業が加盟する全国建設業協会



全国建設業協会会長 浅沼 健一氏

1973年浅沼組入社。79年英サセックス大博士課程修了。95年社長。08年から全建会長。57歳

資金繰り悪化、一層淘汰も

姿勢も変化している。「会員企業を対象に調査したところ、貸し渋りや貸しはがしの現象が起きています。金融機関から受注見ることが明白になった。仕

事が減っており、簡単には見通しは立てられない。地域金融機関が経営統合した結果、建設会社への貸出債権が破綻懸念先に分類されたという話もある」

「さらに世界的な金融危機の影響が（地域の金融機関）さらなる懸念が（地域金融機関）及んでくる懸念がある。これから資金繰りはさらに厳しくなるだろう。」

「立屋」という立場。二社が受注する「仕」を考へてほしい」

聞き手から一言

過剰な雇用など課題もなお多く、長年、官需に大きく依存していた地方の建設業界が、ようやく民間へのシフトを進めていたなかでのマンシヨン不況。経営者は頭の建設産業の担い手になる。減るだけで、製造業のような合併効果は期待できない。業界の現状を考えると、再編というより淘汰が進むことになるだろう。」

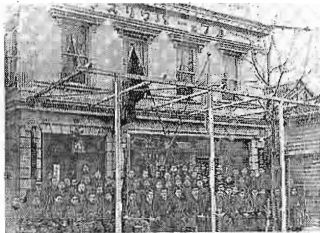
浅沼 健一氏（経・48年）

日本経済新聞 2008年（平成20年）11月23日付けより

長谷川泰三氏（高・29年）

文 化

東京・銀座にあるカフェ・パウリスタ。「サン・豆を十二年にわたって無償供与することを決める。そこで誕生したのがパウリスタで、今日の喫茶店の原型を作った。」大正期には全国に二十六店を数えたが、関東大震災で都内の店舗がほぼ全壊するとともに、コーヒー豆の



パウリスタ銀座店で1916年に開かれた社内新年会

た。そこで様々な文献に当たることで、伝説の喫茶店とでもいふべき第一期パウリスタの歴史を調べるようになった。

ウエーターに少年パウリスタが人気を博した背景には、コーヒーをほかの店より大幅に安

一杯五銭で提供したところにある。しかし理由はそればかりではない。それまでの「女給」によるサービスに代え、パウリスタ銀座店は少年を起用した。当時の新聞広告には、海軍士官の制服を身にまとい、銀色のお盆を持つ少年ウエーターの絵が描かれている。清潔感のある少年たちのサービスは大正時代の日本人を驚かせた。



前である。時事新報には、文芸春秋を起す前の菊池寛が勤めており、芥川龍之介ら多くの作家仲間が訪ねてきた。その会話

の舞台となったのが銀座店。芥川の「侏儒の言葉」には「今日の民衆はパウリスタを愛してゐます」とあるが、これは間違いなくパウリスタのコーヒーだろう。

小島政二郎の「甘肌」では、「銀フラ」という言葉を使ったのは成毛五十六という慶応大学文科の学生詩人であるとしたうえで次のように記す。

「その頃時事新報社があり、その前に宇野浩二が何かと云うと書くカフエ・パウリスタと云う、五銭でパウリスタコーヒーを飲ます木造二階建ての洋館があった。三田からここまで歩いてきて、コーヒー一杯飲む、それが銀フラの何よりの楽しみだった。「銀フラ」の「フラ」はあるいは「パウリスタ」から取られたのかもしれない、と私は考えている。

◇多くの文人が集ったパウリスタを調査◇

長谷川 泰三

伝説の喫茶店歴史探る

舗だ。

###

「ブラジル移民の父」明治四十四年（一九一一年）にパウリスタを開いたのは、日本最初のブラジル移民船の団長であり、ブラジル移民の父と呼ばれた水野龍。サンパウロ州政府はその苦勞をねぎらうとともに、日本でコーヒーを普及することを狙い、水野にコーヒー豆を十二年にわたって無償供与することを決める。そこで誕生したのがパウリスタで、今日の喫茶店の原型を作った。

大正期のパウリスタは多くの文化人に愛され、しばしば小説やエッセイ、絵画に登場する。それもあってか、パウリスタを経営する日東珈琲の新社長である私の元には、様々な問い合わせがあった。しかし、私自身は何も知らないに等しかった。

「日本でも最初の喫茶店『ブラジル移民の父』がはじめた。カフエパウリスタ物語（文園社）といふ本にまとめた。とはいもパウリスタの全貌はまだ明らかになっていない。今後も日本にコーヒー文化をもたらし、喫茶店について調べていく。（はせがわ・たいぞう）日東珈琲社長」

た。隣の部屋でばれたのだ。前の絵はがきにパウリスタの文字を発見、さらに新聞に載った眞面店の開業広告を見つけた。眞面店はわずか一年で閉店してしまっただけで、一号店であらうと推測した。その後、両者合同での宴会となったという。

「日本で最初の喫茶店『ブラジル移民の父』がはじめた。カフエパウリスタ物語（文園社）といふ本にまとめた。とはいもパウリスタの全貌はまだ明らかになっていない。今後も日本にコーヒー文化をもたらし、喫茶店について調べていく。（はせがわ・たいぞう）日東珈琲社長」

「日本でも最初の喫茶店『ブラジル移民の父』がはじめた。カフエパウリスタ物語（文園社）といふ本にまとめた。とはいもパウリスタの全貌はまだ明らかになっていない。今後も日本にコーヒー文化をもたらし、喫茶店について調べていく。（はせがわ・たいぞう）日東珈琲社長」

週刊「AERA」(3/23日発売)に掲載されました。 1

世界的な金融不安が広がり、国際社会は混迷の度合いを深めている。こうした時代にあつて、社会が求める人材像とはいかなるものか。大学はどのような教育を目指すべきか。世界を舞台に活躍し、日本の経済成長を牽引してきた三菱商事株式会社の榎原稔相談役と成蹊大学の栗田恵輔学長が大いに語り合った。

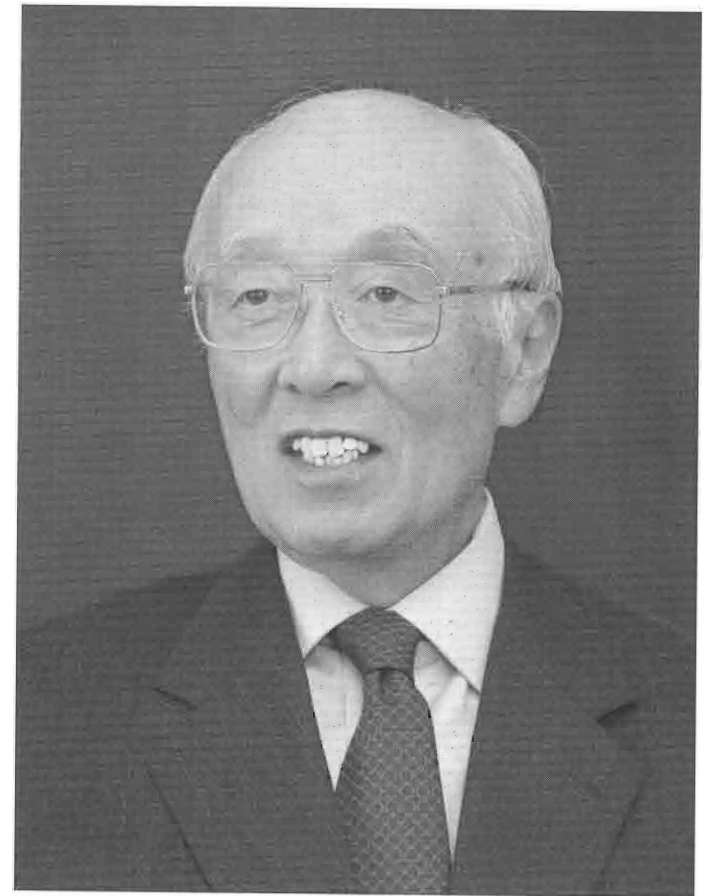
世界に目を向けることが飛躍につながる

栗田 グローバル化の進行にともなう、新時代を生きる若者たちには、これまで以上に国際感覚を磨くことが重要なテーマになっていきます。榎原さんは私にとって成蹊高校の先輩にもあたるのですが、高校3年生の時に、アメリカ屈指の名門全寮制私立学校であるセントポールズ校に留学され、その後ハーバード大学に進まれていきます。若い頃から海外で学ぼうとしたのは、何かきっかけがあったのでしょうか。
榎原 私は父(寛氏、元三菱商事水産部長)の仕事の関係で、ロンドンで生まれ、小学校入学時に帰国し、成蹊小学校に入学しました。成蹊小学校は当時から国際学級を

混迷する現代における大学教育のあり方を探る

今こそ教養教育を!

設けて、私のような帰国子女を積極的に受け入れていたからです。そうした環境のもとで生まれ育った関係で、早くから海外への関心は高いものがありました。私だけでなく、終戦直後は、若者の多くが、これからは世界を舞台に活躍する時代がくるという考えを強く意識していた気がします。
栗田 その当時留学するのは様々な面で困難があつたはずですが、それでも海外に行きたいと考える若者が多かったというのは興味深い話です。残念ながら、海外がより身近になった現代の若者の方が、世界への意識が薄い親もいます。もちろん、国際交流に積極的な学生も少なくありません。成蹊大学でも、たとえば昨年9月に、自転車部の部員2名が、セルビアから独立したコンボで、失業率が6割を超える現地



榎原 稔 三菱商事株式会社相談役

1930年生まれ。成蹊高等学校(旧制)3年在学中にアメリカ・セントポールズ校に留学。1954年ハーバード大学政治学部卒業。1956年三菱商事入社。1992年社長、1998年会長を経て、現在同社相談役。
2004年ハーバード大学「ハーバードメダル」名誉賞、2005年第一等旭日大勲章など受章多数。

2 成蹊学園創立100周年記念 建学の日特別対談



の人たちの職業訓練のために、自転車の組み立てを指導しました。このように自主的に諸外国とつながりを持つという活動も見られる一方で、全体的には「内向き」の学生が増えている印象があります。学生のときにこそ異文化に触れることで、自分自身を見つめ、視野を広げる絶好のチャンスだと思っています。
榎原 私が留学したのは、ちょうど三鷹事件が勃発したころで、日本の社会情勢は混沌としていました。当時と比較すると、今の学生たちは豊かで恵まれた生活をおくっていますから、海外に目が向かないのかもしれないですね。私は、十数年前ハーバード大学のアジアセンターの発足に関わったことがあるのですが、当初は相当数の日本からの学生の流入を期待していました。ところが、実際に学んでいるのは、圧倒的に中国から、次いで韓国からの学生が多く、日本からの学生は少数派です。このままでは日本はグローバル社会から取り残されてしまうのではないかと、そんな危惧を抱えています。

専門知識だけでは国際人として通用しない

栗田 おっしゃる通りだと思います。そのため、成蹊大学では国際教育センターという全学的な組織を設立しました。実践的な英語教育やアジアをはじめとする諸外国との相互理解を深めるための近現代史教育の充実を図っています。海外留学支援にも力を注いでおり、欧米、アジア、オセアニアなどの大学と協定を結び、多くの留学生を送り出しています。今後もさらに国際交流を活発化させていくつもりですが、榎原さんは、大学における国際教育で、重要なポイントは何だとお考えでしょうか。

時代にふさわしい教養教育を

栗田 確かに、グローバル社会では視野を広げて柔軟に思考することが求められます。その基盤になるのが教養というわけですね。成蹊大学でもその点は十分に認識しており、2010年度から全学部共通の教養教育である「成蹊教養カリキュラム」を導入します。特色は英語教育を徹底すること

もに、文理融合型の教養教育を展開することです。これによって多角的な視点を育成したいと考えています。少子高齢化社会、環境、資源・エネルギーなど、現代社会が抱える課題はいずれも、単一の学問分野からアプローチで解決することは困難で、文理の枠を超えた発想が不可欠だからです。吉祥寺のワンキャンパスに文系、理系すべての学部を擁するメリットを生かして、学部間の垣根をとりはらった、本学ならではの教養教育を構築したいと考えています。
榎原 大賛成です。ジェネラル・エデュケーションの重視は、世界的な潮流でもあります。私が約20年前に会ったハーバード大学の学部長は「倫理教育、2つ以上の言語の修得、物事を論理的に分析する能力の3点を重視したジェネラル・エデュケーション体制の構築が私の使命だ」と、熱く語っていました。



栗田 恵輔 成蹊大学学長

1942年生まれ。成蹊高等学校を経て、東京大学工学部卒業。同大学院工学系研究科博士課程修了。1976年成蹊大学助手となり、以後、工学部長、国際交流センター所長などを歴任し、2004年より学長。



しかも、ハーバード大学では、いったん構築してそれで完了ではなく、社会の変化を踏まえてフレキシブルに改革し続ける姿勢も備えています。成蹊大学にも、常に「チェンジ」を意識したジェネラル・エデュケーションを目指してほしいと期待しています。

学生の意識改革こそ
キャリア教育の役割

栗田 ところで、近年、若者の離職率の急上昇が大きな問題になっています。価値観が多様化し、将来の選択肢が広がったために、かえって自分の将来像がイメージしにくくなっていることも要因のひとつだと思います。そこで、成蹊大学では、従来の就職部をキャリア支援センターに改編するとともに、キャリア教育にも力を注いでいます。

横原 ただ、一般的にキャリア教育というと、資格取得やビジネス実務に直結する知識・技術を修得させる教育が中心になっている印象があります。しかし、産業界の立場から言わせてもらえば、私たちは大学

卒業者にそんな能力の涵養を期待しているわけではありません。確かに、三菱商事では経理実務能力は不可欠ですが、それを身につけることが大学時代の必須条件ではないと思います。入社後のオン・ザ・ジョブ・トレーニングで十分に修得できますし、より高度な実務能力の獲得を目指すのであれば、ビジネススクールに派遣する制度も設けられています。それよりも、大学時代には、物事を論理的に分析できる力や、問題を発見し解決しようとする姿勢などを培ってほしいのです。そして、そうした能力を鍛えるのが、広い意味でのジェネラル・エデュケーションなのではないでしょうか。

混迷の時代だからこそ
求められる「人格の陶冶」

栗田 そのほか、今後の大学教育に望まれることは何でしょうか。

横原 グローバル化の時代においては、英語教育の充実がまず挙げられます。とくにビジネスの世界では英語が共通語とし



て多く用いられます。これは、ビジネスに最適な言語が、主語・述語の関係が明快な英語であるという側面が大きいと思います。私が感謝しているのは、成蹊学園では戦争中もハイレベルな英語教育が続けられていたことです。英語が敵国語として忌避されていた時代に画期的なこととして、成蹊学園の国際性を如実に示すエピソードといえるでしょう。

栗田 現在でも、成蹊大学の学生の英語力修得への意欲は高いものがあります。もはや現代人にとって、英語は不可欠な教養であると同時に道具になっていますから、先ほど申し上げた「成蹊教養カリキュラム」の中で、さらに英語教育を充実させる予定でです。

栗田 成蹊学園は2012年に創立100周年を迎えます。本学にとって、その前身である旧制高等学校(7年制)以来大切に育んできた独自の学風と卒業生の力は大きな財産です。これらを礎に、次の世紀に向けて飛躍するために掲げた人材育成方針は「21世紀の社会に貢献する専門性を備えた教養人の育成」です。



のんびりしすぎていて、競争意識が欠けていると指摘されることもありすが(笑)、とても信頼できる人材を数多く輩出しています。この「信頼」につながる人格教育が重要です。それはまた、混迷を深める現代社会においてこそ生きてくる非常に重要な資質でもあると、私は確信しています。近年生じている問題の多くは、人間性や倫理観の欠如が原因になっているように感じられるからです。今後、成蹊の恵まれた環境を十分に活かしながら、幅広い教養と豊かな人間性を育む全人教育を堅持してほしいというのが、私の願いです。その意味で2010年度からの「成蹊教養カリキュラム」には大いに期待しています。

成蹊会注釈

この特別対談は、平成21年3月23日(成蹊学園建学の日)に発売された週刊「AERA」に学園の広告(有料)として掲載されたものです。
成蹊学園ご出身のお二人が、OBと学長という各々の立場から、現代にふさわしい成蹊の教養教育の取り組み方等について対談されています。卒業生の皆さんにも大学の新たな取り組みを知っていただきたく、今回、転載いたしました。尚、ここには書かれておりませんが、この成蹊教養カリキュラムには桃李成蹊科目として、成蹊の理念、教育方針、成蹊の歴史といった内容の授業も予定されております。



都心乾燥 もや減った

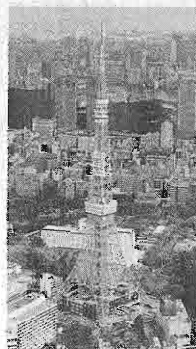
郊外から

東京郊外からの東京タワーの見え方に異変が起きている。半世紀近く富士山と東京タワーの目視観測を続けている成蹊中学・高校（東京都武蔵野市）の気象観測所によると、ここ数年、富士山を望める日数に大きな変化はないが、東京タワーの見える日が急増したという。観測所では、都心のヒートアイランド現象が影響しているとしている。

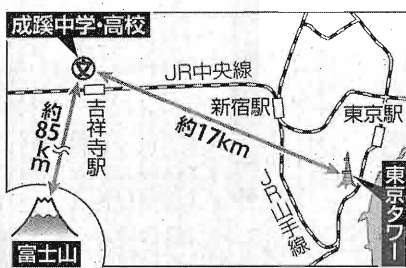
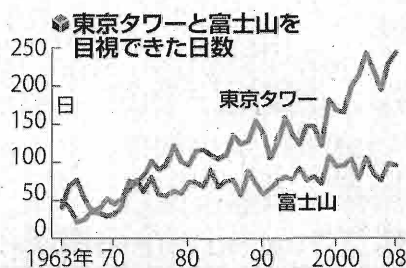
成蹊中・高が観測50年



成蹊中学・高校の校舎屋上から見える東京タワー（中央）。黒い横筋は電線（2009年1月14日撮影）



昨年、最多244日 70年代は100日



見える日急増

同校では関東大震災の後の1926年、教師や生徒が気象観測を開始。42年に管区气象台の補助観測所に指定され、76年にその業務

を終えた後も、教育の一環として観測を続けている。

同校屋上から富士山（南西約85キロ）、東京タワー（東約17キロ）の観測を始めたのは63年1月。毎朝9時、肉眼で見えるかどうかを記録してきた。

観測所の責任者を務める宮下敦教諭（49）によると、63～2008年で目視できた平均日数は、1年に富士山が70・8日、東京タワーは122・5日。ところが昨年は、それぞれ96日と244日で、東京タワーは観測開始以来、最多を記録した。

富士山の見える日数に大きな変化はないが、東京タ

ヒートアイランド現象、エアコンや自動車、アスファルトなど都市部に集中する人工的な要素で引き起こされる気温上昇。冬場は最低気温の上昇といった形で表れやすい。

ワが見える日はここ数年、200日前後で推移。70年代は100日前後で、それに比べると倍に増えている。特に、冬場に見える日が増えたという。

遠くの物がよく見えるのは空気が乾燥してもやが減るため。冬場の太平洋側は、乾いた季節風が吹き込むために乾燥しがちだが、70年代よりも増えているのは、大気汚染が改善されたことに加え、冬のヒートアイランド現象が関係しているとの見方が出ている。例えば、1月の平均最低気温。気象庁によると、こ

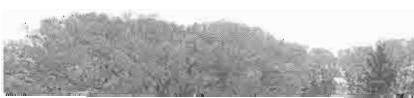
●ここに謹んで哀悼の意を表します●

物故会員

(平成20年11月1日〜平成21年4月16日までにご連絡のあった方を掲載いたしました。
ご逝去の年月日が不詳の方については、確認できている年月のみ掲載しております。)

吉崎 恵次(特別会員)平成21年1月19日	金子謙太郎(旧高18)平成20年8月5日	荒木 瑠璃(女) 21)平成21年1月13日
藤本 吉彦(特別会員)平成21年1月27日	木村 知道(高 9)平成20年8月19日	松井 太朗(高 14)平成21年1月16日
河中 二講(特別会員)平成21年2月5日	神田 洋(政経14)平成20年8月26日	蕪山真理子(文 11)平成21年1月21日
日々 行一(特別会員)平成21年2月20日	小宮 久恵(政経1)平成20年8月29日	川路 俊三(旧高21)平成21年1月28日
船越 経二(特別会員)平成21年3月30日	養田 俊之(高 11)平成20年9月16日	平井 一政(小 36)平成21年2月6日
新井益太郎(特別会員)平成21年4月12日	片山 光雄(政経7)平成20年9月25日	三浦 幹男(旧高24)平成21年2月9日
岡田 明憲(工 4)平成11年8月29日	篠田 秀夫(旧高19)平成20年9月29日	大上 葉子(高 23)平成21年2月14日
武田 規子(工 14)平成15年8月10日	長島 幸子(政経18)平成20年10月13日	吉岡 志郎(政経14)平成21年2月14日
岡野 秀一(工 7)平成16年8月20日	森田 左京(旧高24)平成20年11月4日	小山 謙一(旧高6)平成21年2月18日
志村 和美(経 10)平成17年2月10日	大野 薫也(高 12)平成20年11月5日	嶋田 智之(小 65)平成21年2月23日
小柳 和生(旧高20)平成17年2月21日	松木晃一郎(旧高20)平成20年11月7日	浅賀 博(旧高19)平成21年3月9日
大野 秀行(文 7)平成19年12月5日	羽生 雅彦(政経11)平成20年11月7日	山崎 芳巳(高 2)平成21年3月23日
安雙 久夫(旧高21)平成19年12月26日	高橋 克郎(政経7)平成20年11月8日	滝川 敏子(女 5)平成21年3月28日
山本 靖夫(政経4)平成20年1月2日	井上 烈(旧高14)平成20年11月10日	立松 惣造(旧高16)平成21年4月2日
岩城 謙二(旧高22)平成20年1月6日	滝 貴代(小 18)平成20年11月11日	武部真佐子(女 8)平成21年4月7日
添田 敏明(工 11)平成20年1月20日	佐々木啓介(経 10)平成20年11月19日	小野 吉郎(政経2)平成20年11月
大木 寿子(小 17)平成20年2月10日	向坂なつみ(高 10)平成20年11月21日	馬場 文子(女 18)
白地 恭子(女 20)平成20年2月10日	野田 泰雄(高 9)平成20年11月23日	五十嵐俊次(旧高24)
奥平 成教(旧高22)平成20年3月31日	田中 信義(政経17)平成20年11月29日	中山 明美(文 11)
草野 和雄(高 1)平成20年5月24日	山本 恵章(政経3)平成20年12月3日	
榎本 恒雄(高 4)平成20年6月7日	実 博司(旧高20)平成20年12月8日	
田邊 昇学(旧高24)平成20年6月10日	太刀川瑠璃子(小24)平成20年12月19日	
井上 浩一(工 5)平成20年6月17日	相賀 徹夫(旧高18)平成20年12月21日	
福田 和行(工 14)平成20年7月4日	松本 敏(旧高14)平成20年12月24日	
渡辺 虎年(旧高20)平成20年8月3日	那須 正弘(政経4)平成20年12月30日	

成蹊の風景



退職挨拶

初めてのシンガポール、 インドネシア訪問

理工学部 青木 正喜

成蹊大学アジア太平洋研究センターが発足してから程なくして、センターの運営委員を仰せつかりました。東南アジアにセンターの提携機関調査のためにシンガポール、タイ王国、インドネシア、マレーシアを対象として、第2回東南アジア・大洋州現地調査を行うこととなり、著者と元委員のお立場で柳井道夫先生注)がその任に当たりました。最初の訪問国シンガポールは一緒に訪問し、その後著者はインドネシアを、柳井先生はタイ王国、マレーシアを訪問されました。著者にとって、



シンガポール、インドネシアは初めての経験でした。シンガポールの大学を訪問し、教授の部屋へ案内されると、広い教授室の一角にトイレとシャワーがあり、さすがに暑い気候の国と納得しました。当時、仕事の関係でシンガポールに住んでいた知人と面会したところ、中国系のシンガポール人の部下の結婚式が、翌日あると伺いました。外国の結婚式はどのようにして行われるかに興味が湧きましたので、披露宴に参加出来ないか訊ねたところ、少しお祝いを包めば誰でも歓迎されることでした。柳井先生と相談して2人で参加しました。披露宴は中華料理の店を貸し切って行われました。お客さんは大変多かったのですが、一番驚いたことは、2組の披露宴が共同で行われたことです。ひな壇には2組の新郎新婦とその両親が並んでいました。「ヤームセン」というかけ声と共に乾杯が何回も繰り返されました。インドネシアは1人で行動しました。地方の飛行場では自動小銃を構えた兵士が警備に当たっており、自動小銃の実物をま近で見たのは初めてでした。大学の訪問を終えて帰る段になると、

訪問先の教授から予定していた飛行機をキャンセルして、タクシードジャカルタへ帰るように強く勧められました。教授からタクシード運転手さんに指示をして頂き、丘の上の尾根伝いの道を数時間かけてジャカルタまで戻りました。タクシードに乗ったおかげで、現地の方の生活をま近に見ることができ大変参考になりました。道中、道路のすぐ脇に大砲が設置され、向こうの丘に設置してある標的に向けて、軍隊が実弾で射撃訓練をしている場面に遭遇しました。それまで車の外にカメラを向けていたのですが、あわてて引込みました。運転手さんには英語は通じませんでした。途中でトイレに行きたくなり、身振り手振りで伝えたところ、運転手さんの知人の家とおぼしき家に案内されました。トイレは家の中の隅の高さ50cm程度の囲いの中にあり、広さは約1・5m四方でした。水のはいつた桶が置いてあり、手動の水洗でした。



ジャカルタに帰ってから予定が一日開いていましたので、有名なボゴールの植物園を訪問しました。世界一大きな花「ラフレシア」があると聞いていたのですが、残念ながら時期外れで花を見ることはできませんでした。園内は大変広く、植物の種類も多かったです。特に竹の種類が多かったことが印象に残っています。また高い

木の上に、果物を食料とするフルーツバット(コウモリ)が多数群れを成していたのも興味を引きました。
注)元成蹊大学学長、元成蹊大学アジア太平洋研究センター所長

教育と研究三十八年

理工学部 石郷岡 猛

本年三月を以て三十八年間に在職した成蹊大学を以て出度く定年退職した。これに、本学の学生として学んだ九年間(学部四年、修士二年、博士三年)を加えると四十七年、さらに、成蹊中学・高等学校で学んだ六年間を加えると五十三年になる。半世紀を超えてこのキャンパスに通った事になり感慨も一入である。

思い起こせば昭和三十七年四月、高校卒業と同時に新設成った工学部に第一回生として入学した。第一回生というものはそう簡単に成れるものではな



ば昭和三十三年四月、成蹊大学に新設成入学した。第一回生というものはそう簡単に成

理工

究三

物に食料味を引き味を引字長、元一所長

いと言う当時成蹊高校担任の藤平恒三先生のお勧めに従い入学した事を思い出す。

工学部では電気工学科に入学した。一回生だった事もあり、当時の教授陣には全力を挙げて教育に当たって頂いた記憶が強い。特に、福田節雄、浅見義弘、水上憲夫、豊田淳一の各先生には大変にお世話になった。正に手塩に掛けて育てて頂いたと今でも感謝の念に堪えない。また、福田節雄先生ご他界後専任として着任された鳳誠三郎先生にはご自身が旧制成蹊高等学校のご出身であった事もあり、博士論文の審査を初めとして多大なご恩を受けた。大学卒業と同時に大学院修士課程が出来た。また、修士課程修了と同時に博士課程が発足した。いずれの段階でも当時の主任教授浅見義弘先生に呼ばれ、「君は一回生でもあり、いずれ大学に残って後進の指導に当たって貰うから」という事で、大学院進学を勧められた。そんな訳で、大学院博士課程修了後、直ちに工学部電気工学科に助手として奉職し、以来、講師、助教授、教授として後進の教育に当たる事になった。

本学の教員としての三十八年間を振り返ると、何と言っても教育に力を注いできたと言いたい。特に工学の分野に於いて研究は教育と一体のものである。卒研究生や大学院生と共に実

験し深夜に及ぶ事がしばしばであった。これも師弟同行という成蹊教育の精神の発現したものであろう。振り返ると共に苦労した学生達の顔が臉に浮かぶ。先生というものは成績の良い学生ばかり可愛いというものではない。卒業単位ぎりぎりという学生達も沢山いたが、皆気だての良い学生ばかりで、何としても卒業させてやりたいと全力を挙げて援助した事が懐かしく思い出される。

このような自分の教育スタイルは自分が学生として受けた教育をそのまま受け継いだものではないかと思っっている。良い教育を受けると言うことくらい幸せな事はなく、しかもこれは次の世代へと再生産されるものだと思う。なお、卒業生を代表して母校に教授として残っているという立場にとつて、卒業生の世話をする事は大切な仕事であると常に自分に言い聞かせてきた。電気系卒業生の同窓会である蹊電会の世話、また、成蹊高校同期の会である蹊卓会の世話などもさせて頂き、些かの貢献が出来たかと思っっている。

以上、振り返ると、良き師、良き学生、良き同僚、良き級友に支えられての三十八年間であり、自分ほど幸せな教師生活を送れた者は居ないのでないかと心から感謝している。

個性豊かな学生たちと触れ合えて

理工学部 三角 正明

38年間で個性豊かな多くの学生と触れ合えたことは、真に幸せであった。記憶に残る卒論を提出した学生には、

自分でテーマを選んだ学生が多かった。自動車の鋼板についての調査研究を

したいと言ってきた学生は、徹底的に調べ上げ、まとめて、なんと、厚さ12cm(1000ページ以上)の卒論を出してきた。彼は、今や鉄鋼メーカーの工場長として活躍している。

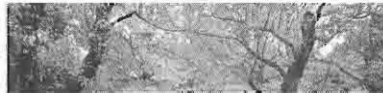
また、ある学生は、木材と強度の関係について研究し、神戸の大震災の後で、木材の強度基準が改められたのに対応して、杉の引張圧縮強度を統計的に調べ、破損モードの面白い分類結果をまとめ上げた。卒論審査会で、第2



位の成績を取った時のその学生の喜びを爆発させた様子は、忘れられない。その他、卒業以来今日まで、連絡を欠かしたことがない学生もいる。多くの楽しい若者と触れ合うことができ、新しい考え方や、率直な疑問に触発され、私自身も学ぶことが多かったのが、嬉しいことであった。

取った時様子は卒業以来触れない有と触れ方や、率力や、率も学ぶこであった

成蹊の風景



成蹊会学術・教育助成事業 研究助成報告の要旨

生活保護制度の地域格差の分析

経済学部 丸山 桂

高齢化や経済不況の影響を受け、国民の最低生活を保障する生活保護制度の受給者は、増加の一途をたどっている。厳しい財政事情を反映し、生活保護制度はここ数年、給付水準や国と地方の財政負担割合、被保護者の自立を促す自立支援プログラムの策定などが議論されてきた。生活保護制度は、地域格差が大きく、保護率（人口千人に対する受給者数の割合）は、2006年度で全国平均では11・8%だが、都道府県別に見ると、もっとも高い大阪府の25・1%からもっとも低い富山県の2・3%まで大きな差がある。本研究は、生活保護制度、なかでも自立支援プログラムの効果の地域格差について分析を行ったものである。

三位一体改革のもと、経済財政諮問会議では、こうした保護率の地域格差の要因を、財政負

担の少ない地方自治体が安易に生活保護の受給を認めているのではないか、より厳正な制度運営のためには、生活保護の国庫負担の割合を見直すべきではないかという問題意識が提示された。結局、この国庫負担の見直しは見送られたが、先行研究では保護率の地域格差は、高齢化や離婚率（経済的に脆弱な母子世帯が多い）や産業構造（旧炭坑地域や遠洋漁業の不振）、失業率の上昇など、地域固有の要因が大きいことが明らかになっている。

日本では、生活保護制度を経済的給付だけではなく、自立を促すべきという考え方から、被保護世帯と直接接している地方自治体が、被保護世帯の現状や地域の社会資源を活用して被保護者の自立・就労支援のために活用すべき「自立支援プログラム」を策定し、支援をすることとなった。このプログラムは、経済的自立に関するプログラム（就労支援や中学生の高校進学支援など）や日常生活自立に関

するプログラム（生活習慣改善や債務整理など）や社会生活支援に関するプログラム（社会支援活動など）で構成されているが、どのプログラムを策定するかは自治体の裁量が大きい。

本研究では、厚生労働省調査による福祉事務所の別データをを用いて、自立支援プログラムの進捗状況の地域格差を分析した。その結果、経済的自立に関するプログラムのうち、特にハローワークとの連携で経済的自立を果たすプログラムでは、対象者がほとんどいない福祉事務所が多く、就職に到る割合も失業率や有効求人倍率の影響が大きいうことが明らかになった。また、ケースワーカーの他に独自に就労専門員を配置している福祉事務所は、そうでない事務所より、より大きな成果をあげていることも分かった。また、日常生活や社会生活に関するプログラムは、未策定の福祉事務所が多く、また策定されていても参加者が0人である福祉事務所が多く、課題は山積している。

末筆になるが、本研究の機会を与えていただいた成蹊会に厚くお礼を申し上げる。

超高エネルギーでの ニュートリノと核子の 散乱

理工学部 近重悠一

本研究はニュートリノ天文学の基本的物理量であるニュートリノと核子（陽子あるいは中性子）の散乱断面積の計算に関するものである。ニュートリノ天文学とは地球外の天体からくるニュートリノを地球の大量の物質を用いて観測する学問である。

地球から遠く離れた天体が超高エネルギーのニュートリノを放出する可能性がある。さらに超高エネルギーの陽子が宇宙の遠方の天体から放出された場合、宇宙を埋めつくしているビッグバンの名残の極低エネルギーの光子に吸収されてしまい、高いエネルギーのニュートリノを放出する可能性もある。

電氣的に中性であるニュートリノは物質とほとんど相互作用せず通り抜けてしまい、途中の天体や光子の影響を受けない。よって観測できれば、放出天体の同定も可能で、その天体中心の情報をもたらすだろう。光学天体望遠鏡や電波望遠鏡よりこの点で利点がある。しかし、望遠鏡のレンズに相当する部分には巨大な量の物質を用意しなければならぬという欠点もある。

レンズとして、南極の水を使う実験が米国のグループにより現在行われているが、南極には環境保護の観点から関わる人間の数が厳しく制限されている。そこで、私は理工学部の近研、首都大の高エネルギー実験研と共同して岩塩鉱を巨大レンズに使用しないか検討している。

散乱断面積は巨大レンズを構成している核子とニュートリノの衝突の頻度をあたえる。核子は3個のクォークからできていて、ニュートリノとクォークの相互作用はこれまでの研究で精度良く分かっている。核子の運動量は主成分たる3個のクォークがなっているが、低運動量の副成分も存在している。特にクォークを結びつけているグルーオンという粒子が非常に低い運動量では無数あり、その分布もある程度分かるようになってきた。グルーオンの海の中に運動量の大きいクォークが3個並んで走っているというのが最近の核子の描像である。

超高エネルギーニュートリノと核子の散乱断面積に関しては、グルーオンを除くクォーク分布を取り入れて扱っているフェルミ国立研究所（米）の計算値が標準とされてきてこの種の実験計画の基礎になっている。しかし本研究では、現在の核子の描

散乱断面積は巨大レンズを構成している核子とニュートリノの衝突の頻度をあたえる。核子は3個のクォークからできていて、ニュートリノとクォークの相互作用はこれまでの研究で精度良く分かっている。核子の運動量は主成分たる3個のクォークがなっているが、低運動量の副成分も存在している。特にクォークを結びつけているグルーオンという粒子が非常に低い運動量では無数あり、その分布もある程度分かるようになってきた。グルー

散乱断面積は巨大レンズを構成している核子とニュートリノの衝突の頻度をあたえる。核子は3個のクォークからできていて、ニュートリノとクォークの相互作用はこれまでの研究で精度良く分かっている。核子の運動量は主成分たる3個のクォークがなっているが、低運動量の副成分も存在している。特にクォークを結びつけているグルーオンという粒子が非常に低い運動量では無数あり、その分布もある程度分かるようになってきた。グルー

像に基づきさらにグルーオンの効果も取り入れた計算を行った。その結果、超高エネルギーニュートリノと核子の散乱断面積はフェルミ研究所の値の2倍近くになることを得た。もちろんこの数値結果にはまだ検討しなければならぬ点もあるが、これまでの標準値よりは大きくなる。

本研究で本質的に重要な役割を果たしている計算プログラムは近匠教授(理工)が高エネルギー加速器機構と共同開発しているGRACEという素粒子反応の自動計算プログラムである。これなしではグルーオンまで含めた断面積の計算は出来ず、新しい知見を得るには不可欠であった。

旧制高等学校研究― 植民地台湾の「台北高等 学校」を軸として

中学・高校 河原 功

旧制高等学校は植民地台湾にも存在していた。台北高等学校には、教員として下村湖人(校長作家)や林原耕三(漱石門下生)もいたし、生徒では清水護(成蹊中高校長)、浜田隼雄(作家)、中村地平(作家)、岸田實(国会図書館長、辜振甫(財界人)、李登輝(台湾総統)、

邱永漢(作家)も輩出した。

日本人・台湾人双方から構成された台北高等学校はどんな学校であったのか、植民地の高等学校としての特異性はどんなところにあったのか、日本国内の高等学校との相違点はどうだったのか、また官立や私立(成蹊等)の旧制高等学校というネットワークではどうだったのか、大学進学状況や社会的活動は?と疑問が次々と湧いてくる。

その全容を知る手がかりとして、校友会誌『翔風』などの刊行物調査、現在も続いている同窓会「蕉葉会」などを通じて台北高等学校の内情に迫るとともに、日本国内の高等学校との交流を明らかにしていくことを目指した。国内に残っている資料がほとんどないために、主として台湾での調査研究を進めた。



夏季休暇を利用しての第一回

目は国立師範大学(台北高等学校の後身)が所蔵する資料の状況調査だった。歴史学系の呉文星教授(教育史が専門)の斡旋でその資料庫に入れてもらうことができた。蔵書量は期待ほどに多くなく、特筆に価する貴重な資料もない。長年放置されてきたことによる傷みが激しかった。何人ものスタッフがその修復作業を進めていた。残念なことに、台北高等学校に関する資料、例えば校友会誌『翔風』、新聞会発行の『台高』、文芸誌『足跡』などを発見することはできなかった。『翔風』は結局台湾大学と中央図書館台湾分館に一部所蔵されているが、それを合わせても全冊は揃わない。『台高』についてもほとんど残っていないし、『足跡』は台湾で見かけたことがない。

二回目は冬期休暇を利用して、国家台湾文学館(台南)と中央図書館台湾分館(台北)とを訪問した。国家台湾文学館には文学関係の雑誌や図書が続々と寄贈されているのだが、目録が公開されていないので直接訪問して調査する必要があったのである。幸いにして鄭館長の配慮で、禁断の書庫に入れてもらうことができた。やはり、ここでも『翔風』、『台高』、『足跡』は一冊

も発見できなかった。

中央図書館台湾分館を訪問したのは、夏に行ったときに展示中でショーケースに収まっていた手にすることができなかった『翔風』に目を通すためである。画家塩月桃甫が描く表紙絵はすばらしい。『翔風』は日本国内の高校が出していた校友会誌と同様の体裁で、内容的にも大差ない。運動部の活動報告に目を通すと、試合を通じて内地の高校と頻りに交流のあったことが読み取れた。とくに九州への遠征試合が多かった。

このテーマに取り組んでの最大の収穫は、清水護先生にお会いできたことだった。清水先生は台湾生れで、台北高校の第一回卒業生である。東京帝大に進学し、成蹊中高校の校長、そして成蹊大学教授となられ、国際基督教大学で定年を迎えられた。清水先生は英語学者として高名な方であるが、すでに台北高校時代からその才能に秀でていて、『翔風』に英訳の詩を発表していた。たまたま私の持参した『翔風』を手にして、先生はそれに目を奪われながら、英語教師だった林原耕三先生たちに賞賛された思い出を語ってくださった。昨春秋にめでたく百歳を迎えられた清水護先生は、耳が少し遠いが医者にかかることな

くお元気で、記憶力も確かで、話もおもしろい。台北高校での三澤糾初代校長を敬慕しており、また下村湖人へのあつい思いも語ってくださった。なお、生徒思いの三澤校長は結局台湾総督府から疎んじられて免職となり、台湾を離れる。次の校長として下村湖人が就任するが、学内紛争で彼もまた免職となる。高校に入學してきた日本内地からの生徒の横暴ぶりは目に余るものがあったなど、尋常科から進学した清水先生は、具体例を挙げては話してくださいました。清水先生とはまたお会いして話をうかがう必要を強く覚えている。表題に沿った論文を発表するには更に調査が必要だが、今回成蹊会学術・教育研究助成金を頂戴したことで大いに勉強となった。成蹊会に深く感謝申し上げます。次第である。

成蹊中学高等学校生徒 体格・体力調査報告

中高体育科

【目的】本研究は1983年から約10年に1度の頻度で行っているもので、学校・学園、保護者、その他関係各位に本校生徒の体格・体力の現状を全国平均との比較から知ってもらうこと、また今後の体育の授業へのフィ

元気で、

おもしろ
糾初代校
下村湖人
てくださ
の三澤校
ら疎んじ
を離れる
湖人が就
彼もまた
学してき
の横暴ぶ
ったなど
清水先生
話してく
はまたお
必要を強
に沿った
に調査が
学術・教
たことで
成蹊会に
第である

成蹊中学 体格・体力

本研
10年に1
もので、
その他関
格・体力
比較から
今後の体

ードバックを目的として行われた。

【方法】対象は、2000年度(平成12年度)から2008年度(平成20年度)に本校に在籍していた中学・高等学校生とし、身体測定(身長、体重)、新体力テスト(握力、上体起こし、長座位体前屈、反復横とび、持久走(男子1500m、女子1000m)、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げの計8項)の9年間のデータより、学年毎に平均値を算出、全国平均値との比較から学年毎の生徒の特徴を分析した。

【結果とまとめ】中学男子は身長は高いものの、体重は全国平均値並みでやせ型体型、体力に関しては、入学時には極めて低く、3年間で徐々に発達し全国レベルに近づいてきているが、筋力、投能力に劣る。中学女子も身長は高いが、体重は全国平均値並みでやせ型体型、しかし、男子と異なり、体力に関しては入学時より高く、伸び率も高い順調な発達をしている。特に筋持久力、柔軟性、敏捷性、スピードに関してはどの学年においても全国平均値を上回っている。高校男子は身長、体重ともに全国平均値を上回る順調な発育をしている一方、体力に関しては入学時には高いが、伸び率が低

EUによる欧州市民意識育成のための教育

中学・高校 和田一誠

このたび成蹊会からの助成を受ける機会に恵まれ、EUが学校を対象として活動をしている最前線を訪れ、実状の一端を調査することができた。

EUは、経済共同体、政治共同体、に加え、文化共同体の三側面を持つ、というか、三本の支柱によって支えられる組織である。前者二本の柱に関する施策はわが国でもよく知られており、研究対象としてもなじみがあるのだが、三本目の文化共同体を構築するための施策はあまり注目を集めていないようだ。しかし実際に現地へ行ってみると、この超国家的統合機構の永續性を確かなものとする上で文化政策が意外な重みを持っていることに気づくのである。

今回訪問したのはイタリア北部、アドリア海とスロベニア国境に挟まれたごく狭い隙間にある港町のトリエステというところ。ヴェネツィア空港の最寄り駅からローカル列車で東へ二時間ほど行った場所にある。ここにある欧州委員会(EU)の行政機関)所属の広報機関、ヨーロッパ、ダイレクトは学校(小学校から大学まで)での啓蒙活動

く、3年間で徐々に全国平均値並みとなっている。特に全身持久力の伸び率の低下が顕著であり、筋力、投能力に関しては高校の3年間においても向上は見られなかった。高校女子は、身長は高いものの、体重は全国平均値並みでやせ型体型、体力に関しては、入学時から高く、伸び率も高い順調な発達をしているが、筋力、投能力のみ、どの学年においても上回ることがなかった。また、中高6年間で見えた場合、前回(1991年度)の報告と比べ、全体的に体力の向上が認められた他、本校生徒の特色として、①男女ともに身長は全国平均値よりも高く、男子は体重の伸び率もバランスの良い成長をしている。②特に女子の体力の水準が高い。③男女ともに柔軟性、筋持久力、敏捷性の能力は高い。④男子はスピードの伸び率が低い。⑤男女ともに筋力、投能力が劣っている。以上5件が明らかになった。

【課題】保健体育科では今まで以上に体力の維持向上(特に投能力)に取り組んでいくとともに、課題解決に向けたカリキュラム編成や教材研究等に取り組んでいく所存である。

〔本研究の詳細は成蹊論叢第46号に掲載〕

に取り組んでいる。主な活動は、Europe Comes to Your Classroomと称する一種の出前授業である。教員や配付資料一式をワンボックスカーに積み込んで町から村へと授業をしてまわるという草の根活動である。教員対象のセミナーも時々行うとのこと。トリエステでは、この部分の業務は教員として経験を積んできたスタッフが責任者となっていた。将来のEU市民を育成するためには、まず学校教育の場での直接的な働きかけが重要であると考えられているようだ。欧州委員会が作成している指導者用引き書 Youth in Action Programme GuideはA4サイズで一三〇ページある。小学校低学年の子どもたちの絵画コンクールなども行われていて、「みんななかよく」をテーマにしたかわいらしいイラストがほほえましい。

さらに、ここではバルカン半島に近接している地理的条件を活かして、東欧のEU新加盟国加盟予定国の大学生を対象とするセミナー、サマーキャンプを実施している点がユニークで興味深い。サマーキャンプの参加者を、イタリアなどのオリジナル加盟国、スロベニアなどの新加盟国、その他旧ユーゴスラビア諸国などの加盟希望国に分け

て割り振り、キャンプ中は何日も共同生活をし、議論し、一緒に遊び、文化的一体感を育んでいく、ということが行われている。このたびの調査は短期間であったが、ターゲットを絞ったので成果は大きかった。ご援助くださった成蹊会の会員の皆様には大変ありがたく存じております。この場を借りまして厚くお礼を申し上げます。

行列と一次変換の研究

中学・高校 小宮山則信

高等学校の数学で行列を取り扱うようになってかなりの年月が経過している。行列導入時、どの程度まで授業で取り扱うべきかについては議論があった。成蹊では二行二列の行列に関して、行列式、固有値と固有ベクトル、ケーリー・ハミルトンの定理、 n 乗計算などを授業で扱うこととした。しかし、自分の高校時代には学ばなかった行列を高校生にどのように教えるかについて、私はいささかの不安を感じていた。そこで行列導入の前年度に、研究日を利用して出身大学の早稲田の一年次の線型代数の授業に参加させていただき、基礎的な勉強をやり直してから自分なりのテキストを作成することとした。当時の成蹊

り振り、円生活を文化的に、このたびの調査は短期間であったが、ターゲットを絞ったので成果は大きかった。ご援助くださった成蹊会の会員の皆様には大変ありがたく存じております。この場を借りまして厚くお礼を申し上げます。

と一次

中学・

高等学校の数学で行列を取り扱うようになってかなりの年月が経過している。行列導入時、どの程度まで授業で取り扱うべきかについては議論があった。成蹊では二行二列の行列に関して、行列式、ケーリー・ハミルトンの定理、 n 乗計算などを授業で扱うこととした。しかし、自分の高校時代には学ばなかった行列を高校生にどのように教えるかについて、私はいささかの不安を感じていた。そこで行列導入の前年度に、研究日を利用して出身大学の早稲田の一年次の線型代数の授業に参加させていただき、基礎的な勉強をやり直してから自分な

り振り、円生活を文化的に、このたびの調査は短期間であったが、ターゲットを絞ったので成果は大きかった。ご援助くださった成蹊会の会員の皆様には大変ありがたく存じております。この場を借りまして厚くお礼を申し上げます。

をします。教師から与えられた目的が十分な理解のないままに、いわば外から強制される時には、逆にディスプレイは不活発になり、自主性、創造性、探求的態度は育ちません。ですから、いかに子どもたちに気づかれないように、消極的に支援をしていくのみに、教師の腕がかかっているとも言えます。上手にディスプレイを計画するのはとても難しいです。日々精進です。

成蹊小学校英語における効果的なフォニックス指導のあり方

小学校 岡崎啓子

英語の文字とその音韻の関係を教えるフォニックスの指導は、英語教育において欠かせないものです。では、効果的なフォニックスの指導とは、どうあるべきなのでしょう。フォニックス指導は「読み」につなげなければ意味がないという現実を、数多くの調査が示唆しています。フォニックスのスキルだけを文章から切り離して教える方法は成功しないということです。子どもたちが英単語を文脈の中で意味のあるものとして読んでいくために、「フォニックス」と「読み」を関連させる指導が必要不可欠であると考えます。

では、実際にどんな教材を使用して、どのようにして指導していくべきなのでしょう。

まず、リズムのある絵本は、子どもたちが音を聞き、そのスペリングを見てパターンを習得するというプロセスに向いています。Dr. Seussの「The Cat in the Hat」などは、子どもたちもたが、そのユーモア、リズムと音、文字との関連を楽しんで習得することができる良い例です。リズム感、興味を引き付ける内容、魅力ある登場人物、豊富なイラストレーションなどは、子どもたちの語彙を強化していく絵本にとって重要なものです。

2008年10月にOxford社から出版された「Lolly's Phonics」は、イギリスで広く教科書として使用されているOxford Reading Treeと同じ登場人物が活躍するDecodable Phonics Stories（フォニックスの知識を使って読めるシリーズ）です。子どもたちが、身近な場面設定の中で、絵の助けも借りながら、自分たちが身につけたフォニックスの知識を実際のリーディングの中で活かして読むことができるので、自力で英語の本が読めたという自信をつけるのに適切です。同様にScholastic社から出ているScholastic Decodable Readers (100% controlled)、それよりも多少sight wordsがふくまれているPhonics Readersなども、ストーリーを楽しみながら系統的にフォニックスの知識を使い、子どもたちの読む力を高めていくことができるシリーズです。

来年度より、現在一部の学年で実施しているフォニックス指導を全学年に広げますが、各学年で指導するフォニックスの知識を使って読める絵本を副教材として選び、授業の中で音読する活動を取り入れていきたいと考えます。また、将来、各学年のワークスペース等に、子どもたちが好きなシリーズを手にとって一人で読めるコーナーを設けることも効果的ではないかと思っています。子どもたちが、身につけたフォニックスの知識を実際の読みにつなげ、英語を読むことを楽しめる環境作りに努めていきたいと考えています。

効果的な水泳指導に関する研究

小学校 永野 徹

今、首都圏の小学生のあいだでは6割以上の小学生がスイミングスクールを経験したことがあると言われています。この数字は他の習い事と比べると、最

も多い数となっています。

実際に今年入学した成蹊小学校の1年生にアンケートをとってみると、すでに9割以上の子どもたちがスイミングスクールに現在も通っているか、または経験がありました。ただその一方で、当然、水泳の授業がはじまると、水慣れのできていない1年生の子どももいるわけです。成蹊小学校では6年生の夏の学校で1500mの遠泳をおこなっていますが、ここで完泳することが子どもたちにとっての大きな目標となっていて、これも「経験率9割以上」に少し関わっているように感じます。

本来であれば、小学校の6年間で終了した段階で4泳法（クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ）の基本的な泳法が身につく、また、遠泳で完泳できる泳力が身につけているようになることが目標となっていますが、中にはそれ以上のものを6年生になる前に身につけている児童もいました。

では、このような状況の中で、どのように子どもたちに指導していけば効果的な水泳指導につながるのでしょうか。現在では、生涯スポーツとしているいろいろな年代で水泳が親しまれていることも関係しているせいか、速く泳ぐことよりも、ゆっくり長く泳ぐことを好む人たちが増えて

いるように感じます。そのためには、力強いプルやキックは必要なく、リラククスして、大きく、きれいなフォームで泳ぐ泳ぎ方を身につけることが大切になるのではないのでしょうか。

実際に、同じ体育科の横田誠仁氏がおこなった授業実践の中で面白いデータを見せていただきました。6年生の平泳ぎの授業のなかで、1本目は普通に25mのタイムを計測し、2本目に伸びを意識させた大きなストロークで泳がせ、同じく計測をおこないました。結果をみると、ほとんどタイムが変わらないのです。実際に自分自身でも泳いで計測をおこなってみると、平泳ぎ50mで約1秒強しか遅くなっていないでした。そして、タイムはそれほど大きく変わらないのに、泳いだ後の心拍数は伸びを意識して泳いだほうが約10〜20拍/分ほど少ないという結果でした。2つの平泳ぎの泳ぎ方を比較して、スピードが大きく変わらなないのであれば、伸びを意識した大きなフォームでの泳ぎ方を指導していくことが効果的であるといえるのではないのでしょうか。今回のこの研究をきっかけに、今後もさらに水泳指導について研究を深めていきたいと考えています。

ことを好ように感じ、力強い、きれいな泳ぎ方を身につけるには、実際に、同じくおこなったストロークで泳がせました。6年生の平泳ぎの授業のなかで、タイムを計測し、2本目に伸びを意識させた大きなストロークで泳がせました。結果をみると、ほとんどタイムが変わらないのです。実際に自分自身でも泳いで計測をおこなってみると、平泳ぎ50mで約1秒強しか遅くありませんでした。そして、タイムはそれほど大きく変わらないのに、泳いだ後の心拍数は伸びを意識して泳いだほうが約20拍/分ほど少ないという結果でした。2つの平泳ぎの泳ぎ方を比較して、スピードが大きく変わらなないのであれば、伸びを意識した大きなフォームでの泳ぎ方を指導していくことが効果的であるといえるのではないのでしょうか。今回のこの研究をきっかけに、今後もさらに水泳指導について研究を深めていきたいと考えています。

● 成蹊会事務局からのお知らせ ●

● 平成21年版会員名簿作成にかかわるお知らせとお願い

「成蹊会会員名簿」は平成17年度に施工された「個人情報保護法」への対応を見極めるため、しばらく発行を中断いたしておりました。その間、多くの会員の皆様から、名簿発行のご要望が強く、また、多数ございました。「個人情報保護法」に従った上で皆様のご要望にお応えすべく、各種検討を重ねた結果、本年度、5年ぶりに会員名簿を発行する事とし、準備作業を開始いたしました。

今回は従来の冊子版だけではなくCD-ROM版の発行も検討いたしましたが、セキュリティの確保に十分な自信を持ってませんでしたので、前回同様、冊子版（A4全学校/全学部合本版）のみの発行といたしました。

この平成21年版会員名簿は本年度(21年度)の会費を納入済みの会員の方々には、無償で、今年度中(平成22年3月まで)に送付する予定でございます。

会員の皆様には、総会の出欠と同時に名簿掲載事項を確認する返信はがきを同封しております。

お手数ですが必要項目にご記入の上、速やかにご返送いただきますようお願いいたします。

(注) 名簿記載事項変更のお申し出は、8月末日をもって、締め切りとさせていただきます。

なお、個人情報の保護に関しましては個人情報保護法を遵守し作成いたしてまいります。

会員のみなさまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

・名簿への「不開示」を希望される場合の手続きについて

「成蹊会会員名簿」の掲載項目は、氏名(旧姓名)、クラス、ゼミ、進学先、勤務先、郵便番号、住所、電話番号、勤務先名となります。住所、電話番号、勤務先に関してのみ名簿への不開示の対応をいたします。不開示をご希望の方は、返信はがきの名簿掲載可否欄の「否」に○印をしてください。「不開示取り扱い」となります。上記3項目以外の「不開示取り扱い」は会員名簿の性格上、ご要望に沿いかねますので、ご了承下さい。

(注) 不開示取り扱いを申し出られた場合でも成蹊会内の名簿(データベース)上では住所等をきちんと管理させていただきますので、住所不明とはなりません。

なお、不開示のご希望がない場合は、すべての項目を掲載させていただきますので、ご了承ください。

・名簿の取り扱いについては、くれぐれもご注意ください

ご自宅や職場に商品取引や投資への勧誘の電話やDMが送りつけられ、迷惑している方があるとお聞きます。個人情報の漏洩が社会問題化している昨今、会員の皆様におかれましては、名簿の取り扱いについて、くれぐれもご注意くださいようお願いいたします。なお、成蹊会では、総会出欠回答ハガキの「名簿資料届」や成蹊会ホームページ上の「住所勤務先変更届」では勤務先電話番号のお届けをお願いしていますが、今回のように定期的に成蹊会が作成する『成蹊会会員名簿』には、勤務先の電話番号は一切掲載しないようにしております。

・旧名簿の処分も慎重にお願いいたします

旧名簿がご不用になった場合も、お手数ですがその処分は、例えば破棄・焼却するなど慎重にお願いします。破棄・焼却が困難な場合や、送付した名簿が一家で一冊でよい等ご不用の場合には、成蹊会で処理しますので、今回の名簿の梱包をご利用(裏に折り返すと、送信用になります)の上、郵便(郵パック)または宅配便(クロネコヤマト・佐川急便など)で成蹊会宛てにご返送ください。(恐縮ですが送料はご負担願います。)

ご注意下さい

外部出版社からの卒業生名簿発行案内や調査カードは成蹊会および成蹊学園とは一切関係ございません。

外部の出版社から学園の卒業生名簿の発行案内とそれに伴う住所・勤務先等の調査ハガキが会員の皆様のお手元に郵送されてくるケースがあるようですが、これは名簿出版業者等の売り込み行為であって、成蹊会、成蹊学園とは一切関係ございません。

このような場合は返信先を必ずご確認ください。

成蹊会事務局からお願い

・成蹊会誌への掲載について

成蹊会誌上への会員皆様からの文章掲載についてはご寄稿いただいたそのままを掲載してまいりました。

しかしながら、最近、同窓生・学園に不快の念を抱かせるような文面も頂くようになりました。

今後このような文面につきましては、成蹊会事務局にて判断し、掲載しない場合もあります。

あらかじめご了承下さい。

成蹊会事務局からお願い

成蹊会誌への掲載について

成蹊会の母校支援事業にご協力を

本会は成蹊学園創立(1912年)以来の卒業生団体であり、昭和30年社団(公益)法人となり、それ以来下記のとおり、母校の学生・教員への支援を事業として行っております。

何卒ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

1. 育英奨学事業 (基金 22,328万円・平成20年度実施額 1,776万円)

昭和31年以降、育英奨学制度を設け、成蹊中学生・高校生・大学生(大学院生を含む)を対象に毎年奨学金を貸与しております。社会の要請に対応したより良い奨学金制度を目指しながら、この事業の拡充に努めております。現在の貸与額は大学生は年額60万円、中・高校生は年額48万円です。

平成20年度は中学生1名、高校生1名、大学生26名、大学院生2名に貸与しました。

2. 学術・教育助成事業 (基金 4,735万円・平成20年度実施額 250万円)

昭和49年以降、学術・教育助成制度を設け、小学・中学・高校・大学の教員に研究助成金を、小学校に教育振興助成金を贈呈しております。また、平成2年度より成蹊会学術賞を設け、学術研究上顕著な業績をおさめた成蹊大学の教員に対して賞状と副賞(賞金)を贈呈しております。

3. 国際交流事業 (基金 2,750万円・平成20年度実施額 90万円)

昭和50年以降、国際交流基金を設け、成蹊高校とアメリカ、オーストラリアの高校との交換留学生交流諸費に充てております。日本の国際的地位の向上とともに、真に国際的に通用する人物の育成に寄与したいと考えております。

4. スポーツ振興事業 (基金 2,566万円・平成20年度実施額 213万円)

平成2年度よりスポーツ振興基金を設け、小学・中学・高校の体育施設やクラブ活動の充実と大学体育会所属団体の支援のため助成金を贈呈しております。また、優秀な成績をあげた成蹊学園のスポーツ団体及び個人に後援金を贈呈しております。

5. 文化振興事業 (基金 3,774万円・平成20年度実施額 558万円)

平成12年度に旧「谷岡基金」の全額を移して文化振興基金を設け、成蹊学園の支援を得ての「成蹊桜祭」の実施及び大学の櫻祭、中・高校の蹊祭、大学の文化団体に後援金を贈呈しております。

○各事業の助成実績

単位：万円

	育英奨学事業	学術・教育助成事業	国際交流事業	スポーツ振興事業	文化振興事業	合計
13年度以前	21,951	6,585	1,485	1,395	932	32,348
14年度	1,860	280	90	156	430	2,816
15年度	1,788	340	90	159	443	2,820
16年度	1,788	290	90	171	458	2,797
17年度	1,440	340	90	*557	486	2,913
18年度	1,776	290	90	171	515	2,842
19年度	1,788	340	90	178	593	2,989
20年度	1,776	250	90	213	558	2,887
合計	34,167	8,715	2,115	3,000	4,415	52,412

* 高校ラグビー部全国大会出場支援募金額385万円を含む

上記の各事業は、ご寄付、基金から生じる運用収益金、及び基金そのものを取り崩すことにより賄われております。これらの事業の健全な発展のため、卒業生・ご父兄並びに関係法人のご高配を切にお願い申し上げます。

- 上記基金のいずれかをご選択(各基金1口1万円以上)ご指定いただければ、当該基金に繰入れさせていただきます。
- 巻末の払込用紙(ご寄付金用)をご利用下さい。
- ご寄付金に対する税法上の優遇措置はございませんのでご了承下さい。
- 本件についてのお問い合わせは成蹊会にお願いいたします。

〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1 電話 0422-51-2244 社団法人 成蹊会

ます。これらの事業の健全な発展のため、卒業生・ご父兄並びに関係法人のご高配を切にお願い申し上げます。

- 上記基金のいずれかをご選択(各基金1口1万円以上)ご指定いただければ、当該基金に

平成20年度 寄付金芳名録

❖ ご寄付金を寄せられた個人・団体・法人の皆様に厚く御礼申し上げます。❖
(敬称略)

寄付金総額 2,657,634円 (平成20年4月1日～21年3月31日)

◇**基金別寄付金明細** (個人32名・14団体・1法人)

育英奨学基金 340,000円 (10名・1団体)

10万円 山本 孝一(経 19) 遠藤 浩文(法 15)
3万円 河目 堯介(旧高20) 中村清一ゼミ(清和会)
2万円 太田 三恵(小 19)
1万円 加藤 和子(文 5) 小林 慎也(経 18) 竹内カヨ子(政経14)
前田真理子(文 2) 山家 茂子(政経16) 匿名

学術・教育助成基金 50,000円 (4名)

2万円 飯口 威一(工 18)
1万円 竹内カヨ子(政経14) 前田真理子(文 2) 匿名

国際交流基金 1,060,000円 (7名)

100万円 故 竹内克之
1万円 小林 慎也(経 18) 鈴木 直志(工 35) 関島 昌信(プ 12) 部谷 宣之(工1)
前田真理子(文 2) 匿名

スポーツ振興基金 135,000円 (5名・1団体)

5万円 土田 士朗(経 18)
3万円 小田部 裕(経 3)
2万円 松浦 隆三(政経16)
1.5万円 成蹊大学体育会本部
1万円 前田真理子(文 2) 匿名

文化振興基金 120,000円 (3名)

10万円 高木 桂三(プ 9)
1万円 前田真理子(文 2) 匿名

一 **般 寄 付 952,634円** (個人3名・12団体・1法人)

一世印刷(株)	100,000円
石橋 法子	4,000円
成蹊高等学校卒業45周年同窓会	125,419円
成蹊高等学校卒業40周年記念同窓会	75,000円
成蹊高等学校卒業30周年記念同窓会	121,921円
成蹊高等学校卒業20周年記念同窓会	155,702円
成蹊高等学校卒業10周年記念同窓会	43,492円
成蹊大学 茶道部	50,000円
大学卒業30周年記念同窓会	53,186円
大学卒業20周年記念同窓会	22,123円
認知工学研究室10周年記念会	20,000円
北京大学短期留学同窓会	20,895円
法学部同窓会(学部創立40周年記念)	100,000円
横山美智子(女 20)	30,000円
匿名 2件	30,896円

八子牛来30周年記念同窓会	33,100円
大学卒業20周年記念同窓会	22,123円
認知工学研究室10周年記念会	20,000円

1. 一般事業

(1) 同窓会活動

① 同窓会支援

ア) 周年同窓会の開催

成蹊会として実施するよう働きかけ支援している10年毎の周年同窓会は、本年度、政治経済学部卒業50周年同窓会を開催したことから、次のとおり、高校、大学とも卒業10周年から50周年まですべて開催となり、定着した。

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| (注) 大学卒業10周年同窓会 (H21.3.14) | 高校卒業10周年同窓会 (H20.10.11) |
| 大学卒業20周年同窓会 (H20.11.1) | 高校卒業20周年同窓会 (H20.9.20) |
| 大学卒業30周年同窓会 (H20.5.24) | 高校卒業30周年同窓会 (H20.11.8) |
| 大学卒業40周年同窓会 (H20.11.3) | 高校卒業40周年同窓会 (H20.12.6) |
| 大学卒業50周年同窓会 (H20.12.13) | 高校卒業50周年同窓会 (H20.4.6) |

また、このほかに

小学校卒業30周年同窓会 (H20.10.25)、高校卒業45周年同窓会 (H20.9.28) の開催を支援した。

(注) 大学卒業10周年同窓会はホームカミングとして、成蹊学園が主催し同窓生を招待している。開催に向けては、同窓生と成蹊会で企画・運営を行っている。

イ) 地域同窓会の支援

本年度は、27ヶ所の地域成蹊会で総会等が開催され、そのうち22ヶ所に会長をはじめ役員が参加し、成蹊会・成蹊学園の現況について報告し、相互コミュニケーションを深めた。特記事項としては、福島成蹊会が5月17日に創立総会を実施、これで成蹊会の無い県は鳥取県だけとなった。

② 催事

ア) 本年度の第48回成蹊会謝恩顕彰は、通常総会第3部懇親会において実施した。対象の方は9名で、うち2名の方の出席を賜った。

(注) 成蹊会謝恩顕彰は、成蹊学園の教職員として30年以上勤務、定年退職、今年満70歳の特別会員が対象

イ) 創業者中村春二先生を偲ぶ枯林忌は成蹊学園と成蹊会の共催で、2月21日(毎年命日である2月21日の直前の土曜日に実施)に春二先生のご遺族と90名余りの同窓生・教職員が参加して、巣鴨の染井霊園での墓参りと三菱養和会会議室での追悼会が行われた。(来年は2月20日(土)に実施予定)

③ 広報活動

会員に成蹊会・成蹊学園の現況を伝えるため、成蹊会誌107号、108号を発刊するとともに、成蹊会ホームページをリニューアルし情報発信・行事周知に努めた。また、本年も引き続き、成蹊学園の現況理解を進めるため広報誌「成蹊学園」の発刊時に同窓生住所を学園に提供し送付に協力した。

④ 会費納入促進

例年通り、総会案内に会費納入用紙を同封して、依頼状を発送し、年末には、H18、19年度会費納入者で、この時点でのH20年度分未納者を中心に依頼状を送付するなどの督促に努めた結果、会費納入者数は9,470名と平成20年度より131人増加し、2年連続で納入者を増やすことができた。(前年比1.4%増)

⑤ 会員管理システムのリニューアル

これまで使用していたオフコンを利用したシステムをパソコンベースのシステムに入れ替え事務効率を改善するとともに、システムリース料を削減した。

(2) 成蹊学園との連携

① 成蹊学園理事会・評議員会への出席

成蹊学園の理事会・評議員会に出席し、成蹊会推薦の役員が、必要と思われる事項について、学園とは積極的に意見交換・意見提起を行った。

これまで使用していたオフコンを利用したシステムをパソコンベースのシステムに入れ替え事務効率を改善するとともに、システムリース料を削減した。

②成蹊学園創立100周年募金への協力

成蹊学園が行っている100周年募金事業には、本年度も募金委員会、募金実行委員会等に委員として参画し学園の活動に協力するとともに、多くの同窓生が募金推進委員となり、募金推進の集い等に積極的に参加し募金意識を高め募金推進に努めた。

③成蹊大学経済学部40周年行事、法学部40周年行事への協力

成蹊大学経済学部40周年記念行事は平成20年11月15日、法学部40周年記念行事は平成20年11月22日に成蹊学園で開催された。開催に向けた準備、記念誌の発行、行事の運営等に各学部同窓生を中心に積極的に協力した。

④学園行事への参加

- ア) 各学校の卒業式、入学式には会長をはじめ成蹊会推薦の理事が参列し、大学の学位授与式と入学式においては会長が祝辞を述べた。
- イ) 成蹊学園が年4回行う地域清掃活動には事務局中心で参加・協力した。
- ウ) 成蹊音楽祭(12月21日)、建学の日行事(3月23日)には、同窓生に呼びかけ、多くの参加を得て、行事を盛り上げることに貢献した。
- エ) 成蹊学園が行う地域懇談会(新潟、長野)の開催にあたっては、成蹊学園の要請に応じて、当該地域成蹊会と連携して開催に協力した。

(3) 会議等

①第53回通常総会

平成20年6月21日(土)に成蹊学園本館大講堂で、820名が出席(うち、出席者137名、委任状提出者683名)して行われた。

平成19年度事業報告・決算報告、平成20年度事業計画・収支予算案、及び成蹊会同窓会規程の一部改正の件が付議され、いずれも原案どおり承認された。

また、総会終了後に政策研究大学院大学教授で内閣特別顧問の黒川清氏による講演会が開催された。

②評議員会・理事会

評議員会は2回、理事会は5回、開催された。

(議事は「成蹊会活動報告」参照)

③特別委員会

各特別委員会は例年通り、決められた活動を行った。平成19年7月の理事会で承認された会長の諮問機関「活動検討プロジェクト委員会」は、「今後の成蹊会活動について」検討し、平成20年12月に会長に答申を行い、解散した。

以上の結果、一般事業費は20,468千円(予算比1,431千円減)であった。

2. 公益事業

(1) 育英奨学事業

本年度は新規の貸与者13名を含め、30名に奨学金を貸与した。貸与総額は1,776万円である。内訳は、中学生1名、高校生1名、大学生26名、大学院生2名である。返済総額は1,478万円であり、本年度は297万円貸与額が増加した。

なお、本年度末の残高は次のとおりである。

H20年度末育英奨学貸与金残高 99,534千円

H20年度末基金残高 223,287千円

本年度は新規の貸与者13名を含め、30名に奨学金を貸与した。貸与総額は1,776万円である。内訳は、中学生1名、高校生1名、大学生26名、大学院生2名である。返済総額は1,478万円であり、本年度は297万円貸与

(2) 学術教育助成事業

本年度は学術・教育研究助成金として大学2件、中・高校4件、小学校4件に210万円助成した。具体的内容は下表のとおり。学術・教育振興助成金として、小学校の教育誌「すもも」の発行費用の一部として40万円を助成した。

H20年度助成額 2,500千円 H20年度末基金残高 47,356千円

職名	氏名(敬称略)	専攻	研究種別	研究課題	助成額(万円)
大学准教授(経)	丸山 桂	社会保障論	個人研究	生活保護制度の地域格差の分析	25
大学教授(理工)	近重 悠一	高エネルギー物理	同上	超高エネルギーでのニュートリノと核子の散乱	25
中学・高校教諭	河原 功	国語	同上	旧制高等学校研究-植民地台湾の「台北高等学校」を軸として	20
同上	中高体育科(代表 土屋嘉彦)	体育	教科研究	成蹊中学高等学校生徒体格・体力調査報告	20
同上	和田 一誠	地理	個人研究	EUによる欧州市民意識育成のための教育	20
同上	小宮山 則信	数学	同上	行列と一次変換の研究	20
小学校教諭	秦 俊也	小学全科	同上	民話研究	20
同上	原口 洋平	小学全科	同上	小学生におけるディスカッションの教育的効果の研究	20
同上	岡崎 啓子	小学全科	同上	成蹊小学校英語における効果的なフォニックス指導のあり方	20
同上	永野 徹	小学全科	同上	効果的な水泳指導の方法に関する研究	20

(3) 国際交流事業

本年度もカウラ高校およびセントポールズ校よりの留学生生活費等、ホストファミリー負担額への一部支援として90万円を助成した。

H20年度助成額 900千円 H20年度末基金残高 27,508千円

(4) スポーツ振興事業

スポーツ振興助成金として、本年度は大学体育会所属10団体に75万円を、中・高校に30万円、小学校に15万円を助成した。

スポーツ振興奨励金として、例年どおり学内陸上競技大会と学内レガッタに合計15万円、テニス部に5万円助成した。また、全国大会レベルの試合に出場した優秀団体4団体、優秀個人7名・4組に合計69万円の奨励金を贈呈した。体育会総会での表彰用の盾等を例年通り寄贈した。

H20年度助成額 2,135千円 H20年度末基金残高 25,665千円

(5) 文化振興事業

本年度も文化振興助成金として、大学の櫛祭、中・高校の蹊祭及び文化会本部に各15万円、新聞会に5万円を助成した。

毎年4月の第一日曜日に実施している成蹊桜祭を本年度は平成20年4月6日に実施した。本年も成蹊学園から300万円の支援を受け、桜祭委員会の周到な準備と現役学生の協力により、多くの同窓生、教職員、現役学生、地域の方々が桜満開の学園での様々なイベントを楽しんだ。また、桜祭で協力いただいた桜募金から、ソメイヨシノの若木を成蹊学園に寄贈することとし、平成19年6月の強風で倒れた桜の木の後に、3年物のソメイヨシノを植樹した。(平成21年3月5日実施。なお、平成22年の第33回成蹊桜祭は4月4日に実施の予定)

H19年度助成額 5,588千円 (学園からの支援金3,000千円を含む)

H20年度末基金残高 37,747千円

以上の結果、公益事業費は28,883千円(予算比216千円減)であった。

3. 成蹊クラブ

本年の成蹊クラブは、定期利用の定着等により、売上はほぼ前年並みであった。

成蹊会からの委託料を減額したことから、収支は△176千円の赤字であった。

正味財産は△539,316円となった。

以 上

3. 成蹊クラブ

本年の成蹊クラブは、定期利用の定着等により、売上はほぼ前年並みであった。

成蹊会活動報告

（自平成20年11月1日
至平成21年4月30日）

一、会議

■理事会

第176回理事会 (21・1・28)

(1) 活動検討プロジェクト委員会答申に関する件

第177回理事会 (21・2・26)

(1) 平成21年度成蹊会事業計画・収支予算(案)の件

第178回理事会 (21・3・30)

(1) 平成21年度成蹊会事業計画・収支予算(案)の件

(2) 名簿発行の件

(3) 評議員定数の件

(4) 理事定数の件

■特別委員会等

総務企画委員会 (20・11・26 / 12・15 / 21・1・8 / 2・3 / 2・18 / 3・14 / 4・21)

学術・教育助成委員会 (21・4・20)

広報委員会 (21・4・28)

桜祭委員会 (20・11・12 / 12・16 / 21・1・22 / 2・28)

推薦委員会 (20・12・7)

活動検討プロジェクト委員会 (20・11・5 / 11・18 / 12・3 / 12・18)

■同窓会委員会

小学校同窓会委員会 (20・12・1 / 21・4・5)

高校(旧制)同窓会委員会 (21・3・25)

中学・高等学校同窓会委員会 (20・11・14 / 21・3・25)

政治経済学部同窓会委員会 (21・2・10)

プレメ同窓会委員会 (21・2・3)

プレメ同窓会総会 (21・4・19)

理工学部同窓会委員会 (21・2・24)

理工学部同窓会総会 (20・11・23)

文学部同窓会委員会 (21・3・11)

経済学部同窓会委員会 (21・2・9 / 3・12)

法学部同窓会委員会 (21・1・30 / 3・26)

法科大学院同窓会新年次委員会 (20・11・13)

大学4学部同窓会幹事長会 (21・1・7)

大学新卒年次委員会 (21・3・17)

■周年行事

大学卒業20周年同窓会 (20・11・1)

高校卒業30周年同窓会 (20・11・8)

大学卒業40周年同窓会 (20・12・3)

高校卒業40周年同窓会 (20・12・6)

大学卒業50周年同窓会 (20・12・13)

大学卒業10周年同窓会 (21・3・14)

■支部・地域成蹊会

徳島成蹊会 (20・11・8) 神奈川成蹊会 (20・11・14)

岐阜成蹊会 (20・11・15) 三重成蹊会 (20・11・20)

タイ成蹊会 (20・11・25) 秋田成蹊会 (20・11・27)

長崎成蹊会 (20・11・29) 上海成蹊会 (21・1・21)

渋谷成蹊会 (21・2・6)

北海道支部「枯林忌の集い」 (21・2・21)

八王子成蹊会 (21・2・21) 埼玉成蹊会 (21・3・14)

讃岐成蹊会 (21・4・18)

二、その他

経済学部創設40周年のつどい (20・11・15)

法学部創立40周年記念講演および記念祝賀会 (20・11・22)

成蹊会理事候補者推薦公示 (20・12・1)

育英奨学金返還説明会 (20・12・16)

成蹊会誌108号 (21・1・1)

第86回枯林忌追悼会 (21・2・21)

成蹊会理事候補者推薦締切 (21・3・31)

第32回成蹊桜祭 (21・4・5)

平成21年7月1日

発行所 社団法人 成蹊会

発行人 相川 一成

企画・編集 成蹊会広報委員会・成蹊会事務局

印刷・製本 株式会社 光 邦

〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1

電話 0422-51-2244

FAX 0422-54-6766

メールアドレス seikeikai@jim.seikei.ac.jp

ホームページ <http://alumnet.ne.jp/>

成蹊会の事業活動は あなたの会費に支えられています



成蹊会は同窓会事業とともに、母校の発展に寄与すべくさまざまな公益事業を行っております。公益事業費は昭和31年に育英奨学事業を開始して以来、事業総額約5億2千4百万円の多きに達しております。これもひとえに会員の皆様の多大なご協力の賜物であります。

しかしながら、これら同窓会事業・公益事業の主要財源である年会費のここ数年の納入状況は、会員数は毎年約3%増加していますが、納入者数・納入率とも減少し憂慮すべき状況にあります。

成蹊会の事業活動の維持発展のため、年会費のご納入になにとぞご協力を賜わりたくお願い申し上げます。

年会費のご納入をご案内する方には、払込人住所・氏名・金額を印刷した払込用紙を同封させていただいております。

年会費のご納入はつぎの3つの方法からご都合に合せお選び下さい。

預金口座振替制度（詳細次頁）を是非ご利用下さい。

年会費ご納入方法	ご納入額	
①預金口座振替	3,000円（1年分）	
②成蹊会DCカード	5,600円（2年分）	成蹊会年会費400円割引。カードご利用額の一部が成蹊会に還元され、事業に活用。お申し込みは成蹊会まで。
③振込用紙	3,000円（1年分）	郵便局に加え、コンビニエンスストアを利用しての振込みが可能です。

住所変更された方は成蹊会へお知らせください

現在会員数約81,600名のうち約18,700名（23%）の方が住所不明となっております。

判型も大きくなり、内容の充実は勿論のこと情報量もますます豊富になりました『成蹊会誌』を一人でも多くの会費納入者にお届けするため、また、周年行事など人的交流の広がり等の役に立てていただくためには、住所・電話番号・姓名等の情報が正確であることが不可欠です。

お届けいただいている内容に変更があった方は必ず成蹊会にお知らせ下さい。（お知り合いの方が住所不明となっておられましたら、ご本人にご連絡をいただくとともに成蹊会へもご一報下さい。）

成蹊会ホームページに住所・勤務先等変更届けがあります。

<http://alumnet.ne.jp/>

*電話 0422-51-2244 FAX 0422-54-6766 でも受付けます。

お届けいただいている内容に変更があった方は必ず成蹊会にお知らせ下さい。（お知り合いの方が住所不明となっておられましたら、ご本人にご連絡をいただくとともに成蹊会へもご一報

年会費の預金口座振替のお願い



成蹊会年会費のご納入につきましては、預金口座振替にてお支払いいただけます。これは年会費を所定日に、ご指定の金融機関の口座から、自動引落としによりお払込みいただくもので、皆様にお手数をお掛けしない便利なものです。是非ご利用下さいますようお願いいたします。

預金口座振替のあらまし

1. お手続きの方法

(1) 本誌終面にある「預金口座振替依頼書」の太枠内の必要事項（会員名、会員番号〈宛名用紙右端の下6ケタの番号〉、預金者名、金融機関名、支店名、口座番号）をご記入いただき、金融機関届出印をご捺印の上、成蹊会までご返送ください。（捺印もお願いいたします。）

(2) ご利用いただける金融機関は、つぎのほぼ全金融機関です。

- 全国都市銀行
- 全国労働金庫
- 全国地方銀行
- 全国農業協同組合
- 全国信託銀行
- 全国信用組合（一部提携外の組合有り）
- 全国第二地方銀行
- ゆうちょ銀行
- 全国信用金庫

2. 預金口座振替の方法

(1) 振替方法 お届けの「預金口座振替依頼書」により、ご指定の預金口座から年会費を自動引落としさせていただきます。

(2) 振替金額 3,000円（1年分——平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）

(3) 口座振替日	振替依頼書受付日	1回目振替日	2回目以降振替日
	1月16日～6月15日	7月27日	
	6月16日～8月15日	9月27日	毎年7月27日
	8月16日～1月15日	2月27日	

● 予め振替日と振替金額をお知らせしますので、口座振替日の前日までにご指定の口座にご入金くださいますようお願いいたします。

(4) 預金通帳の表示 通帳等には「DF・セイケイカイカイヒ」と印字されます。（「三菱UFJファクター」は当会が委託している三菱東京UFJ銀行グループの収納代行会社です。）

「預金口座振替」或いは「預金口座振替依頼書」記入その他何かご不明な点などございましたら、成蹊会（TEL 0422-51-2244 FAX 0422-54-6766）迄ご連絡下さい。

入金くださいますようお願いいたします。

(4) 預金通帳の表示 通帳等には「DF・セイケイカイカイヒ」と印字されます。（「三

第54回通常総会のご案内

日時：平成21年6月20日（土）
11:30～15:30（受付開始11:00）

会場：成蹊学園・本館大講堂（総会）
大学10号館12階ホール（懇親会）

行事：第1部 成蹊会通常総会
第2部 成蹊会学術賞贈呈式
第3部 懇親会
（含 第49回成蹊会謝恩顕彰）

〈成蹊会の事務所が移転しました〉

本館の改修工事の完成に伴い、成蹊会は5月中旬に史料館から本館に移転しました。新しい事務所は本館3階、正面玄関上です。是非お立寄りください。

〈成蹊会の事務所が移転しました〉